

医療保障総合政策調査・研究基金事業

# 医療・介護に関する国民意識調査

報告書

令和5年3月

健康保険組合連合会



## 目次

<b>第1章 調査の概要</b> .....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の方法と内容.....	1
(1)調査方式・調査対象.....	1
(2)調査内容.....	3
(3)調査結果の記載に関する留意点.....	4
<b>第2章 回答者の属性</b> .....	5
1. 居住地域.....	5
2. 同居家族・世帯構成.....	6
3. 職業.....	7
4. 加入している医療保険.....	7
5. 世帯年収.....	8
<b>第3章 特定健康診査・特定保健指導の受診状況</b> .....	9
<b>第4章 医療保険者が提供するサービス</b> .....	12
1. 医療保険者が提供する各種サービスに対する意識.....	12
2. 医療保険者が提供しているサービスに対する満足度.....	14
<b>第5章 医療機関の受診状況</b> .....	15
1. 自身や家族が深夜・休日などに具合が悪くなったときの対応.....	15
2. 傷病による受診の状況、および複数受診の理由.....	16
<b>第6章 「かかりつけ医」の受診状況</b> .....	18
1. かかりつけ医・かかりつけ医療機関の有無と理由.....	18
2. かかりつけ医を決めた理由等.....	20
3. かかりつけ医に期待すること.....	22
4. コロナ禍におけるかかりつけ医・かかりつけ医療機関.....	23
5. 新型コロナウイルス拡大期以降に診療を拒否された経験の有無.....	25
<b>第7章 大規模病院の受診状況</b> .....	26
<b>第8章 オンライン診療の受診状況</b> .....	29
1. オンライン診療の受診経験の有無と背景.....	29
2. オンライン診療に対する考え.....	31
<b>第9章 受診する医療機関の選び方</b> .....	32
1. 医療機関を選ぶ際に参考になっている情報源、欲しい情報.....	32
2. 外来受診のあり方に関する考え.....	34
3. 地域の病院のあり方に関する希望.....	39
4. 入院のあり方に関する希望.....	40
<b>第10章 薬局の利用や服薬の状況等</b> .....	41
1. 処方薬について困った経験の有無・内容.....	41
2. 処方薬の主な受取り場所とかかりつけ薬剤師.....	42
3. お薬手帳の利用状況.....	44

4. ジェネリック医薬品の服用状況	45
5. 薬局・薬剤師への期待とサービス	48
6. リフィル処方箋に関する意見	50
<b>第11章 医療機関等を受診した際の明細書</b>	<b>51</b>
1. 医療機関や薬局における明細書・領収書の受取り状況	51
2. 整骨院・接骨院・鍼灸院等における明細書・領収書の受取り状況など	52
<b>第12章 医療機関や受診のあり方</b>	<b>54</b>
1. 日本の医療の状況に対する満足度	54
2. 医療機関に対する要望	55
3. 受診時や医療保険の手続きの電子化・オンライン化等の認知状況・利用経験・要望	56
<b>第13章 介護サービスの利用状況や要望</b>	<b>59</b>
1. 回答者自身(40歳代以上)および家族の介護の状況	59
2. 介護保険サービスの拡大・充実に関する要望	60
<b>第14章 高齢期の生活・療養場所・終末期医療などに対する考え</b>	<b>61</b>
1. 高齢期に寝たきりになり、介護が必要となった場合に介護を受けたい場所	61
2. 家族・親族などが終末期にどのような医療を受けるかについて決める過程	62
3. 自身の終末期の医療に対する考え	65
<b>第15章 地域医療のあり方に関する考え</b>	<b>66</b>
1. 日本の病床数の多さに関する認識	66
2. 病院の再編・統合についての考え	67
<b>第16章 医療費・介護費の負担とサービスに関する考え</b>	<b>69</b>
1. 医療費や健康保険料の負担感	69
2. 医療保険の給付と負担とのあり方	71
3. 増加する医療費を賄う方法	72
4. 高齢者の医療費の負担のあり方	74
5. 医療保険の保険給付の見直しや患者の自己負担増がやむを得ないと感じる箇所	75
6. 介護費や介護保険料負担、サービス費用の負担感	76
7. 介護保険の給付と負担とのあり方	79
8. 増加する介護費を賄う方法	80
9. 介護保険の保険給付の見直しや利用者の自己負担増がやむを得ないと感じる箇所	82
10. 医療費や介護費の現役世代と高齢者世代との負担の今後のあり方	84
<b>【参考資料】 アンケート調査</b>	<b>85</b>

# 第1章 調査の概要

## 1. 調査の目的

本調査「医療・介護に関する国民意識調査」は、わが国の医療・介護の提供体制及び公的保険制度に対する一般国民の近年の認識や具体的なニーズを広く把握し、今後あるべき方向性を検討するための基礎的な資料とすることを目的に、web アンケート方式による意識調査を実施したものである。

本調査と同種の調査は、平成 19 年、23 年、29 年にも実施しており、今回の調査でも、一般国民の意識の変化を確認するため、過去の調査と比較可能な項目の一部を引き継いでいる。

その一方で、全世代型社会保障構築会議における制度改正の議論動向を踏まえ、▽医療保険制度・介護保険制度の給付と負担のあり方・世代間の負担バランスのあり方、▽かかりつけ医や地域医療構想などの医療提供体制、▽オンライン診療やリフィル処方箋などのトピックス等に対する国民の意識など、新たな項目についても、調査を行った。

## 2. 調査の方法と内容

### (1) 調査方式・調査対象

- 実施方式： インターネット調査
- 実施時期： 令和 4 年 7 月
- 回収数： 3,000 人(モニターに対して調査を配信し、回収が予定数に達するまで実施)

楽天インサイト株式会社が保有する全国モニターから、3,000 人を対象とした。これに当たり、この 3,000 という回収数を、わが国の母集団(令和 2 年国勢調査人口による)の比率に応じて、性別・年齢区分(10 歳階級別、20 歳代～70 歳代)別に割り付けた。回答者(回収設定数)の性・年齢別構成を、図表 1 に示す。

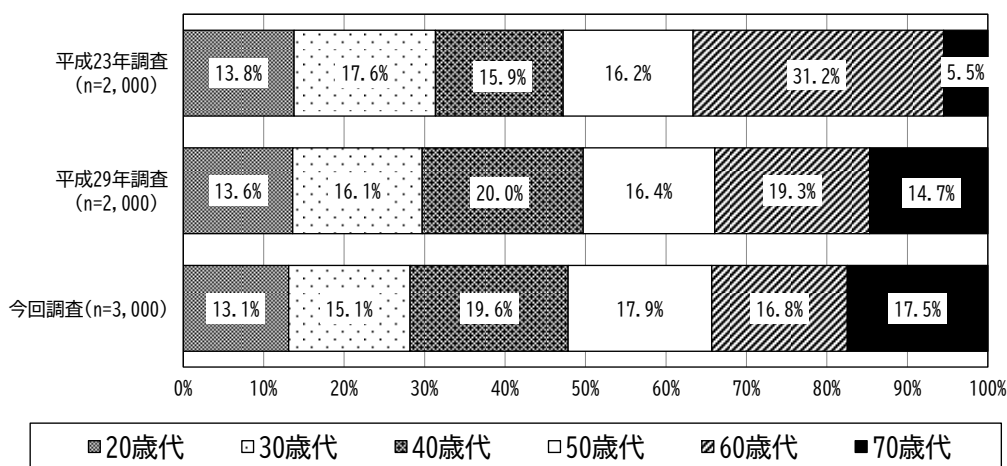
図表 1 回答者の性・年齢別構成

年齢階級	令和2年国勢調査人口		回収数			構成割合		
	男性	女性	男性	女性	男女計	男性	女性	男女計
20-29歳	6,091,956	5,871,314	200	193	393	6.7%	6.4%	13.1%
30-39歳	6,993,886	6,802,275	230	223	453	7.7%	7.4%	15.1%
40-49歳	9,052,436	8,888,934	297	292	589	9.9%	9.7%	19.6%
50-59歳	8,142,306	8,165,027	268	268	536	8.9%	8.9%	17.9%
60-69歳	7,502,963	7,869,495	246	259	505	8.2%	8.6%	16.8%
70-79歳	7,342,146	8,600,577	241	283	524	8.0%	9.4%	17.5%
全年齢の合計	45,125,693	46,197,622	1,482	1,518	3,000	49.4%	50.6%	100.0%

回答者の年齢構成について、過去の調査と比較したものを、図表 2 に示す。日本の高齢化の進展に伴い、同様に性別・年齢別の回収数の割付を行った平成 29 年調査と比べて、今回調査の回答者の年齢構成は高くなっている。

回答者全体における平均年齢は、平成 29 年調査が 50.0 歳(男性:49.6 歳、女性:50.3 歳)であったのに対し、今回調査では 50.6 歳(男性:50.4 歳、女性:50.9 歳)である。

図表 2 回答者の年齢構成



(2)調査内容

区分	調査内容
(モニター登録情報による把握事項)	◇性別 ◇年齢 ◇居住都道府県
①回答者の属性	◇同居家族 ◇職業 ◇加入している医療保険 ◇世帯年収
②特定健康診査・特定保健指導の状況	◇特定健康診査・特定保健指導の認知度、受診状況
③医療保険者が提供するサービス	◇現在受けている/役立っていると思う/医療費適正化に資すると思うサービス ◇医療保険者が提供しているサービスに対する満足度
④医療機関の受診状況	◇自身や家族が深夜・休日などに具合が悪くなったときの対応 ◇入院経験 ◇外来受診の有無 ◇同一傷病による複数医療機関の受診経験
⑤「かかりつけ医」の受診状況	◇かかりつけの医師・医療機関の有無・選び方・期待すること ◇かかりつけ医を持たないことによるコロナ感染拡大下における不安・困難 ◇コロナ感染拡大下における診療拒否の有無 等
⑥大規模病院の受診状況	◇保険外併用療養費を利用しての大病院受診の経験の有無 ◇大病院を受診している/受診しなくなった理由
⑦オンライン診療の受診状況	◇オンライン診療の受診経験の有無・受診経験がない理由 ◇オンライン診療に対する自身の考え
⑧受診する医療機関の選び方	◇医療機関を選ぶ際に参考にしてしている情報・特に欲しい内容 ◇医療機関の受診のあり方に関する意見 ◇事前登録した診療所を経由した専門医療機関受診を原則とした場合の不安
⑨薬局の利用や服薬の状況等	◇処方薬について困った経験 ◇処方薬の受取り場所 ◇かかりつけ薬剤師の認知・利用状況 ◇お薬手帳の利用状況 ◇ジェネリック医薬品の服用経験 ◇薬局・薬剤師に期待すること ◇調剤薬局で受けたことがあるサービス内容 ◇リフィル処方箋に関する意見
⑩医療機関等での明細書等の受取	◇医療機関、整骨院等での明細書・領収書の受取り経験 ◇整骨院等で施術を受けた経験の有無、保険適用範囲の限定に関する認知
⑪医療機関や受診のあり方	◇わが国の医療の状況に対する満足度 ◇医療機関に対する要望 ◇受診時や医療保険の手続時の電子化・オンライン化の認知・利用経験・要望
⑫介護サービスの利用状況	◇本人・家族の介護サービスの利用状況 ◇介護保険サービスの拡大・充実に関する要望
⑬高齢者の生活・療養場所・終末期などに対する考え	◇家族の看取りや終末期医療の意思決定の経験の有無・相談相手・判断材料 ◇自身の終末期医療の受け方に関する意思決定状況・表明方法・相談相手
⑭地域医療のあり方に関する考え	◇日本の病床数の多さに関する認知 ◇病院の再編・統合についての考え
⑮医療費・介護費の負担とサービスに関する考え	◇医療費・介護費の負担感 ◇医療費・介護費の増加抑制の方法 ◇医療・介護サービスの水準維持と医療・介護費の増加抑制のバランス ◇増加する医療費・介護費の財源◇高齢者の医療費・介護費の負担方法

### (3)調査結果の記載に関する留意点

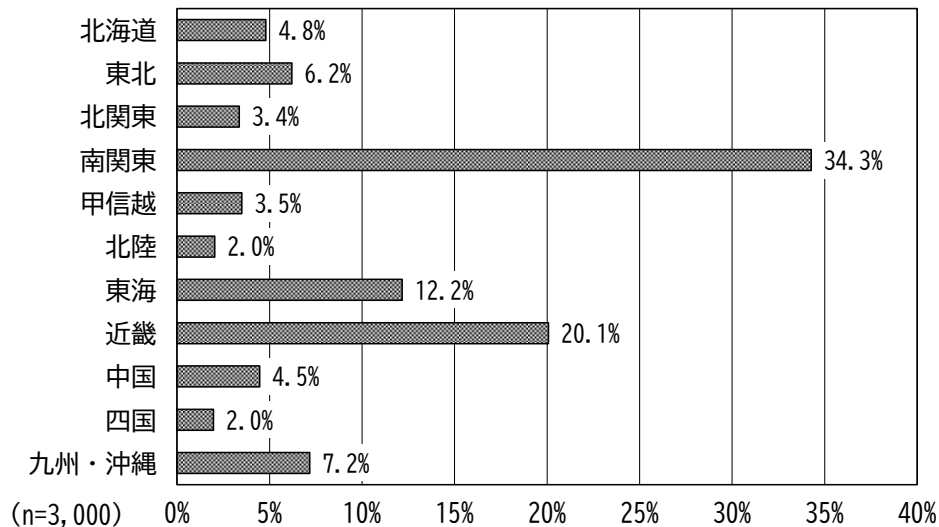
第 2 章以降に掲載の調査結果では、図表中において各選択肢の回答割合を記載し、本文中において、「計〇%」等の表記を用いて、複数選択肢の回答割合の合算値を記載した部分がある。また、端数処理の関係上、本文中の回答割合の合算値が、図表中の各選択肢の回答割合の合計と一致しない場合がある。



## 第2章 回答者の属性

### 1. 居住地域

図表 3 回答者の居住地域【単数回答】

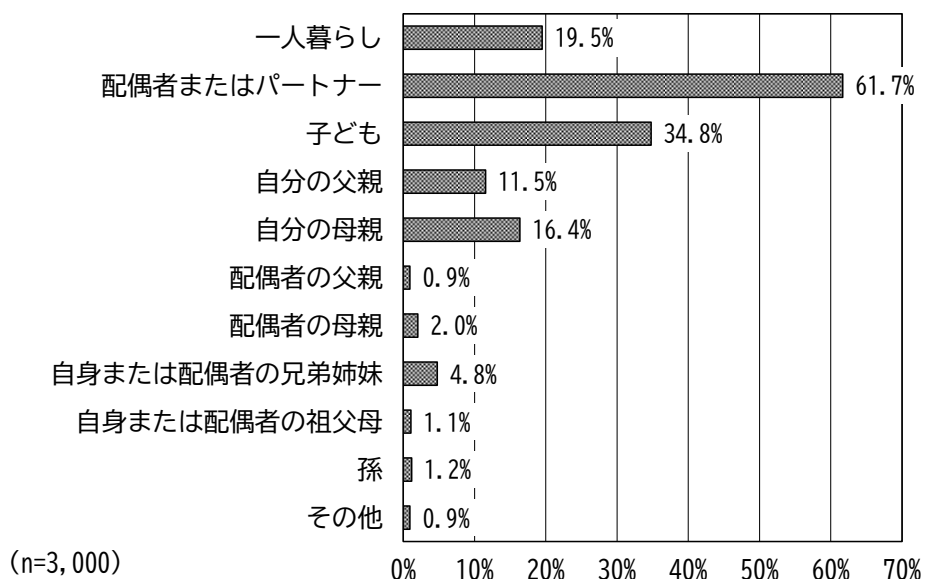


<地域と都道府県との対応>

- ◇北海道 …北海道
- ◇東北 …青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県
- ◇北関東 …茨城県・栃木県・群馬県
- ◇南関東 …埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県
- ◇甲信越 …新潟県・山梨県・長野県
- ◇北陸 …富山県・石川県・福井県
- ◇東海 …岐阜県・静岡県・愛知県・三重県
- ◇近畿 …滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県
- ◇中国 …鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県
- ◇四国 …徳島県・香川県・愛媛県・高知県
- ◇九州・沖縄 …福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県

## 2. 同居家族・世帯構成

図表 4 回答者の同居家族【複数回答】



図表 5 回答者の年齢階級別 世帯構成(上段：回答者数、下段：全体に対する構成割合)

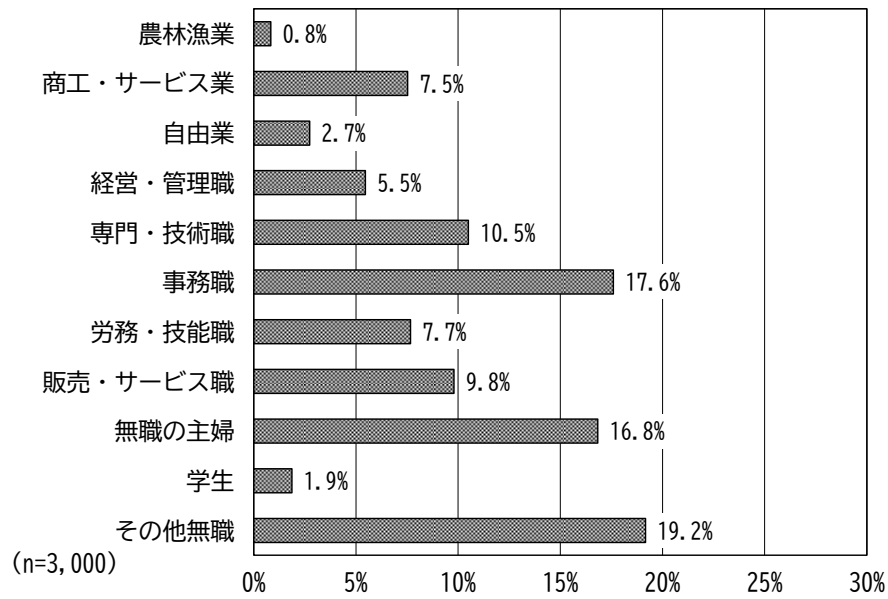
		全体	一人暮らし	同居者あり	うち配偶者のみと同居	うち配偶者及び子のみと同居	うち親・祖父母世代と同居	うちその他の同居形態
全体		3,000	584	2,416	882	793	592	149
回答者の年齢	20～29歳	393	131	262	56	43	155	8
	30～39歳	453	76	377	76	187	106	8
	40～49歳	589	112	477	84	231	141	21
	50～59歳	536	91	445	143	164	112	26
	60～69歳	505	80	425	227	97	66	35
	70～79歳	524	94	430	296	71	12	51

		全体	一人暮らし	同居者あり	うち配偶者のみと同居	うち配偶者及び子のみと同居	うち親・祖父母世代と同居	うちその他の同居形態
全体		100.0%	19.5%	80.5%	29.4%	26.4%	19.7%	5.0%
回答者の年齢	20～29歳	13.1%	4.4%	8.7%	1.9%	1.4%	5.2%	0.3%
	30～39歳	15.1%	2.5%	12.6%	2.5%	6.2%	3.5%	0.3%
	40～49歳	19.6%	3.7%	15.9%	2.8%	7.7%	4.7%	0.7%
	50～59歳	17.9%	3.0%	14.8%	4.8%	5.5%	3.7%	0.9%
	60～69歳	16.8%	2.7%	14.2%	7.6%	3.2%	2.2%	1.2%
	70～79歳	17.5%	3.1%	14.3%	9.9%	2.4%	0.4%	1.7%

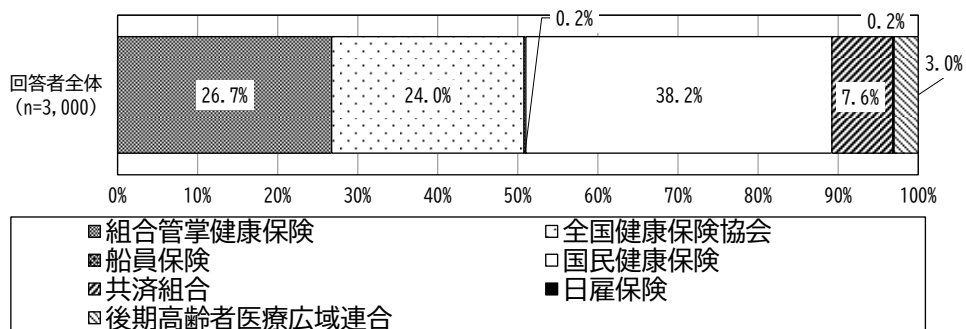
### 3. 職業

図表 6 回答者の職業【単数回答】



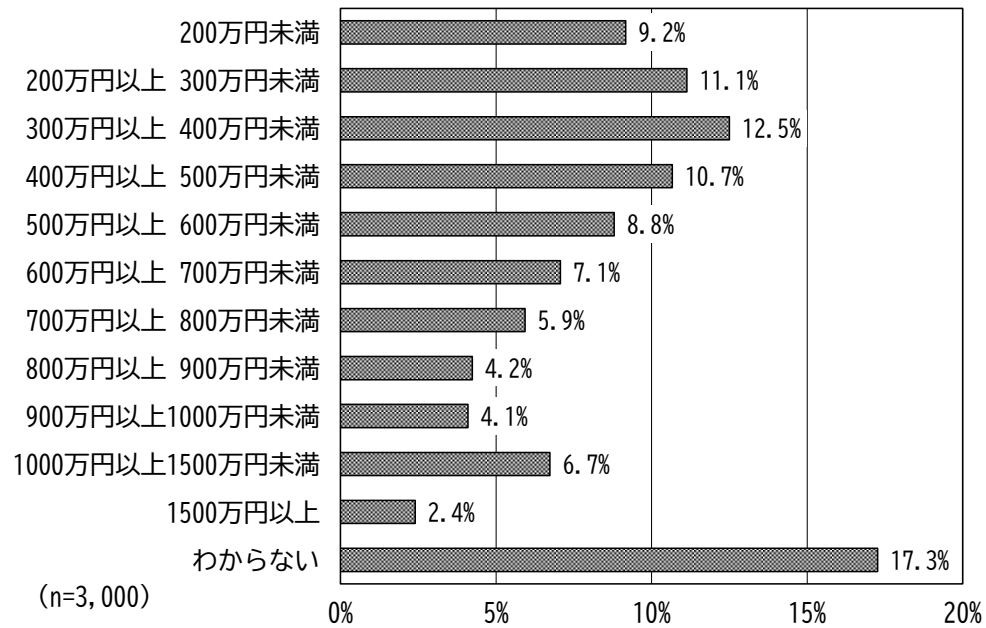
### 4. 加入している医療保険

図表 7 加入している医療保険【単数回答】



## 5. 世帯年収

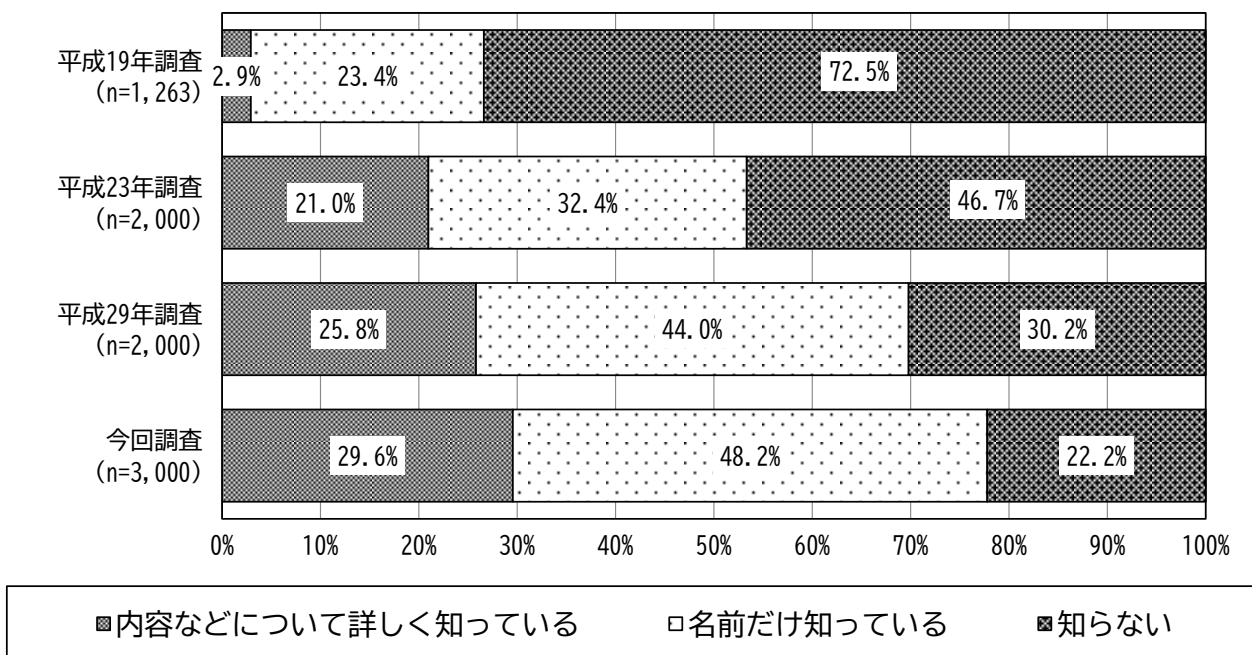
図表 8 回答者の世帯年収【単数回答】



### 第3章 特定健康診査・特定保健指導の受診状況

特定健康診査・特定保健指導は、調査年次を重ねるにつれ「内容などについて詳しく知っている」との回答割合が上昇し、「知らない」との回答割合が下降しており、平成 20 年に開始された特定健康診査・特定保健指導の認知度は、高まりつつあると考えられる。ただし、「内容などについて詳しく知っている」との回答は、依然として 30%に満たない(図表 9)。

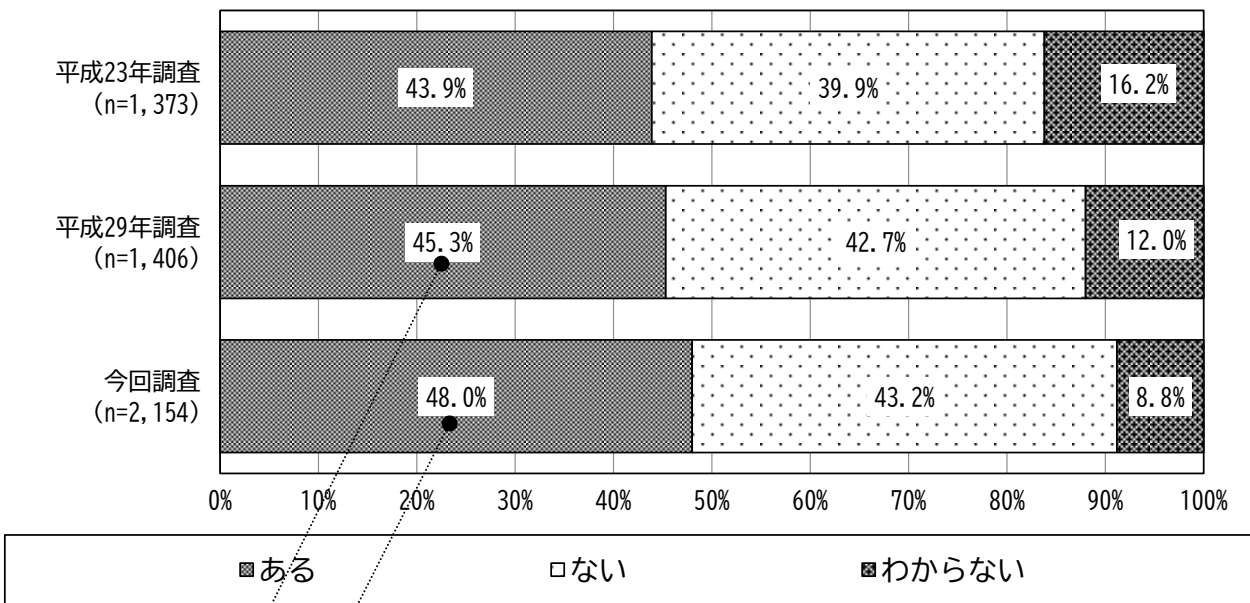
図表 9 特定健康診査・特定保健指導の認知度【単数回答】



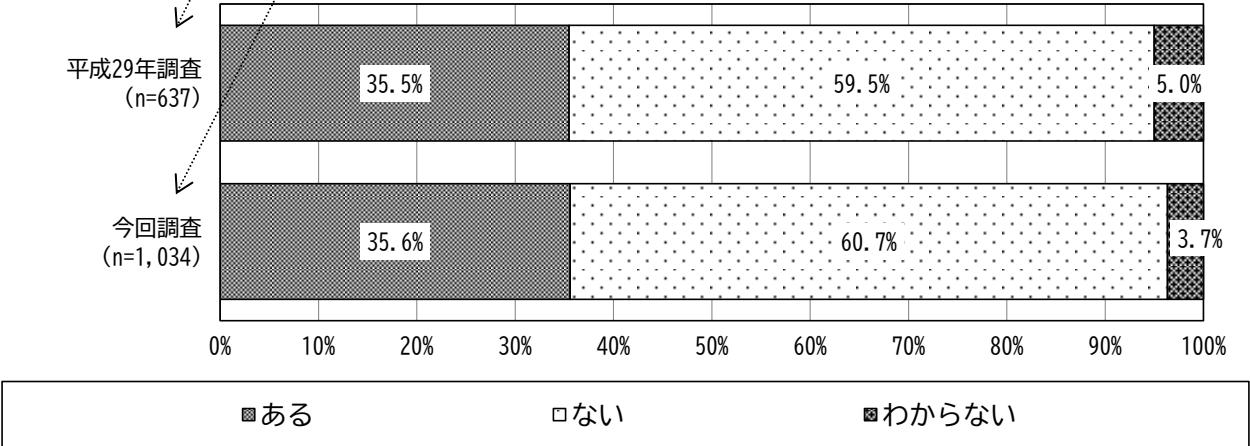
特定健康診査の対象年齢である 40 歳以上の回答者のうち、特定健康診査を受けたことが「ある」との回答割合は、前回平成 29 年調査の 45.3%から 48.0%へと、微増にとどまる(図表 10)。また、特定健康診査を受けたことがある回答者のうち、特定保健指導を受けたことが「ある」との回答割合は、前回平成 29 年調査の 35.5%から 35.6%へと、ほぼ横ばいである(図表 11)。

特定健康診査・特定保健指導の認知度の高まりが、必ずしも特定健康診査や特定保健指導の受診率の向上にはつながっていないことが考えられる。

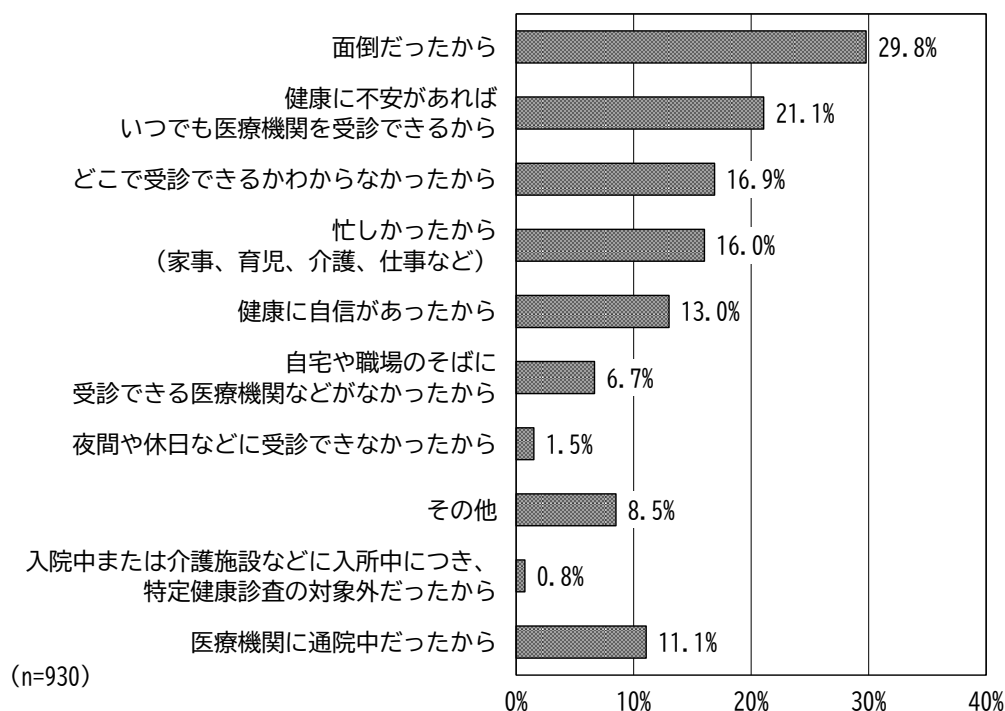
図表 10 特定健康診査の受診経験【単数回答】



図表 11 特定保健指導の受診経験【単数回答】

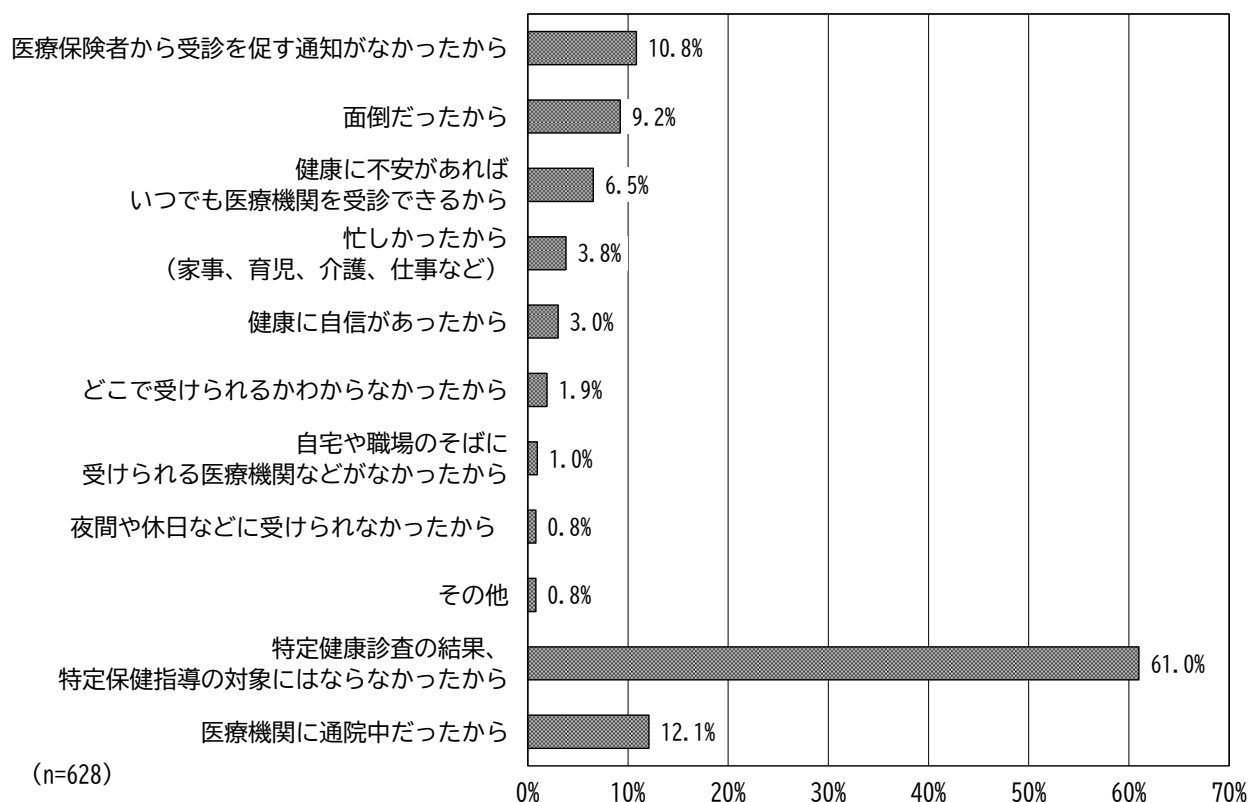


図表 12 特定健康診査を受診しない理由【複数回答】



ただし、特定保健指導については、受けたことがない理由の 61.0%を「特定健康診査の結果、特定保健指導の対象にはならなかったから」が占めている(図表 13)ことに留意を要する。

図表 13 特定保健指導を受診しない理由【複数回答】



## 第4章 医療保険者が提供するサービス

### 1. 医療保険者が提供する各種サービスに対する意識

医療保険者が提供する各種のサービスの中で、「現在受けている」との回答割合が高いものとしては、「医療費の通知」(19.5%)との回答が最も多く、次いで「がん検診、人間ドックなどの検診費用に対する補助」(16.3%)、「生活習慣病健診などの健診」(15.2%)、「広報誌(紙)の配布」(13.5%)との回答が多く、検診・健診に係るサービスや、通知・広報に係るサービスが上位に並ぶ(図表 14)。

図表 14 医療保険者が提供する各種サービスに対する意識【複数回答】

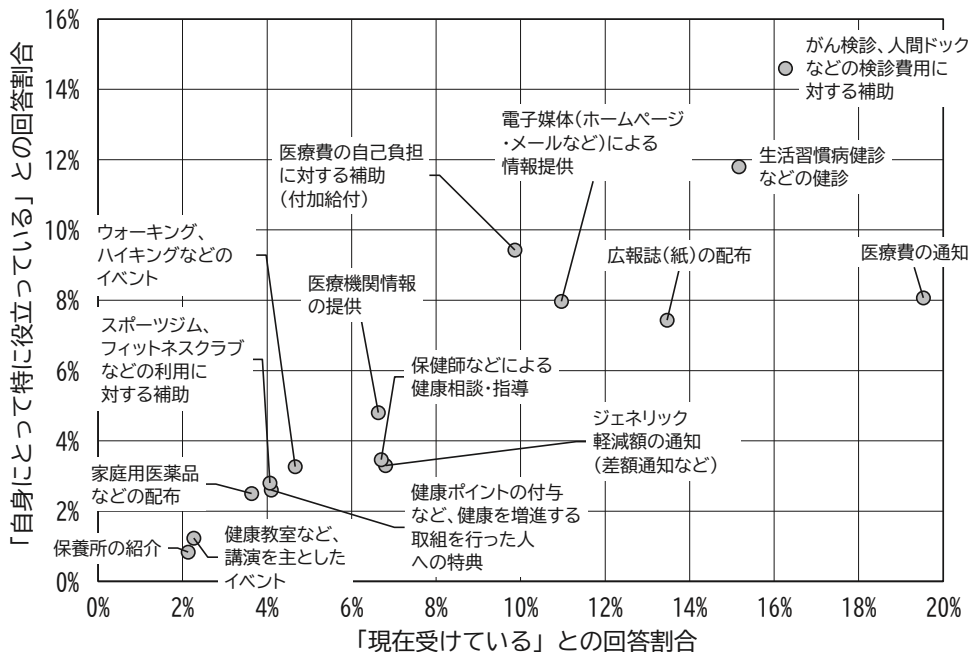
(n=3,000)

サービス内容	現在受けているサービス	自身にとって特に役立っていると思うサービス	充実を希望するサービス	医療費を抑えることに役立っていると思うサービス
医療費の通知	19.5%	8.1%	4.8%	5.7%
がん検診、人間ドックなどの検診費用に対する補助	16.3%	14.6%	23.7%	15.8%
生活習慣病健診などの健診	15.2%	11.8%	11.9%	13.1%
広報誌(紙)の配布	13.5%	7.4%	5.0%	3.7%
電子媒体(ホームページ・メールなど)による情報提供	11.0%	8.0%	9.1%	5.0%
医療費の自己負担に対する補助(付加給付)	9.9%	9.4%	22.0%	11.4%
ジェネリック軽減額の通知(差額通知など)	6.8%	3.3%	5.0%	12.0%
保健師などによる健康相談・指導	6.7%	3.5%	4.4%	5.3%
医療機関情報の提供	6.6%	4.8%	8.7%	3.7%
ウォーキング、ハイキングなどのイベント	4.7%	3.3%	5.0%	6.0%
健康ポイントの付与など、健康を増進する取組を行った人への特典	4.1%	2.6%	8.6%	4.6%
スポーツジム、フィットネスクラブなどの利用に対する補助	4.1%	2.8%	12.6%	6.4%
家庭用医薬品などの配布	3.6%	2.5%	9.8%	3.8%
健康教室など、講演を主としたイベント	2.3%	1.2%	3.7%	4.8%
保養所の紹介	2.1%	0.8%	2.2%	0.8%
医療費の審査	—	0.6%	2.0%	2.3%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
特になし	48.6%	53.2%	43.5%	50.8%



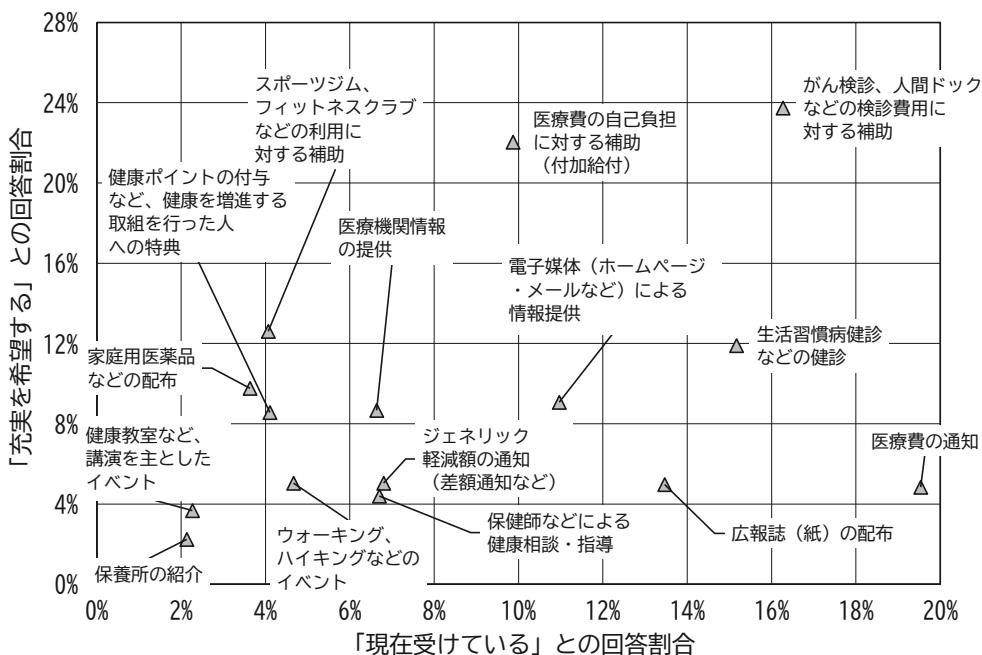
このような、「現在受けている」との回答割合が高いサービスは、「自身にとって特に役に立っていると思う」との回答割合も高い傾向がみられるが、中でも、検診・健診に係るサービスの方が、通知・広報に係るサービスよりも「自身にとって特に役に立っていると思う」との回答割合が高い(図表 15)。

図表 15 「現在受けている」サービスと「特に役に立っている」サービス



「充実を希望する」との回答割合が高いサービスとしては、費用の補助に係るサービスが上位を占める。このうち、「スポーツジム、フィットネスクラブなどの利用に対する補助」は、「充実を希望する」との回答割合が高い一方、「現在受けている」との回答割合が低いサービスといえる(図表 16)。

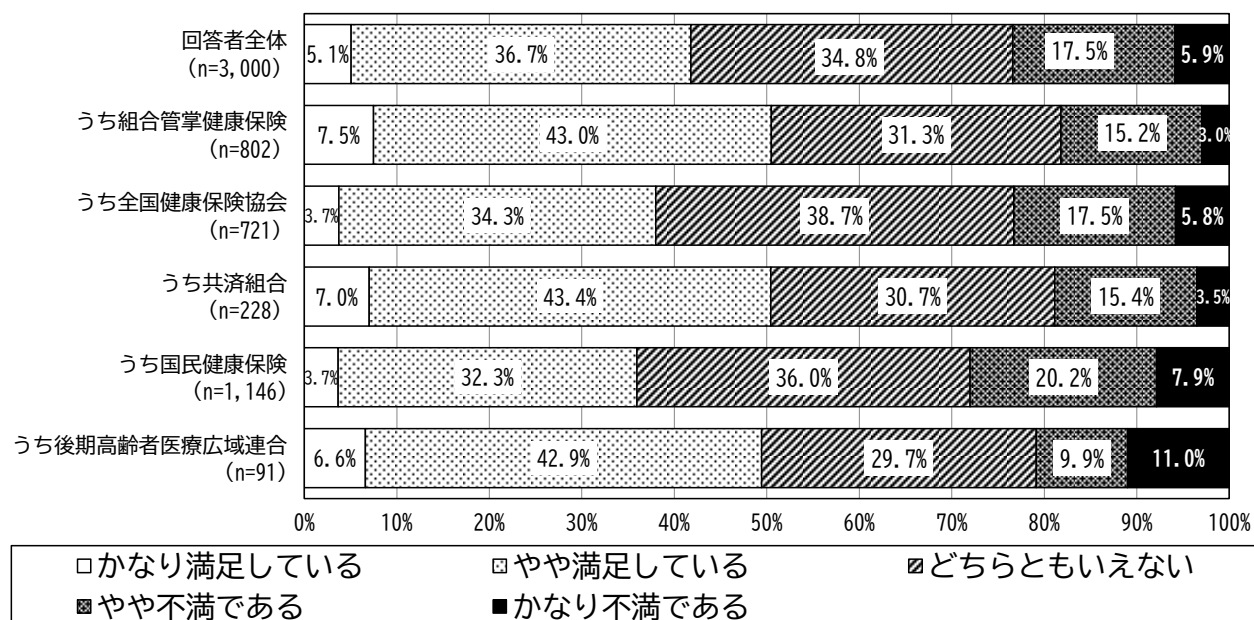
図表 16 「現在受けている」サービスと「充実を希望する」サービス



## 2. 医療保険者が提供しているサービスに対する満足度

医療保険者が提供しているサービスに対する満足度を、加入している医療保険別に見ると、「かなり満足している」または「やや満足している」との回答割合は、組合管掌健康保険では 50.5%であり、回答者全体の 41.8%を大きく上回る(図表 17)。

図表 17 医療保険者が提供しているサービスに対する満足度【単数回答】

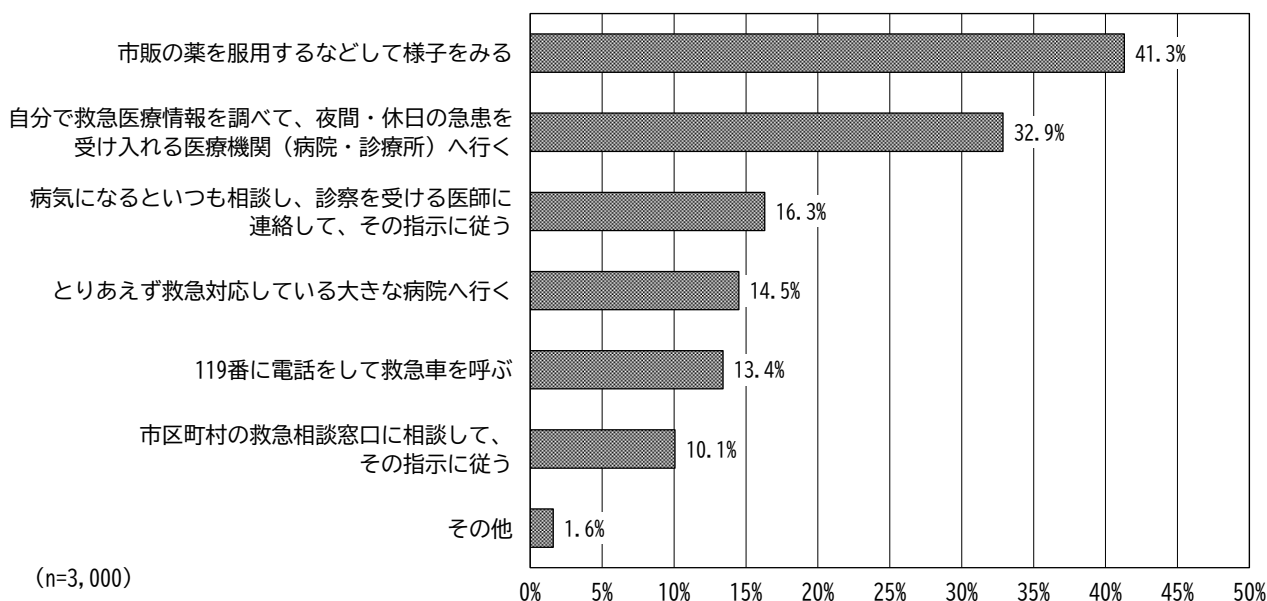


## 第5章 医療機関の受診状況

### 1. 自身や家族が深夜・休日などに具合が悪くなったときの対応

自身や家族が深夜・休日などに具合が悪くなった時の対応について、「市販の薬を服用するなどして様子を見る」との回答が41.3%で最も多く、次いで「自分で救急医療情報を調べて、夜間・休日の急患を受け入れる医療機関(病院・診療所)へ行く」(32.9%)、「病気になるといつも相談し、診察を受ける医師に連絡して、その指示に従う」(16.3%)との回答が多い(図表 18)。

図表 18 自身や家族が深夜・休日などに具合が悪くなったときの対応【複数回答】

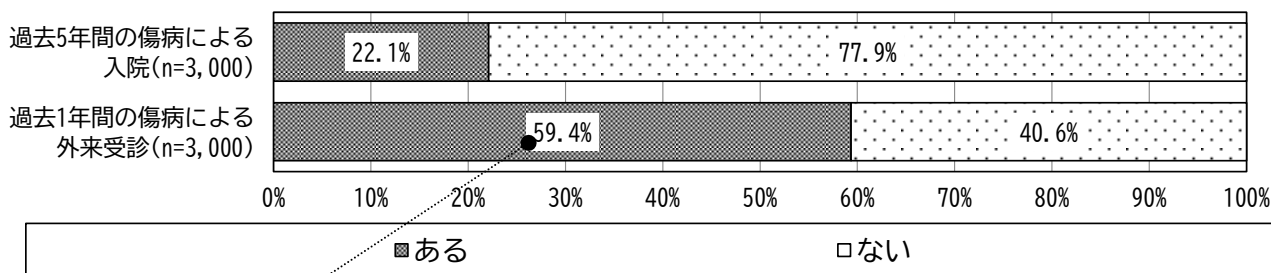


## 2. 傷病による受診の状況、および複数受診の理由

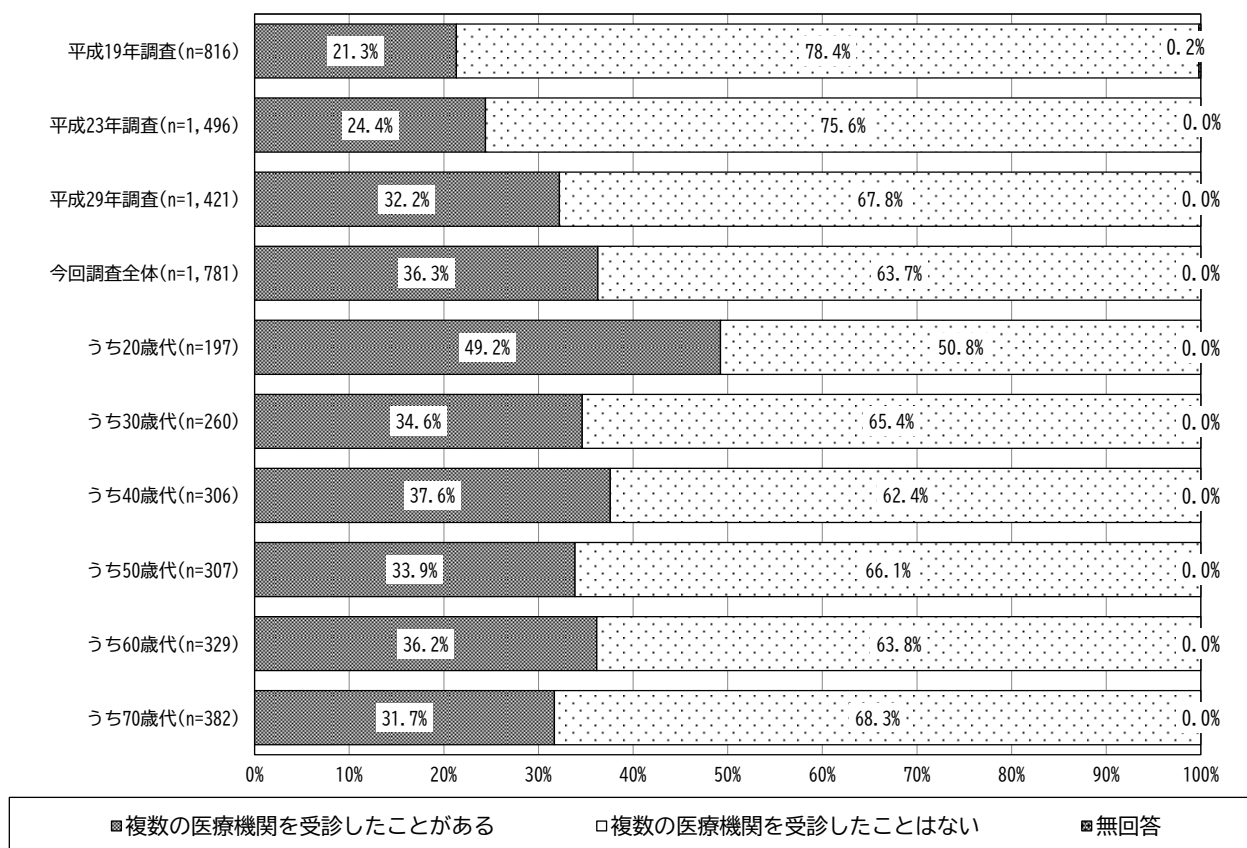
近年の傷病における受診の有無について、回答者の 59.4%が、過去 1 年間に傷病によって外来受診を受けたことがあると回答している(図表 19)。

このような、過去 1 年間に傷病による外来受診をした回答者のうち、同じ傷病で同時期に複数の医療機関にかかった経験を持つ回答者の割合は、調査年次ごとに上昇しており、今回調査では 36.3%である。この割合は、特に 20 歳代において高い(49.2%)(図表 20)。

図表 19 近年の傷病における受診の有無【単数回答】

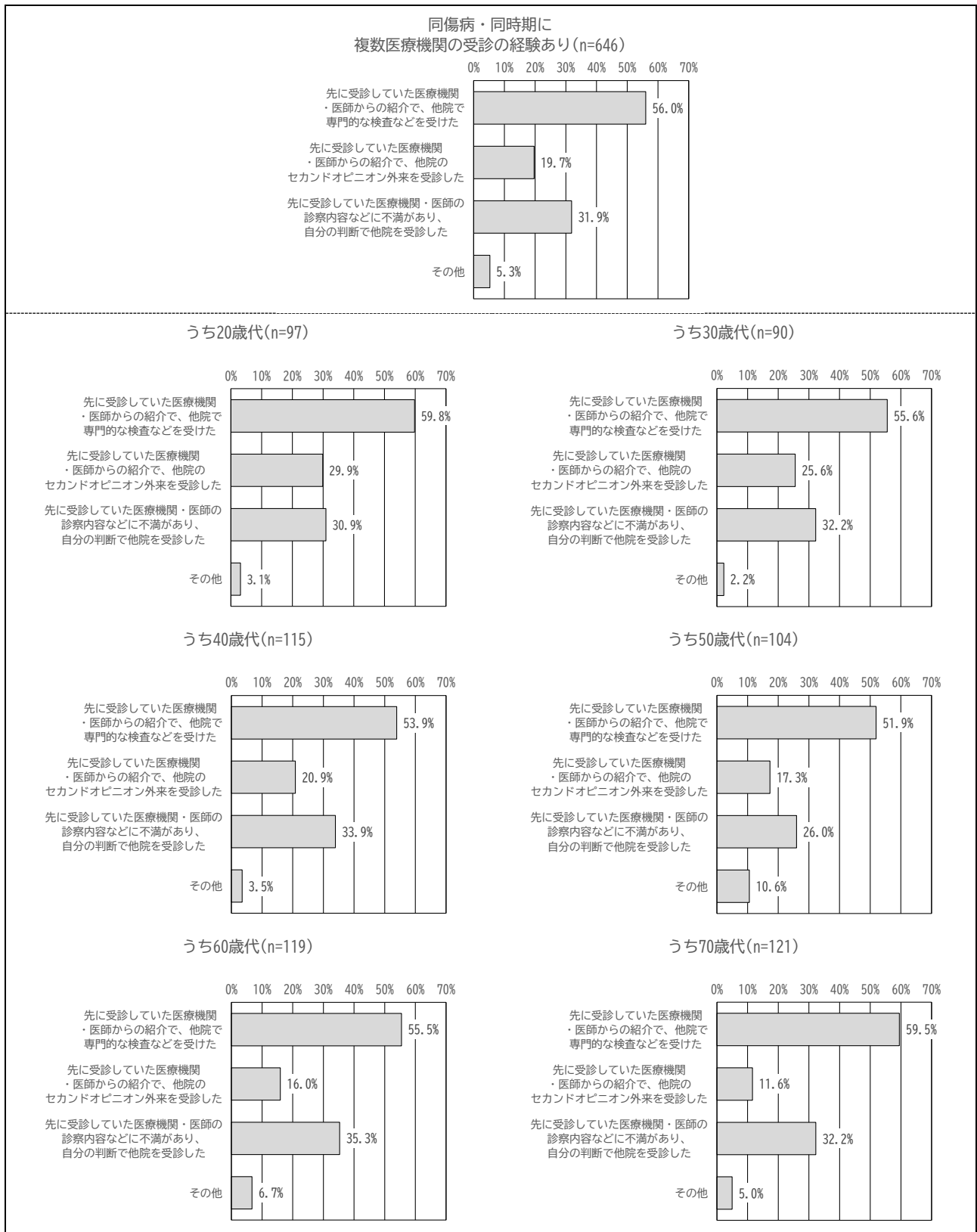


図表 20 同じ傷病で同じ時期に複数の医療機関にかかった経験の有無【単数回答】  
(過去 1 年間に外来受診経験のある回答者全体)



同じ傷病で同じ時期に複数の医療機関を受診した理由について、「先に受診していた医療機関・医師からの紹介で、他院で専門的な検査などを受けた」との回答が 56.0%で最も多く、「先に受診していた医療機関・医師の診察内容などに不満があり、自分の判断で他院を受診した」は 31.9%、「先に受診していた医療機関・医師からの紹介で、他院のセカンドオピニオン外来を受診した」は 19.7%である(図表 21)。

図表 21 同じ傷病で同じ時期に複数の医療機関にかかった理由【複数回答】



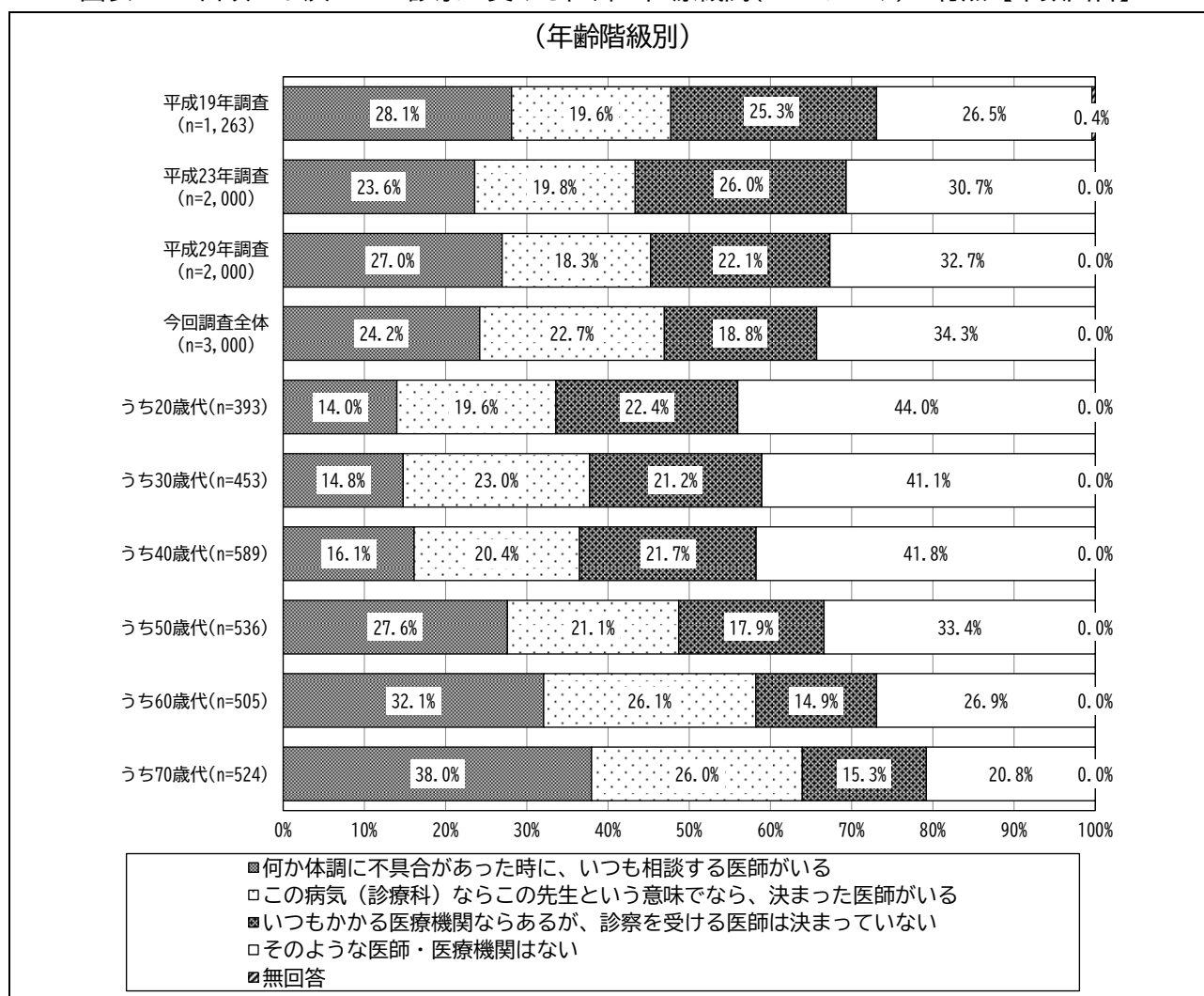
## 第6章 「かかりつけ医」の受診状況

### 1. かかりつけ医・かかりつけ医療機関の有無と理由

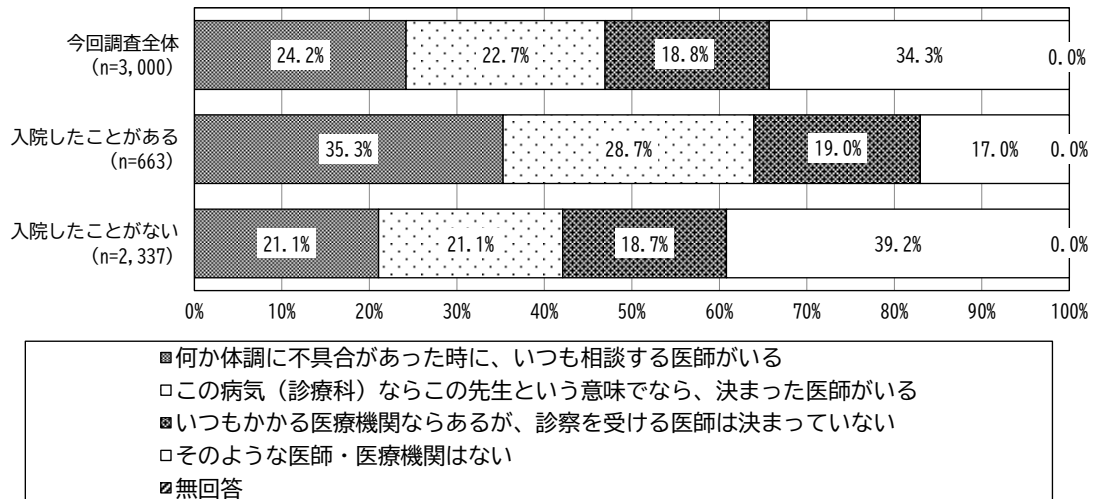
日頃から決まって診察を受ける医師・医療機関(かかりつけ)の有無について、「何か体調に不具合があった時に、いつも相談する医師がいる」との回答割合は 24.2%であり、年齢階級が高いほど、その割合が高くなる傾向がみられる。

この割合を、過去 5 年間の入院経験の有無別にみると、「入院したことがある」との回答者では 35.3%であり、「入院したことがない」との回答者(21.1%)を 14.2%ポイント上回る。また、過去 1 年間の外来受診の有無別にみると、「外来受診したことがある」との回答者では 30.8%であり、「外来受診したことがない」との回答者(14.5%)を 16.3%ポイント上回る(図表 22)。

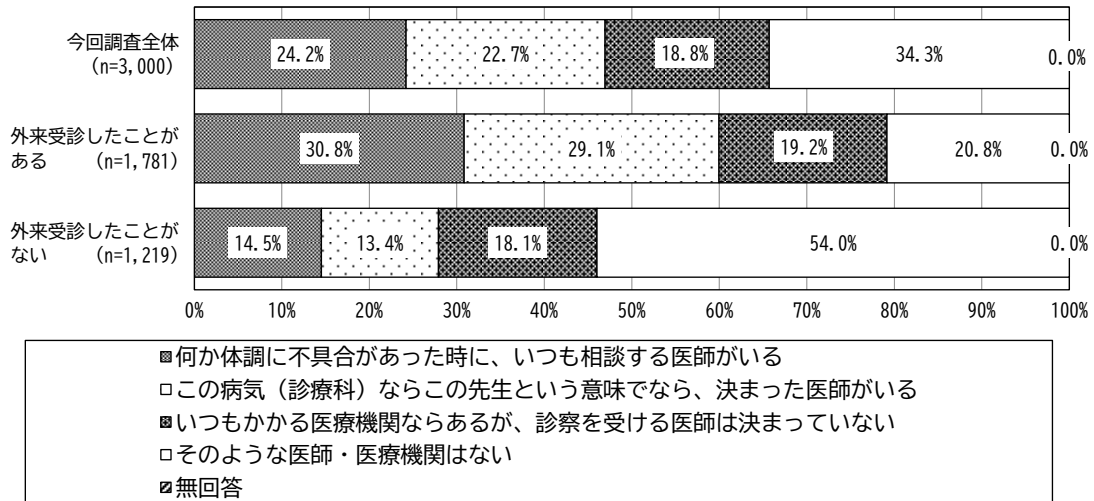
図表 22 日頃から決まって診察を受ける医師・医療機関(かかりつけ)の有無【単数回答】



(過去5年間の入院経験の有無別)

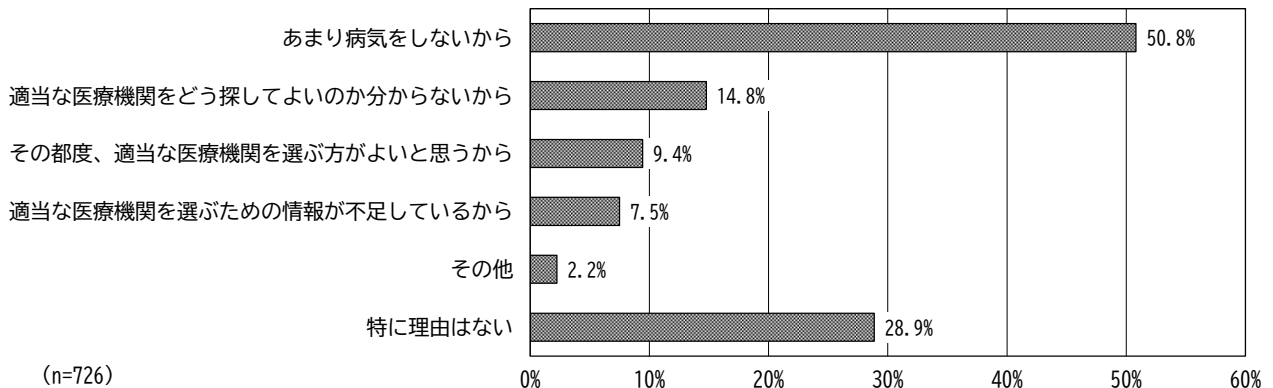


(過去1年間の外来受診の有無別)



かかりつけ医・かかりつけ医療機関を持たない回答者のうち、50.8%が「あまり病気をしない」ことをその理由に挙げており(図表 23)、日常的な受診のニーズの有無が、かかりつけ医・かかりつけ医療機関の有無に大きな影響を与えていると考えられる。

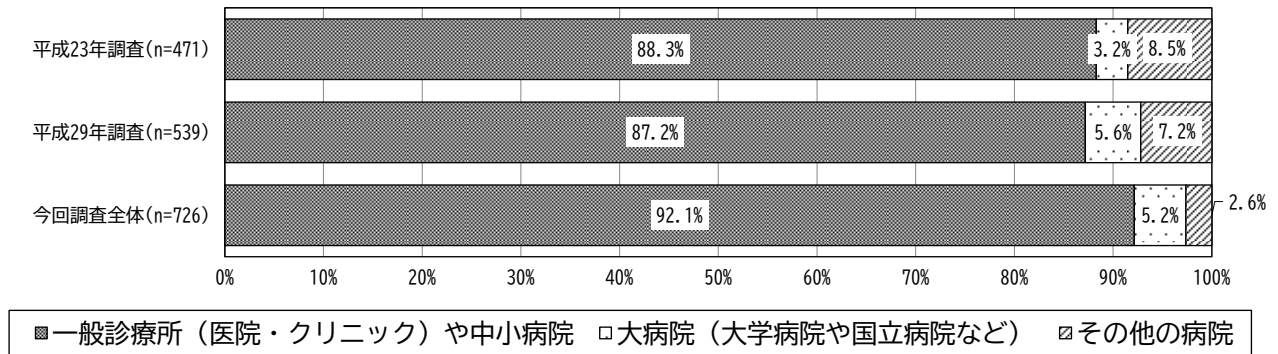
図表 23 かかりつけ医・かかりつけ医療機関を持たない理由【複数回答】



## 2. かかりつけ医を決めた理由等

「何か体調に不具合があった時に、いつも相談する医師がいる」との回答者の 92.1%が、かかりつけ医のいる医療機関として、「一般診療所(医院・クリニック)や中小病院」と回答している(図表 24)。

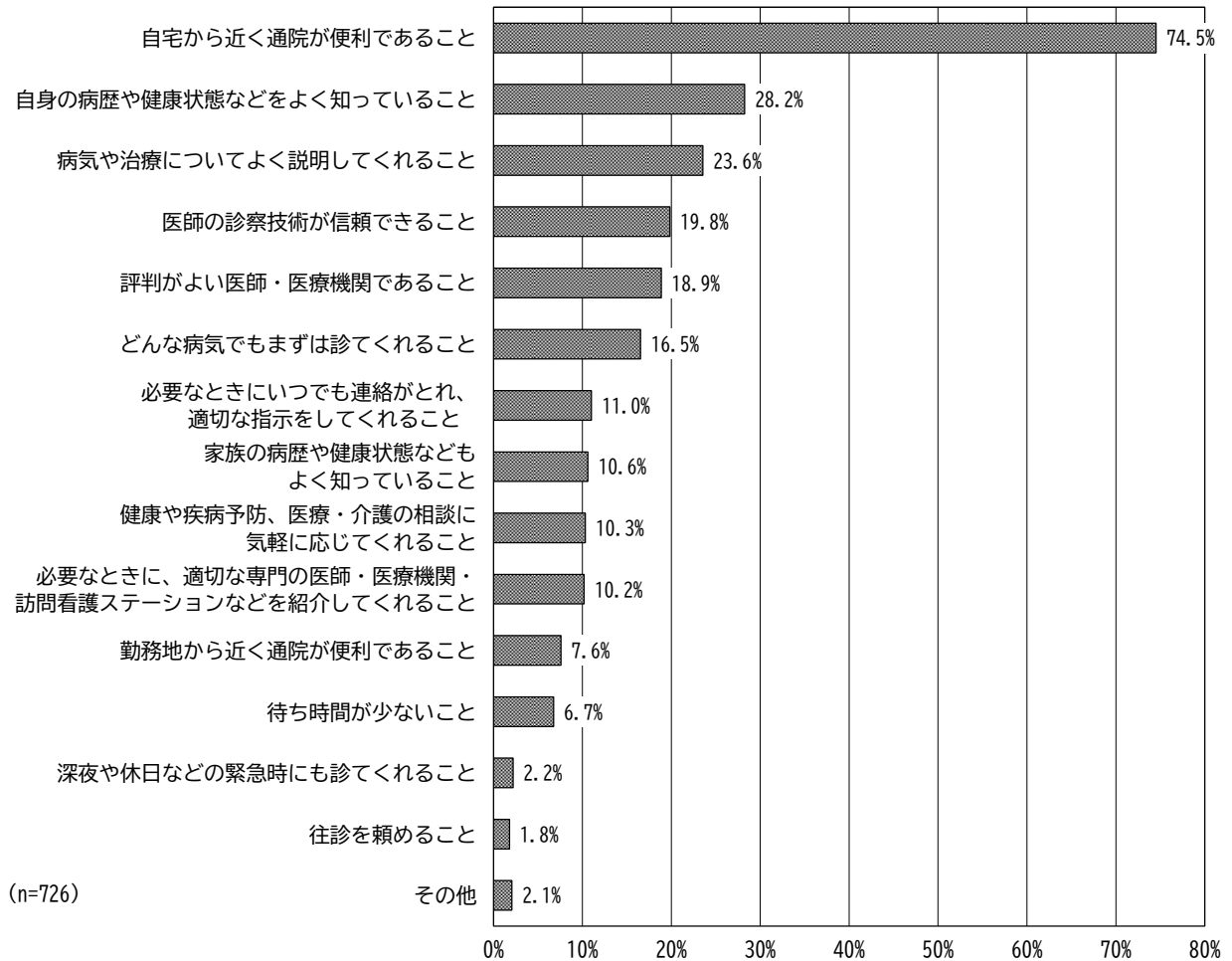
図表 24 日頃から決まって診察を受ける医師(かかりつけ医)のいる医療機関【単数回答】





「かかりつけ医」を当該の医師に決めた理由について、「自宅から近く通院が便利であること」(74.5%)との回答が最も多く、次いで「自身の病歴や健康状態などをよく知っている」(28.2%)、「病気や治療についてよく説明してくれる」(23.6%)、「医師の診察技術が信頼できる」(19.8%)との回答が多い(図表 25)。

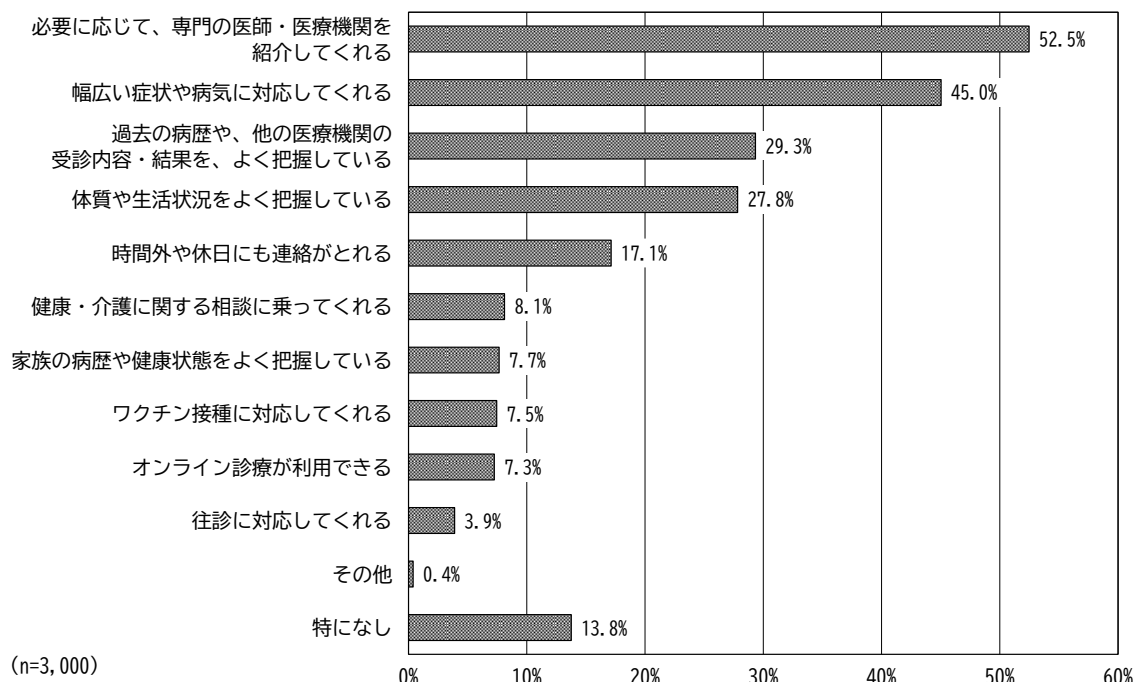
図表 25 かかりつけ医を決めた理由【複数回答】



### 3. かかりつけ医に期待すること

かかりつけ医に期待することについて、「必要に応じて、専門の医師・医療機関を紹介してくれる」(52.5%)との回答が最も多く、次いで「幅広い症状や病気に対応してくれる」(45.0%)、「過去の病歴や、他の医療機関の受診内容・結果を、よく把握している」(29.3%)との回答が多い(図表 26)。

図表 26 かかりつけ医に期待すること【複数回答】



このうち、「必要に応じて、専門の医師・医療機関を紹介してくれる」との回答割合は、年齢の高い回答者や、かかりつけ医療機関が決まっている回答者において高い。一方、「時間外や休日にも連絡がとれる」との回答割合は、かかりつけ医療機関が決まっていない回答者において高い(図表 27)。

図表 27 かかりつけ医に期待すること(上位5項目、属性別)【複数回答】

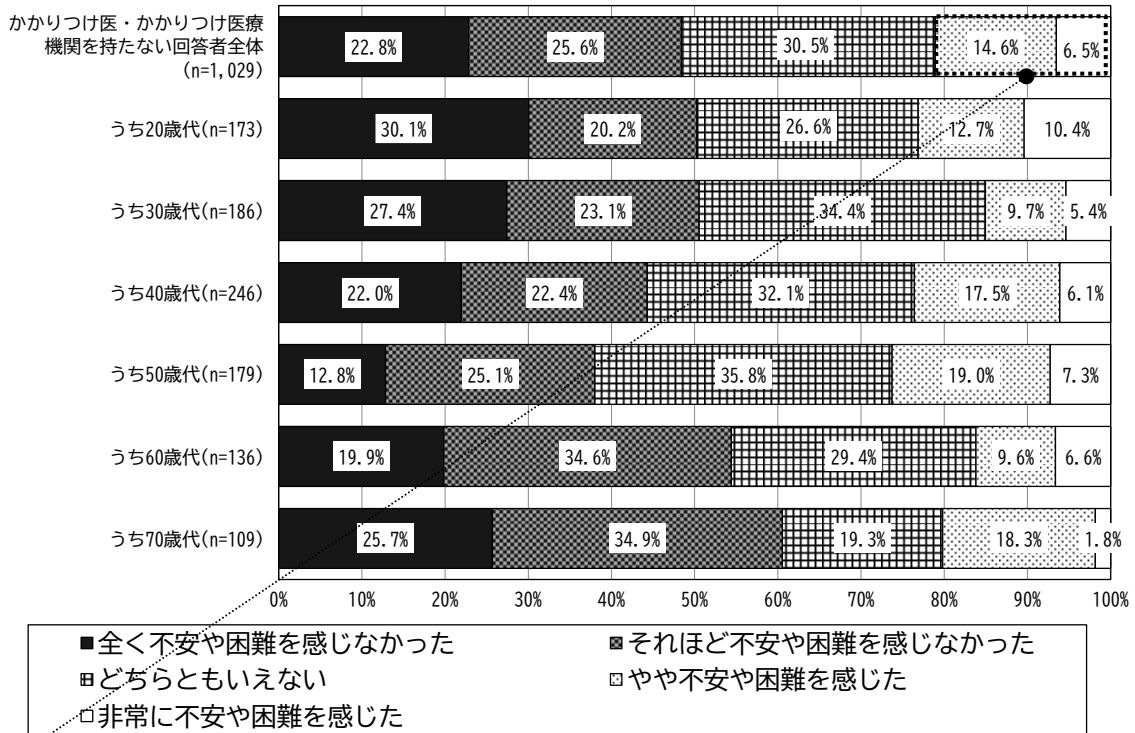
		必要に応じて、 専門の医師・ 医療機関を 紹介してくれる	幅広い症状や病気 に対応してくれる	過去の病歴や、 他の医療機関の 受診内容・結果を、 よく把握している	体質や生活状況を よく把握している	時間外や休日にも 連絡がとれる
全体(n=3,000)		52.5%	45.0%	29.3%	27.8%	17.1%
年齢	20歳代(n=393)	38.4%	44.0%	26.0%	31.0%	16.3%
	30歳代(n=453)	45.9%	39.3%	30.0%	29.4%	15.9%
	40歳代(n=589)	45.8%	41.4%	26.7%	27.7%	18.2%
	50歳代(n=536)	49.6%	47.2%	26.7%	28.0%	14.7%
	60歳代(n=505)	64.8%	48.9%	29.1%	28.3%	21.0%
	70歳代(n=524)	67.2%	48.9%	37.2%	23.7%	16.4%
かかりつけ医・ かかりつけ医療 機関の状況	何か体調に不具合があった時に、 いつも相談する医師がいる (n=726)	60.9%	56.6%	30.7%	31.7%	9.9%
	この病気(診療科)ならこの先生 という意味でなら、決まった 医師がいる(n=682)	61.6%	41.3%	42.5%	33.1%	14.8%
	いつもかかる医療機関ならあるが、 診察を受ける医師は決まっていない (n=563)	53.8%	46.7%	31.4%	27.4%	19.5%
	そのような医師・医療機関はない (n=1,029)	39.7%	38.4%	18.5%	21.9%	22.4%

#### 4. コロナ禍におけるかかりつけ医・かかりつけ医療機関

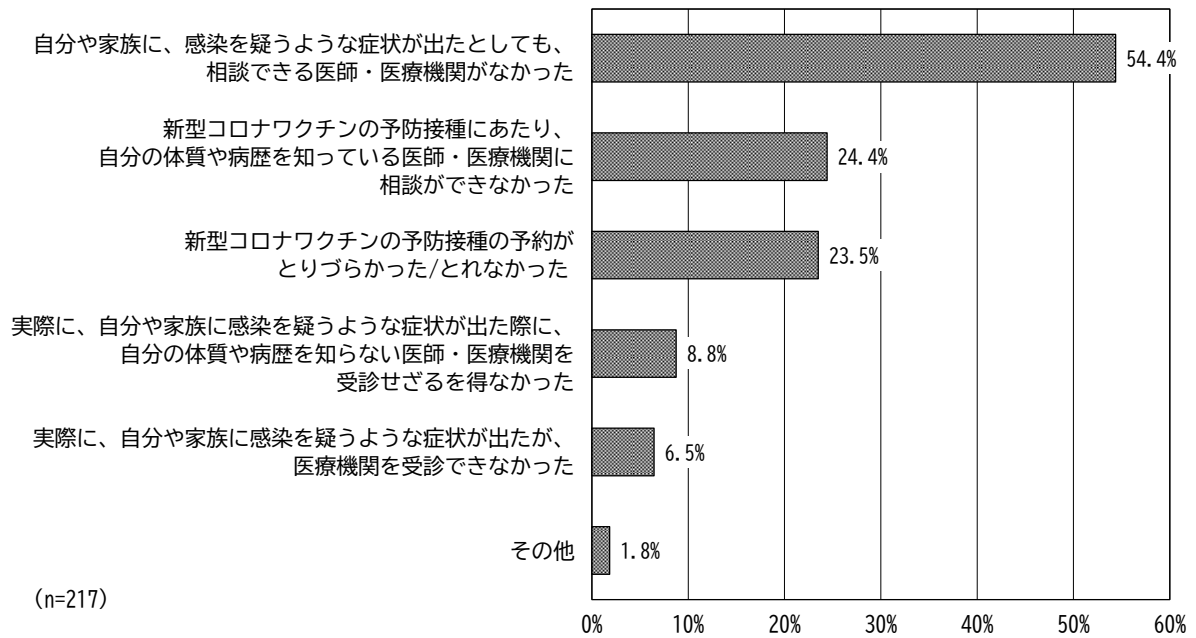
「かかりつけの医師・医療機関はない」との回答者の、コロナ禍でかかりつけの医師・医療機関を持たないことで感じた不安や困難について、「非常に不安や困難を感じた」「やや不安や困難を感じた」との回答割合は計 21.1%である(図表 28)。

不安の内容としては、「自分や家族に、感染を疑うような症状が出たとしても、相談できる医師・医療機関がなかった」との回答が 54.4%で最も多く、次いで「新型コロナワクチンの予防接種にあたり、自分の体質や病歴を知っている医師・医療機関に相談ができなかった」(24.4%)、「新型コロナワクチンの予防接種の予約がとりづらかった/とれなかった」(23.5%)との回答が多い(図表 29)。

図表 28 コロナ禍でかかりつけ医・医療機関を持たないことで自身が感じた不安や困難【単数回答】



図表 29 コロナ禍でかかりつけ医・医療機関を持たないことで自身が感じた不安や困難の内容【複数回答】

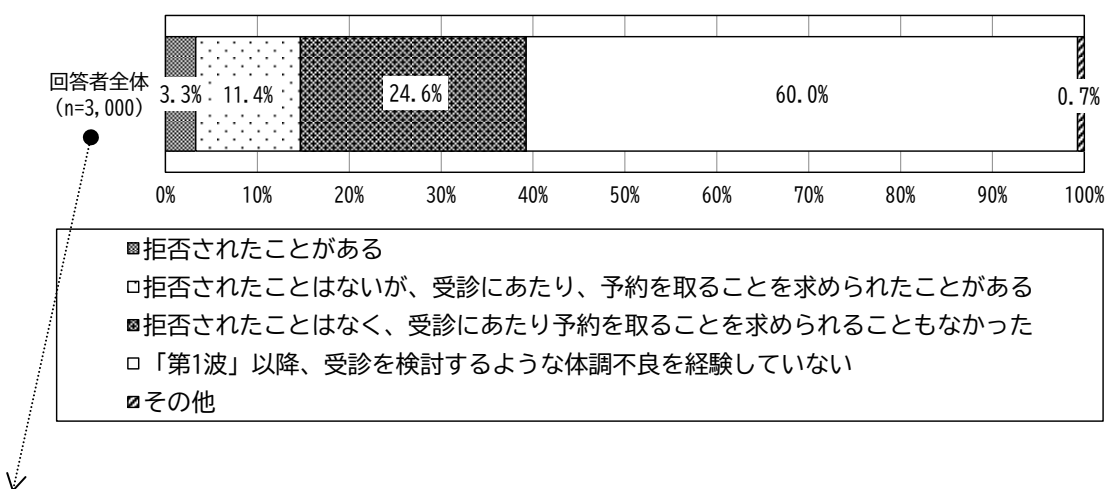


## 5. 新型コロナウイルス拡大期以降に診療を拒否された経験の有無

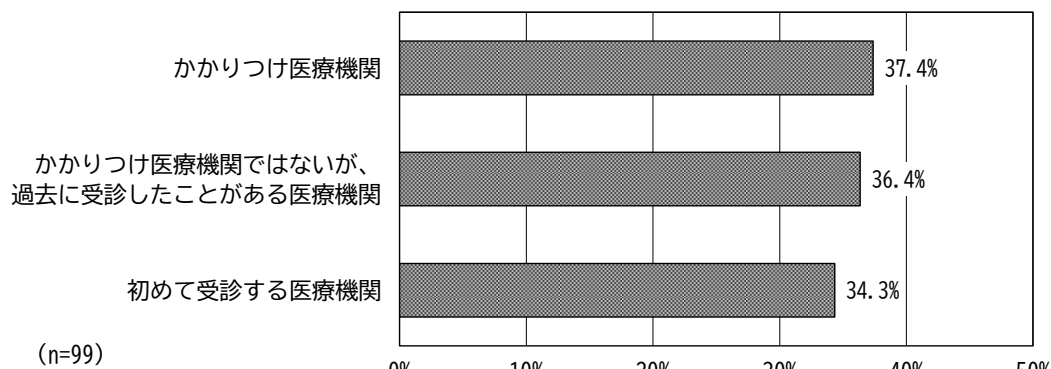
令和2年の新型コロナウイルス感染症の拡大期(第1波)以降、体の具合が悪い時に、診療を拒否された経験の有無を問うたところ、「拒否されたことがある」との回答割合は3.3%であり、「拒否されたことはない」との回答割合(11.4%+24.6%=36.0%)の1/10未満である(図表30)。

「拒否されたことがある」との回答者(99人)について、診療を拒否された医療機関の種類を問うと、「かかりつけ医療機関」「かかりつけ医療機関ではないが、過去に受診したことがある医療機関」「初めて受診する医療機関」のいずれの回答も、35%前後である(図表31)。

図表30 新型コロナウイルス感染症の拡大期(第1波)以降に診療を拒否された経験の有無  
【単数回答】



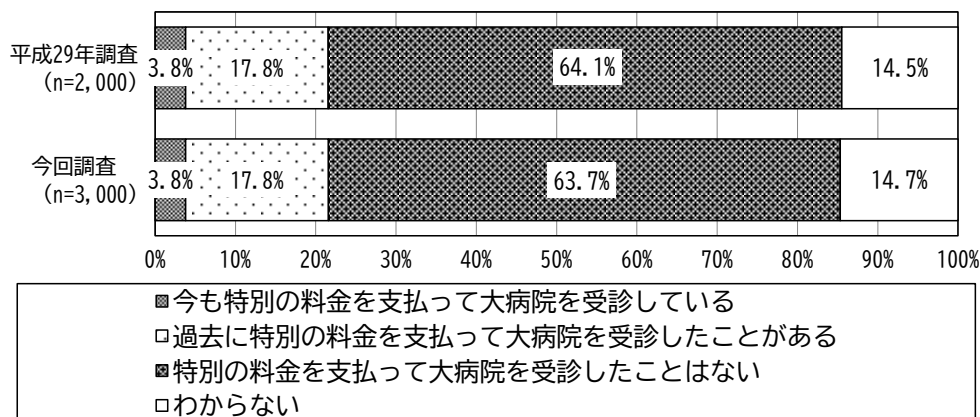
図表31 新型コロナウイルス感染症の拡大期以降に診療を拒否された医療機関の種類【複数回答】



## 第7章 大規模病院の受診状況

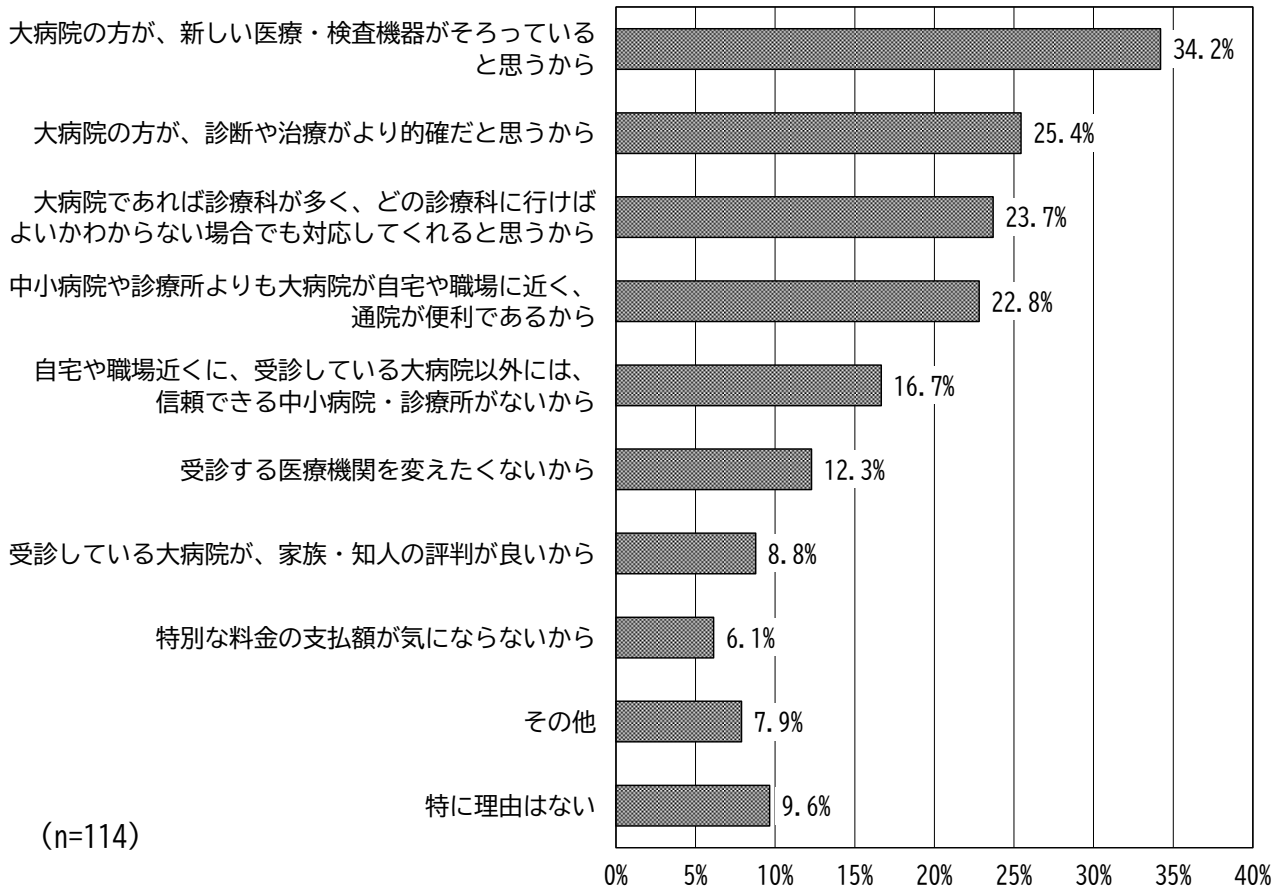
紹介状を持たずに、選定療養費を支払って直接に大病院を受診した経験について、「今も特別の料金を支払って大病院を受診している」との回答割合は 3.8%であり、平成 29 年調査(3.8%)から横ばいである(図表 32)。

図表 32 特別の料金を支払って、紹介状を持たず大病院を受診した経験の有無【単数回答】



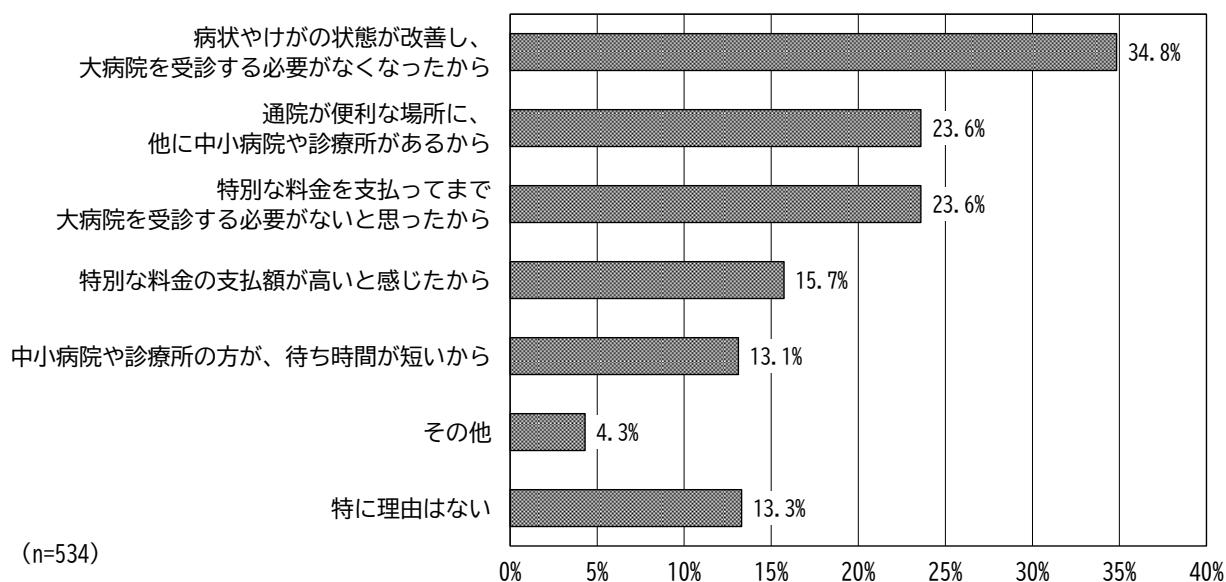
「今も特別の料金を支払って大病院を受診している」と回答した者に対して、その理由を問うと、「大病院の方が、新しい医療・検査機器がそろっていると思うから」(34.2%)との回答が最も多く、次いで「大病院の方が、診断や治療がよりの確だと思うから」(25.4%)、「大病院であれば診療科が多く、どの診療科に行けばよいかわからない場合でも対応してくれると思うから」(23.7%)との回答が多い(図表 33)。

図表 33 特別な料金を支払って大病院を受診している主な理由【複数回答】



「過去に特別の料金を支払って大病院を受診したことがある」と回答した者に対して、特別の料金を支払って受診することがなくなった理由を問うたところ、「病状やけがの状態が改善し、大病院を受診する必要がなくなったから」(34.8%)との回答が最も多く、次いで「通院が便利な場所に、他に中小病院や診療所があるから」・「特別な料金を支払ってまで大病院を受診する必要がないと思ったから」(各 23.6%)、「特別な料金の支払額が高いと感じたから」(15.7%)との回答が多い(図表 34)。

図表 34 特別な料金を支払って大病院を受診することがなくなった主な理由【複数回答】



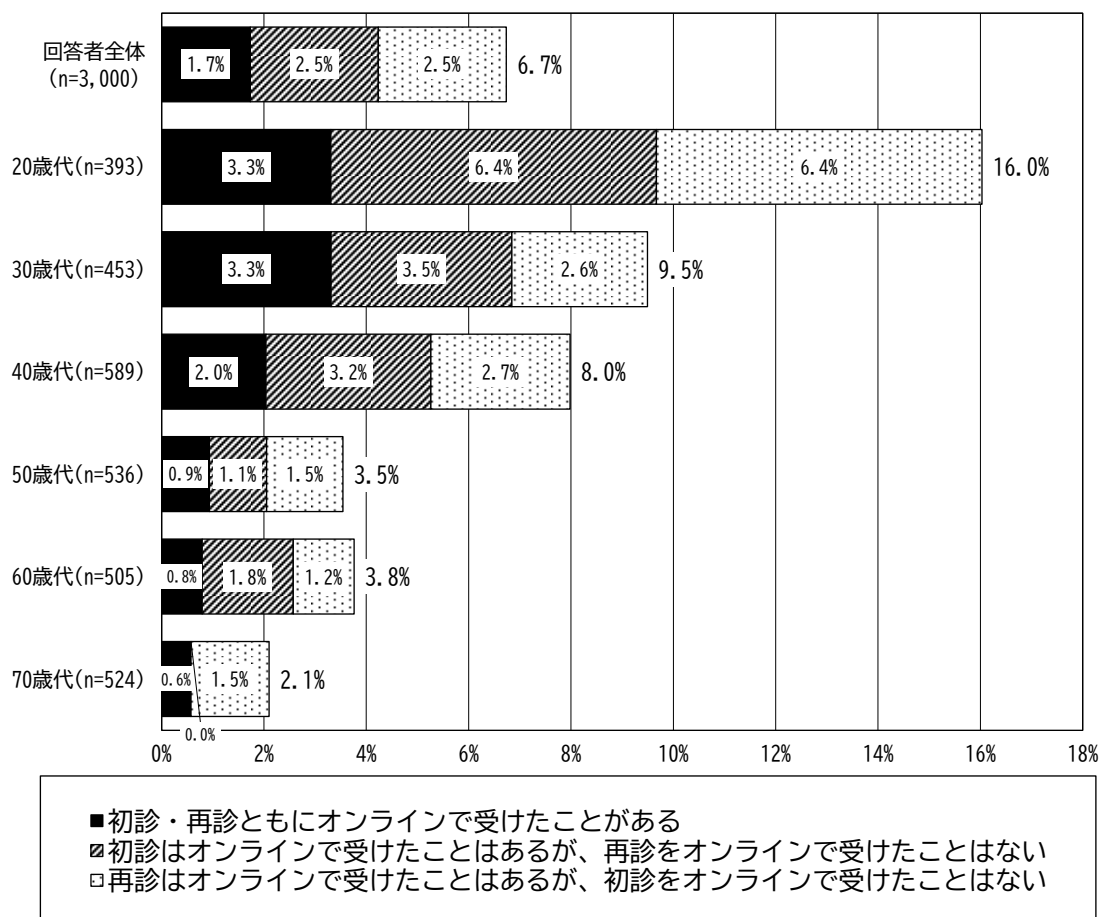


## 第8章 オンライン診療の受診状況

### 1. オンライン診療の受診経験の有無と背景

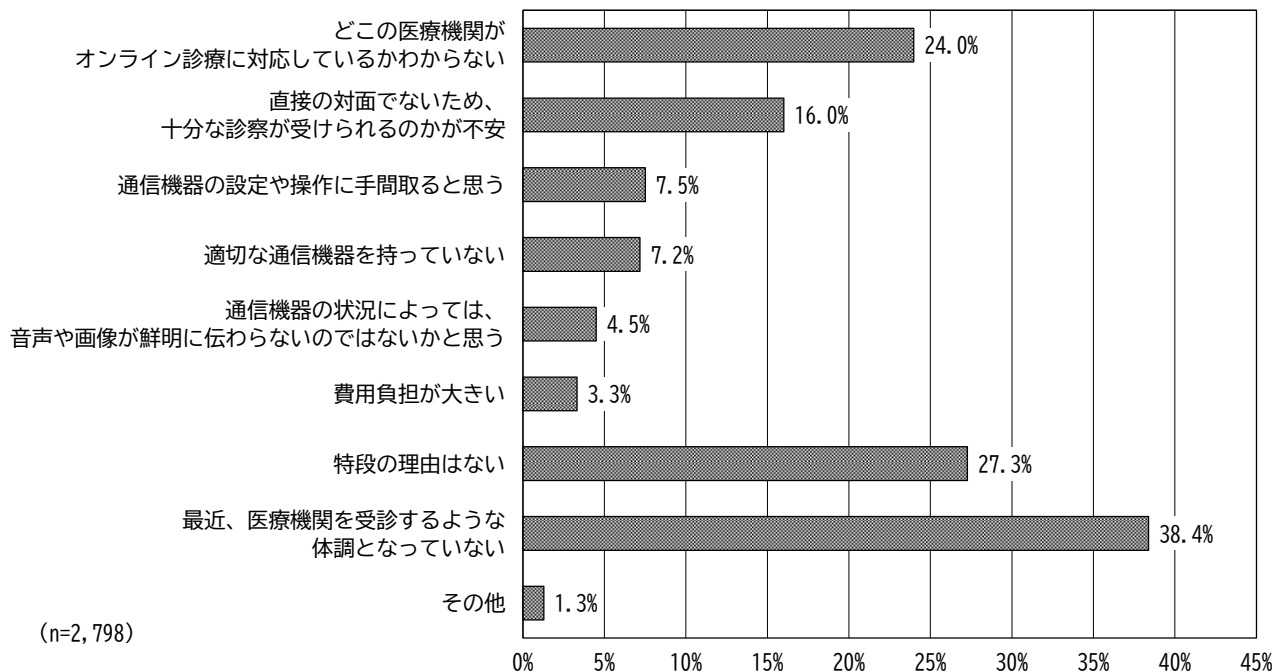
初診または再診をオンラインで受けたことがある旨の回答割合は、6.7%である。若年層ほど、オンライン受診を経験した割合が高い傾向がみられる(図表 35)。

図表 35 初診または再診でオンライン診療を受診した経験【単数回答】



オンライン診療の受診経験がないとの回答の理由として、「最近、医療機関を受診するような体調となっていない」(38.4%)との回答のほか、「どこの医療機関がオンライン診療に対応しているかわからない」(24.0%)、「直接の対面でないため、十分な診察が受けられるのかが不安」(16.0%)との回答が多い(図表 36)。

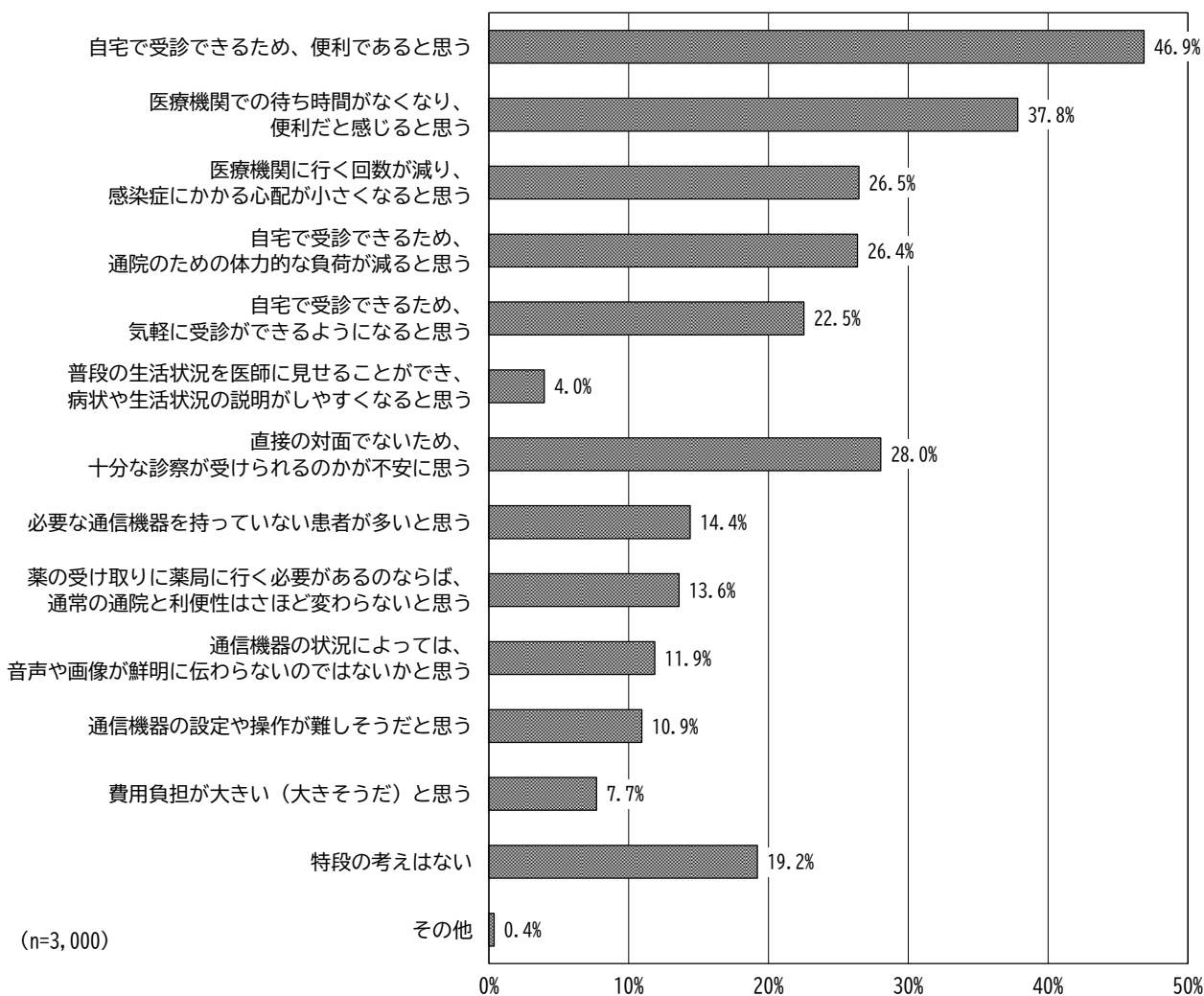
図表 36 オンラインで医師の診療(オンライン診療)を受診したことがない理由【複数回答】



## 2. オンライン診療に対する考え

オンライン診療に対する考えを問うたところ、肯定的な意見としては、「自宅で受診できるため、便利であると思う」(46.9%)、「医療機関での待ち時間がなくなり、便利だと感じると思う」(37.8%)、「医療機関に行く回数が減り、感染症にかかる心配が小さくなると思う」(26.5%)、「自宅で受診できるため、通院のための体力的な負担が減ると思う」(26.4%)との回答が多い。一方、否定的な意見としては、「直接の対面でないため、十分な診察が受けられるのかが不安に思う」(28.0%)、「必要な通信機器を持っていない患者が多いと思う」(14.4%)との回答が多い(図表 37)。

図表 37 オンライン診療に対する考え【複数回答】

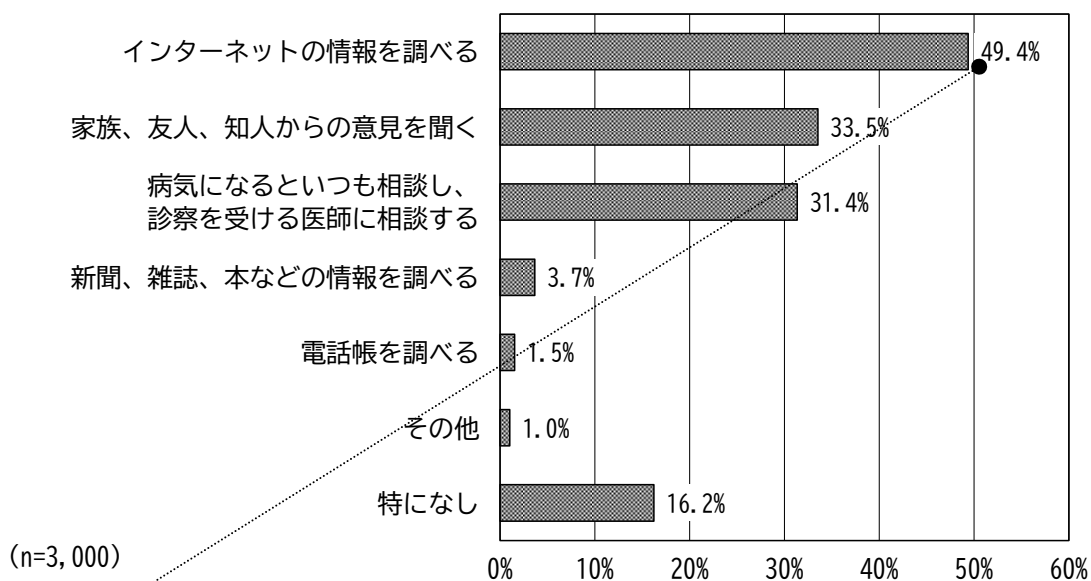


## 第9章 受診する医療機関の選び方

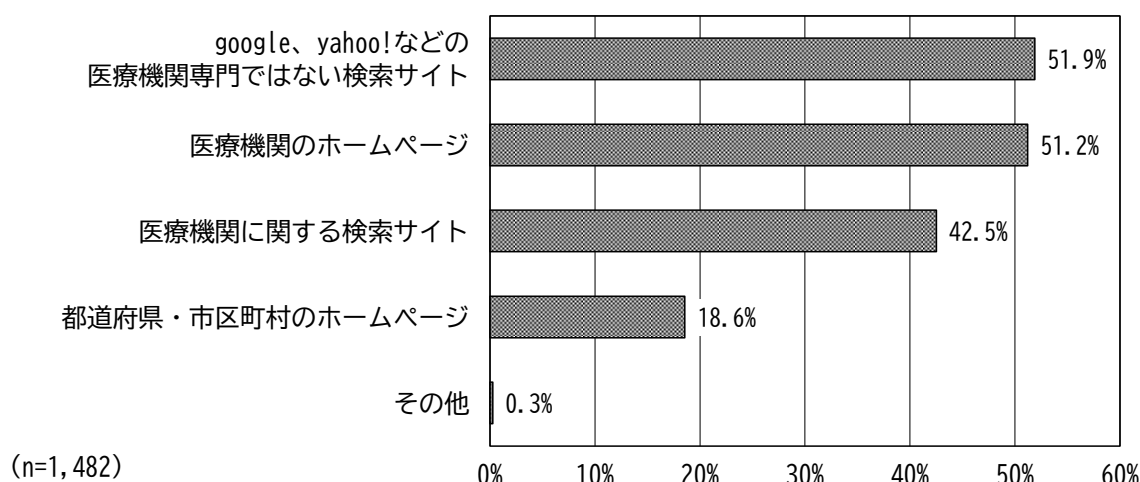
### 1. 医療機関を選ぶ際に参考になっている情報源、欲しい情報

医療機関を選ぶ際に参考になっている情報としては、「インターネットの情報を調べる」との回答が 49.4%で最も多く(図表 38)、参考になっているインターネットのサイトについては、「google、yahoo!などの医療機関専門ではない検索サイト」「医療機関のホームページ」「医療機関に関する検索サイト」を挙げた回答が、40%を超える(図表 39)。

図表 38 医療機関を選ぶ際に参考になっている情報源【複数回答】

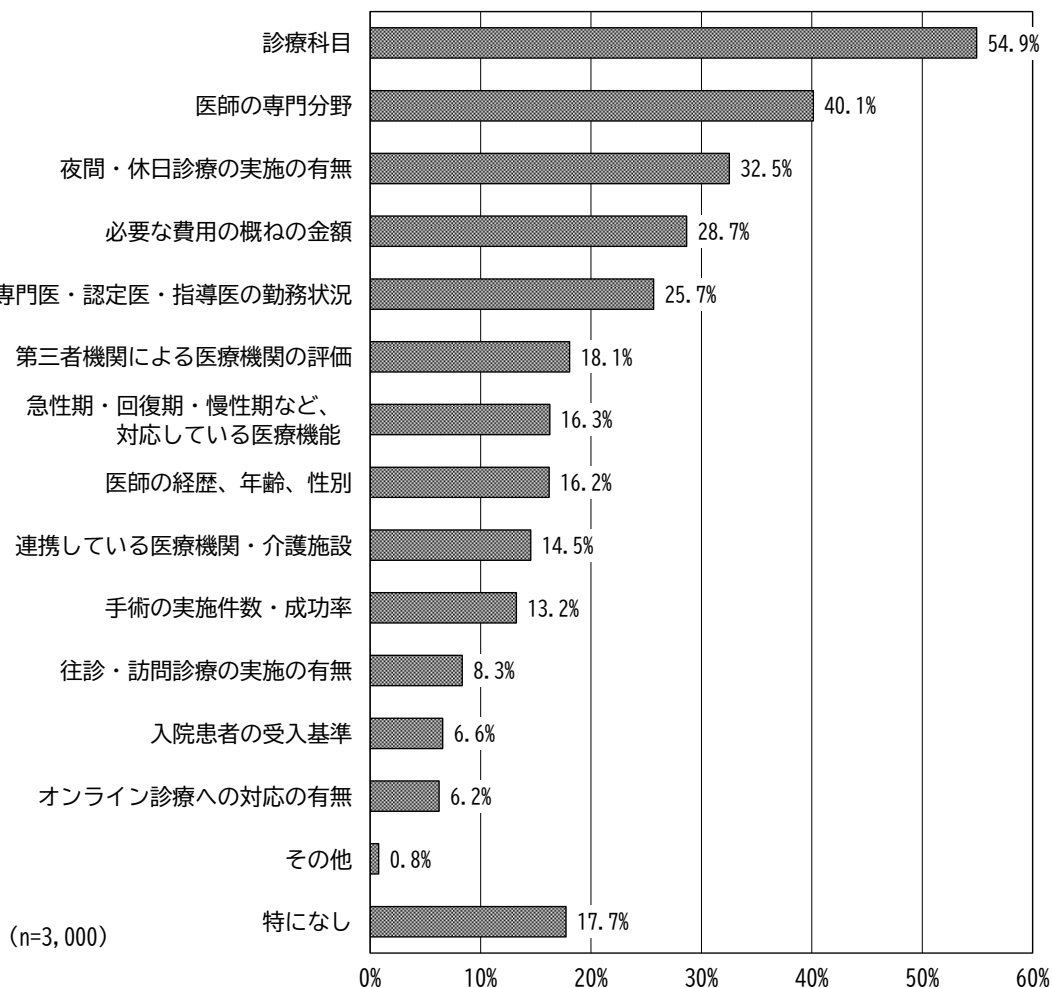


図表 39 医療機関を選ぶ際に参考になっているインターネットのサイト【複数回答】



医療機関の情報として特に欲しいと思う内容については、「診療科目」(54.9%)、「医師の専門分野」(40.1%)、「夜間・休日診療の実施の有無」(32.5%)、「必要な費用の概ねの金額」(28.7%)、「専門医・認定医・指導医の勤務状況」(25.7%)の順に多い(図表 40)。

図表 40 医療機関の情報として特に欲しい内容【複数回答】

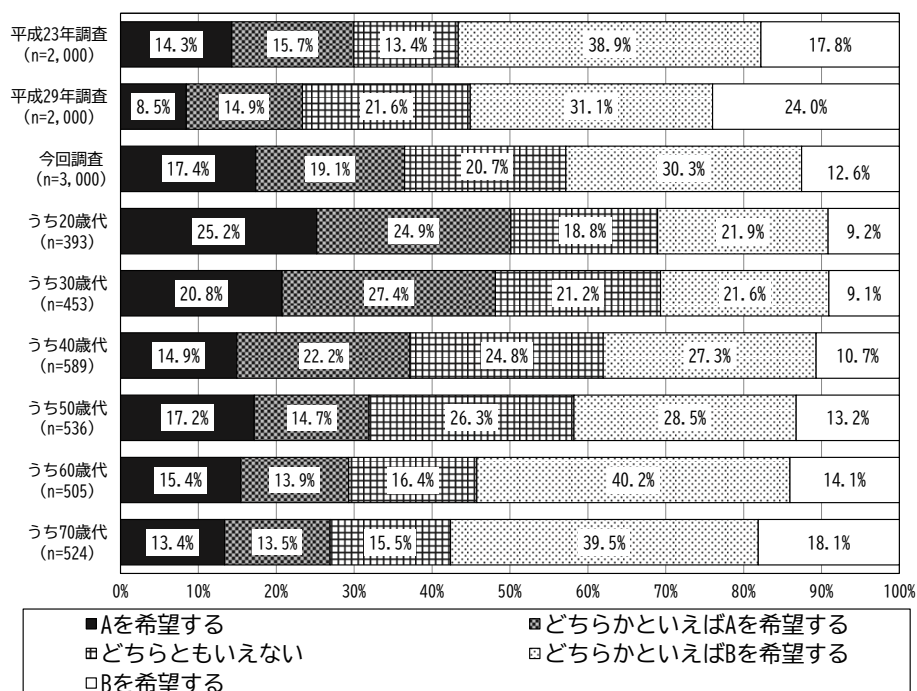


## 2. 外来受診のあり方に関する考え

外来受診のあり方について、「A. 病気の症状の程度や医療機関の規模とは関係なしに、その都度自分の選んだ医療機関を受診する」と「B. 最初に決まった医師を受診し、その医師の判断で、必要に応じて病院などの専門医療機関を受診する」ことのどちらを希望するかについて、「A を希望する」「どちらかといえば A を希望する」の回答割合は計 36.5%であり、設問文が若干異なるので単純な比較はできないが、平成 23 年(30.0%)・29 年調査(23.4%)よりも高い。一方、「B を希望する」「どちらかといえば B を希望する」の回答割合(計 42.8%)よりも低い。これを年齢階級別にみると、若年層ほど A 指向、高齢層ほど B 指向が強まる傾向がみられる(図表 41)。

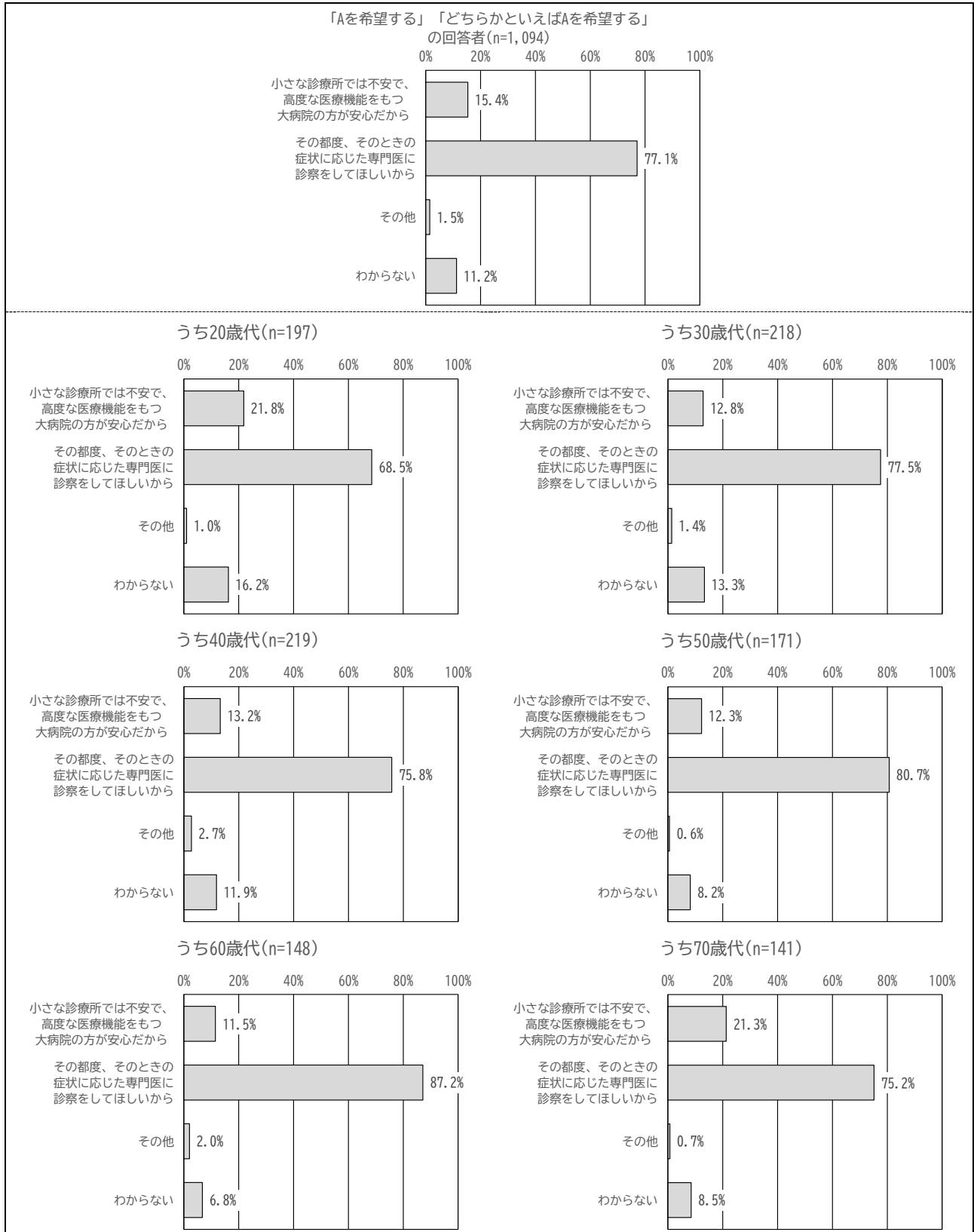
図表 41 外来受診のあり方に関する希望【単数回答】

調査年次	A の内容	B の内容
平成 23 年調査	病気の症状の程度に関わらず、病院と診療所の区別なく自分の選んだ医療機関を受診する	最初に決まった医師を受診し、その医師の判断で、必要に応じて病院などの専門医療機関を受診する
平成 29 年調査	病気の症状の程度に関わらず、医療機関の規模とは関係なしに自分の選んだ医療機関を受診する	(同上)
今回調査	病気の症状の程度や医療機関の規模とは関係なしに、その都度自分の選んだ医療機関を受診する	(同上)



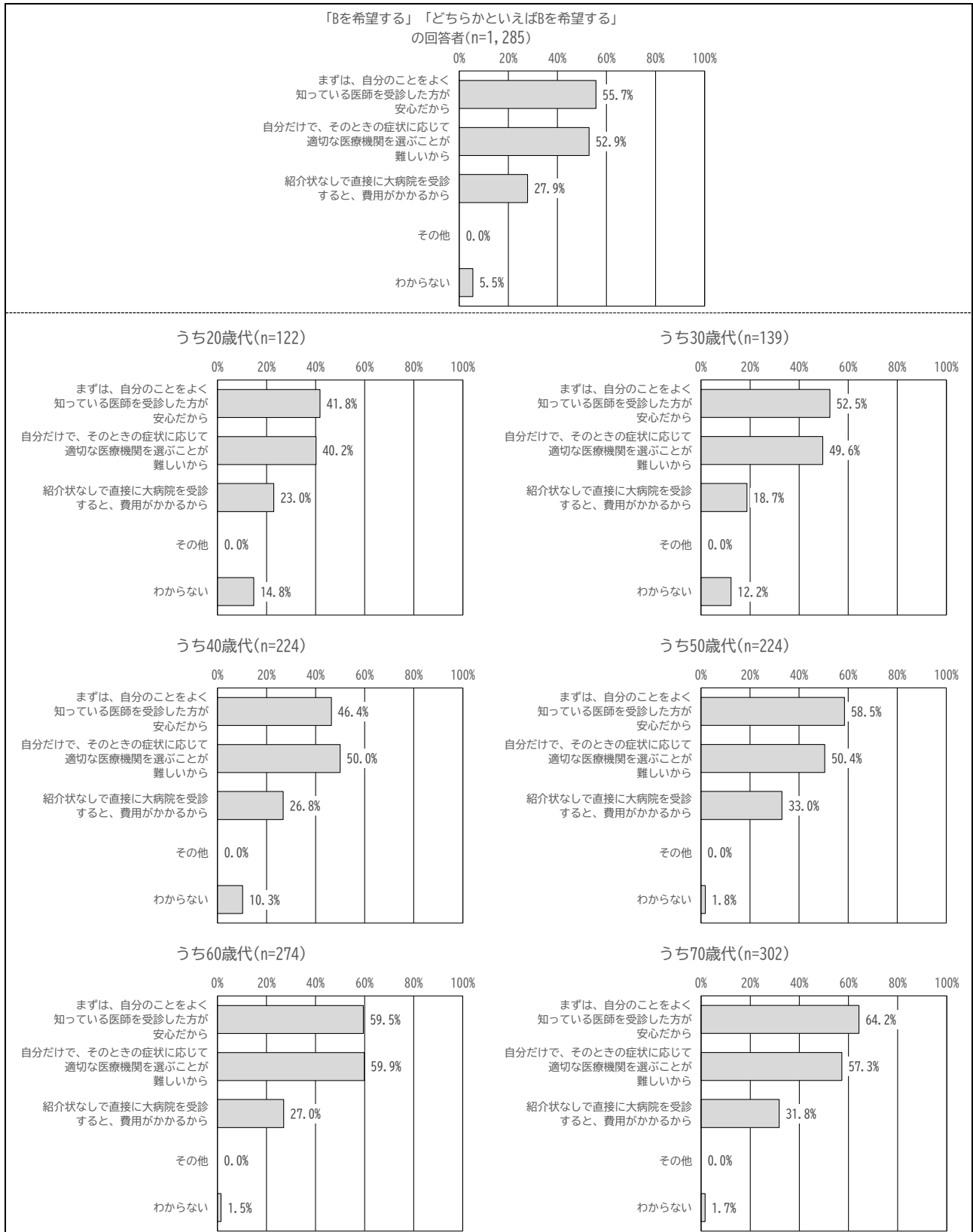
「Aを希望する」「どちらかといえばAを希望する」の選択理由としては、「その都度、そのときの症状に応じた専門医に診察をしてほしいから」との回答が全世代的に多く、初期段階からの専門医志向が根強いことがうかがえる(図表 42)。

図表 42 「Aを希望する」「どちらかといえばAを希望する」の選択理由【複数回答】



一方、「Bを希望する」「どちらかといえばBを希望する」選択理由としては、「まずは、自分のことをよく知っている医師を受診した方が安心だから」(55.7%)および「自分だけで、そのときの症状に応じて適切な医療機関を選ぶことが難しいから」(52.9%)の回答割合が5割を超えており、この割合は、高齢層においてさらに高い(図表 43)。

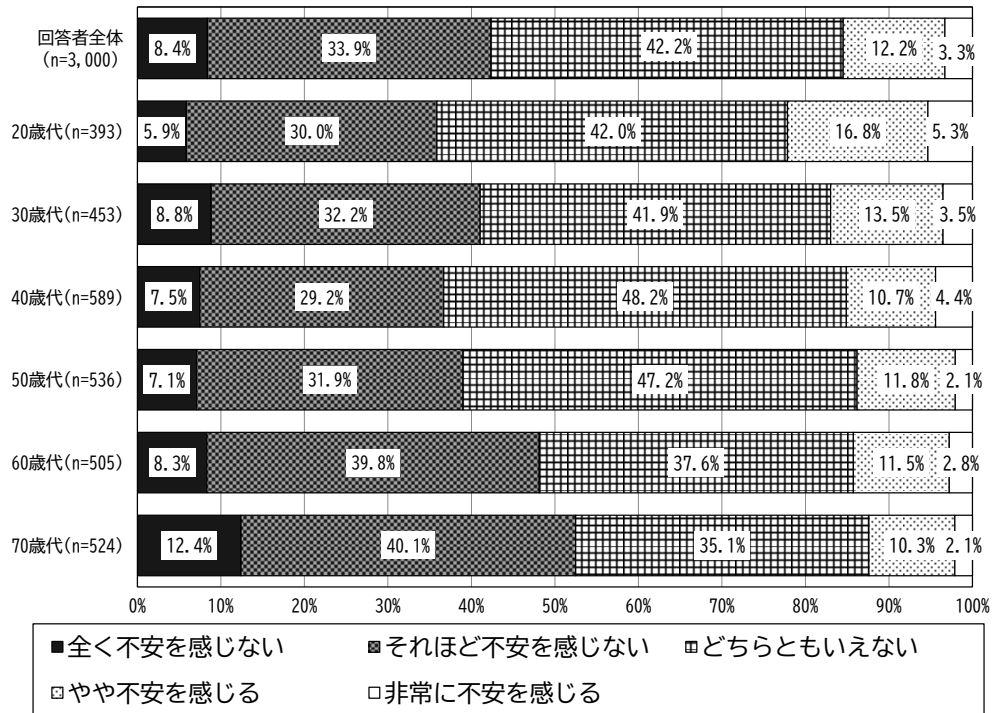
図表 43 「Bを希望する」「どちらかといえばBを希望する」の選択理由【複数回答】





専門医療機関の受診に制約を設ける形態として、「診療所の医師を事前に選んで登録し、その医師の判断で専門医療機関を受診することを原則とする」ことを想定した際の不安感を問うたところ、「全く不安を感じない」「それほど不安を感じない」との回答割合は計 42.3%であり、「やや不安を感じる」「非常に不安を感じる」の回答割合(計 15.5%)を上回る。これを年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるにつれ、「不安を感じない」旨の回答割合が高く、「不安を感じる」旨の回答割合が低い傾向がみられる(図表 44)。

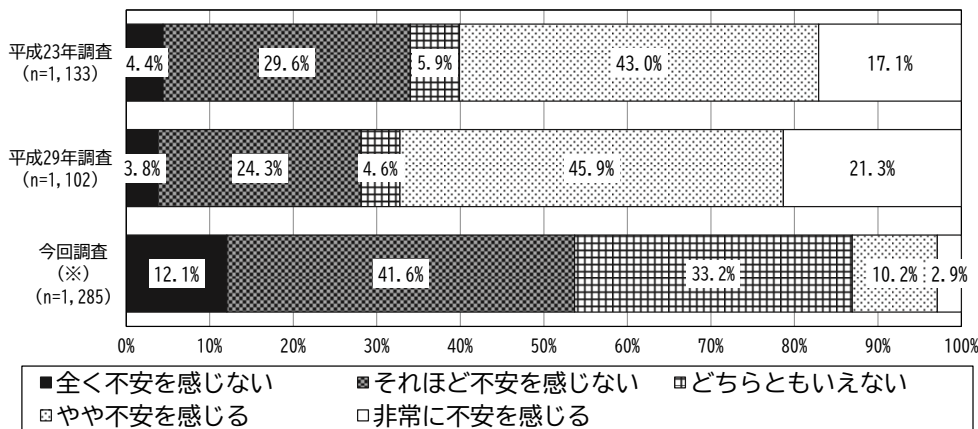
図表 44 事前登録した診療所の医師を経て専門医療機関を受診することを原則とした場合の不安  
【単数回答】



なお、平成 23 年・29 年調査では、「不調時に事前に登録した医師を必ず受診し、救急以外では病院を自由に受診できない」といった、今回調査よりもより強い制約を想定した設問を設けていたが、この際の調査結果と比べると、今回調査では、「不安を感じない」旨の回答割合が上昇し、「不安を感じる」旨の回答割合は大幅に下降した(図表 45)。「事前登録したかかりつけ医を受診 → 専門医療機関の受診」という原則を設けることにはさほどの抵抗感はなくとも、例外を認めないような大幅な制限に対しては、不安感や抵抗感をもつ国民が多いことが推察される。

図表 45 専門医療機関の受診に条件を設けた場合の不安(過去調査との比較)【単数回答】

調査年次	設問で設けた条件	集計対象とした回答者
平成 23 年調査	一般診療所の医師を事前に選んで登録しておき、体に何か不調を感じたときには、最初にその医師を必ず受診し、救急以外では病院を自由に受診できない	外来受診のあり方として、「B:最初に決まった医師を受診し、その医師の判断で、必要に応じて病院などの専門医療機関を受診する」ことを「希望」または「どちらかといえば希望」した回答者
平成 29 年調査	診療所の医師を事前に選んで登録しておき、体に何か不調を感じたときには、最初にその医師を必ず受診するというきまりが導入され、その医師からの紹介状があるか、救急時以外には病院を自由に受診できない	
今回調査	診療所の医師を事前に選んで登録し、その医師の判断で専門医療機関を受診することを原則とする	



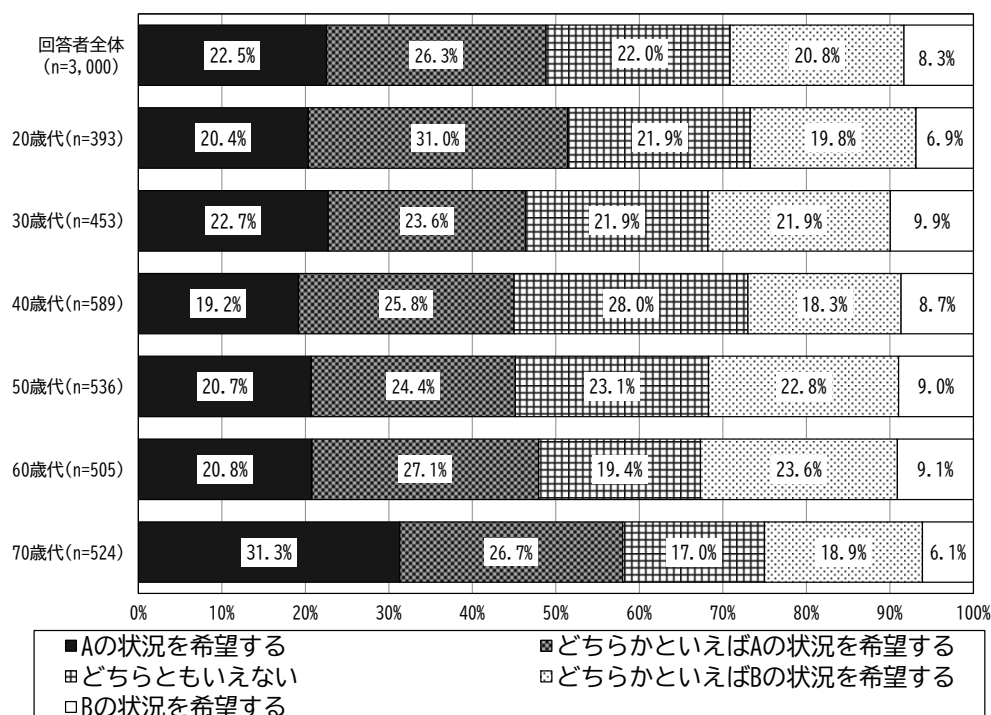
※本図では、調査年次間の比較のため、回答者(n=3,000)のうち、外来受診のあり方として、「B:最初に決まった医師を受診し、その医師の判断で、必要に応じて病院などの専門医療機関を受診する」ことを「希望」または「どちらかといえば希望」した回答者(n=1,285)を集計対象としている。

### 3. 地域の病院のあり方に関する希望

地域の病院のあり方について、「A. 自宅から多少遠くとも、スタッフや設備などの体制が充実した病院に入院ができる」状況と、「B. スタッフや設備などの体制に多少の制約はあるが、自宅から近い病院に入院ができる」状況のどちらを希望するかについて、「Aの状況を希望する」「どちらかといえばAの状況を希望する」の回答割合は計 48.8%であり、「Bの状況を希望する」「どちらかといえばBの状況を希望する」の回答割合（計 29.1%）を上回る。年齢階級別にみると、70歳代のA指向が他の年齢階級以上に強い（図表 46）。

図表 46 地域の病院のあり方に関する希望【単数回答】

- A. 自宅から多少遠くとも、スタッフや設備などの体制が充実した病院に入院ができる。  
 B. スタッフや設備などの体制に多少の制約はあるが、自宅から近い病院に入院ができる。



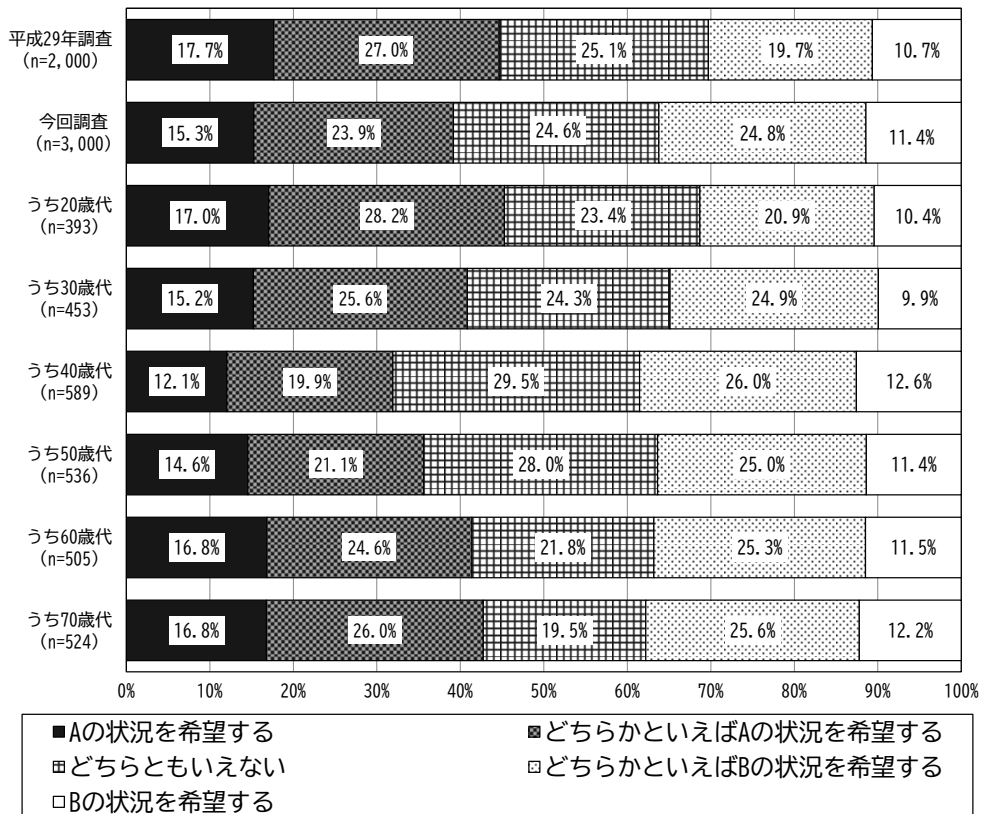
#### 4. 入院のあり方に関する希望

入院のあり方について、「A. 病気の各ステージ(発症直後の急性期(重症期)→リハビリテーションを行う回復期→その後の慢性期→退院して地域へ など)に応じて、それぞれの医療機能に特化した地域内の複数の医療機関に入院する」状況と、「B. 病気のステージにかかわらず、1つの医療機関に継続して入院する」状況のどちらを希望するかについて、「Aの状況を希望する」「どちらかといえばAの状況を希望する」の回答割合は計39.2%であり、「Bの状況を希望する」「どちらかといえばBの状況を希望する」の回答割合(計36.2%)と同程度である。

前回平成29年調査では、「Aの意見に賛成」「Aの意見にどちらかといえば賛成」が計44.7%、「Bの意見に賛成」「Bの意見にどちらかといえば賛成」が計30.3%であったため、今回調査では、平成29年調査よりもB指向が強まったと考えられる(図表47)。

図表 47 入院のあり方に関する希望【単数回答】

調査年次	Aの内容	Bの内容
平成29年調査 (ABどちらに賛成するか)	病気の各ステージ(発症直後の急性期・リハビリテーションを行う回復期・その後の慢性期)に応じて、それぞれの医療機能に特化した地域内の複数の医療機関に入院	病気のステージにかかわらず、1つの医療機関に継続して入院
今回調査 (ABどちらを希望するか)	病気の各ステージ(発症直後の急性期(重症期)→リハビリテーションを行う回復期→その後の慢性期→退院して地域へ など)に応じて、それぞれの医療機能に特化した地域内の複数の医療機関に入院	(同上)



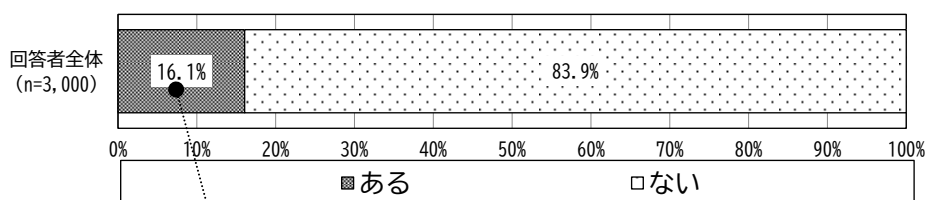
## 第 10 章 薬局の利用や服薬の状況等

### 1. 処方薬について困った経験の有無・内容

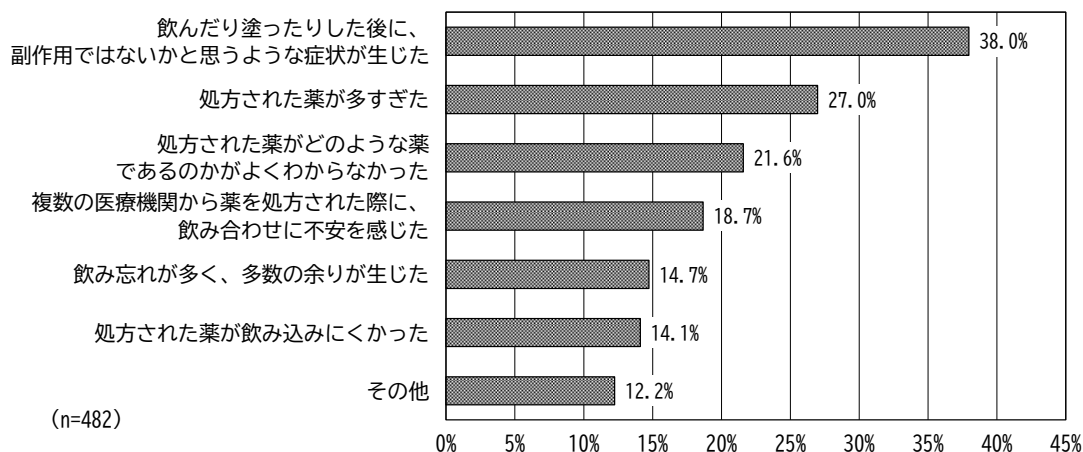
処方薬についてこれまでに困った経験の有無をについて、16.1%の回答者が「困った経験がある」と回答している(図表 48)。

困った経験の内容としては、「飲んだり塗ったりした後に、副作用ではないかと思うような症状が生じた」(38.0%)との回答が最も多く、次いで「処方された薬が多すぎた」(27.0%)、「処方された薬がどのような薬であるのかがよくわからなかった」(21.6%)との回答が多い(図表 49)。

図表 48 処方薬について困った経験の有無【単数回答】



図表 49 処方薬について困った経験の内容【複数回答】

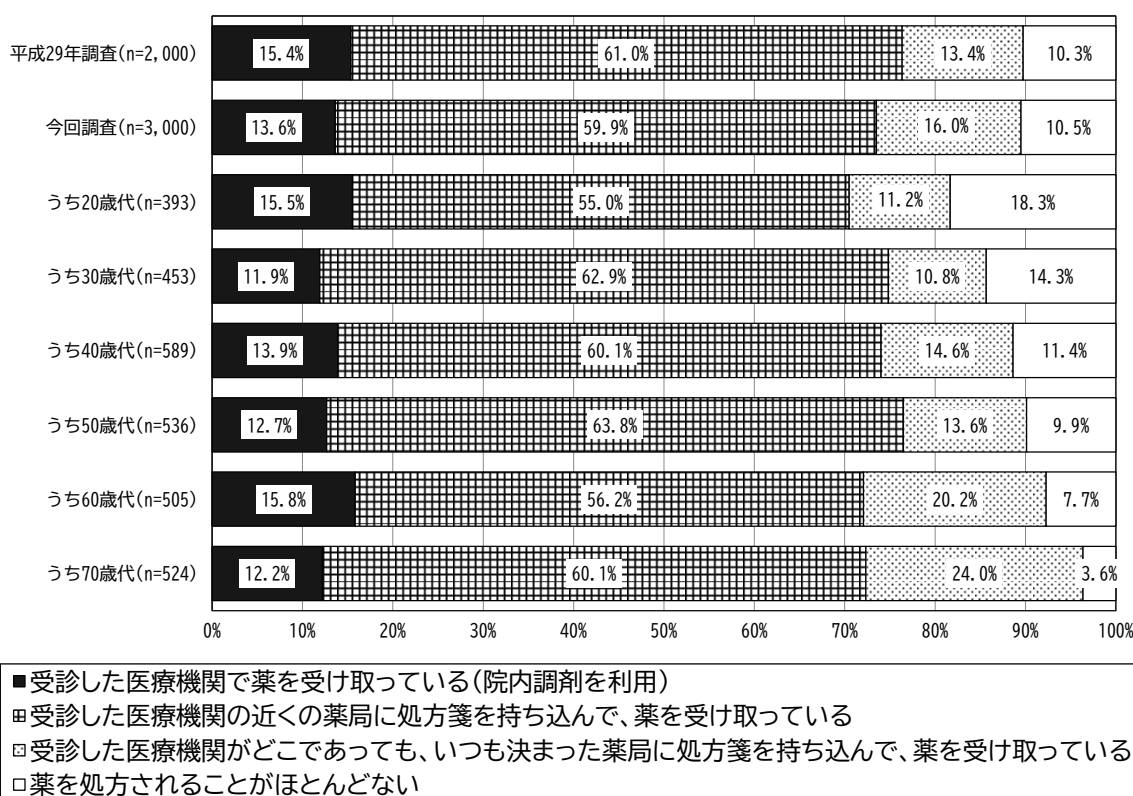


## 2. 処方薬の主な受取り場所とかかりつけ薬剤師

病院や診療所を受診した際の薬の主な受取り場所について、回答者の59.9%が、「受診した医療機関の近くの薬局」と回答している。これは、前回平成29年調査(61.0%)から横ばいである。一方、前回平成29年調査と比べて、「いつも決まった薬局」との回答割合が上昇し(13.4%→16.0%)、「受診した医療機関(院内調剤)」(15.4%→13.6%)を逆転している。

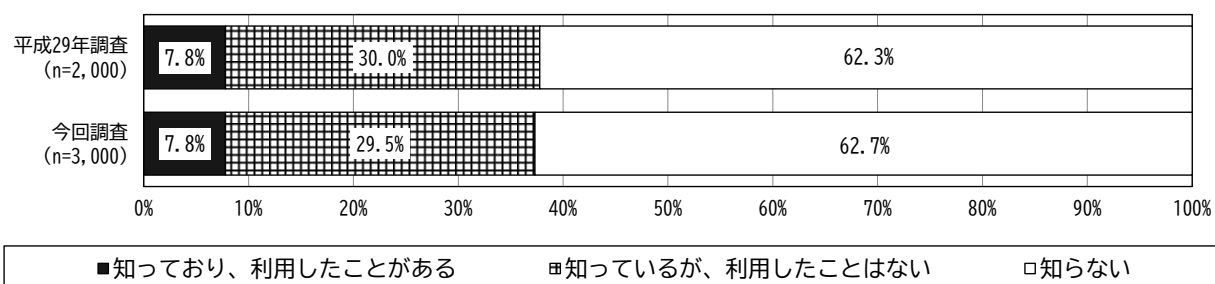
年齢階級別には、年齢階級が上がるにつれて、「いつも決まった薬局」との回答割合が高い傾向がみられる(図表50)。

図表 50 病院や診療所を受診した際の薬の主な受取り場所【単数回答】



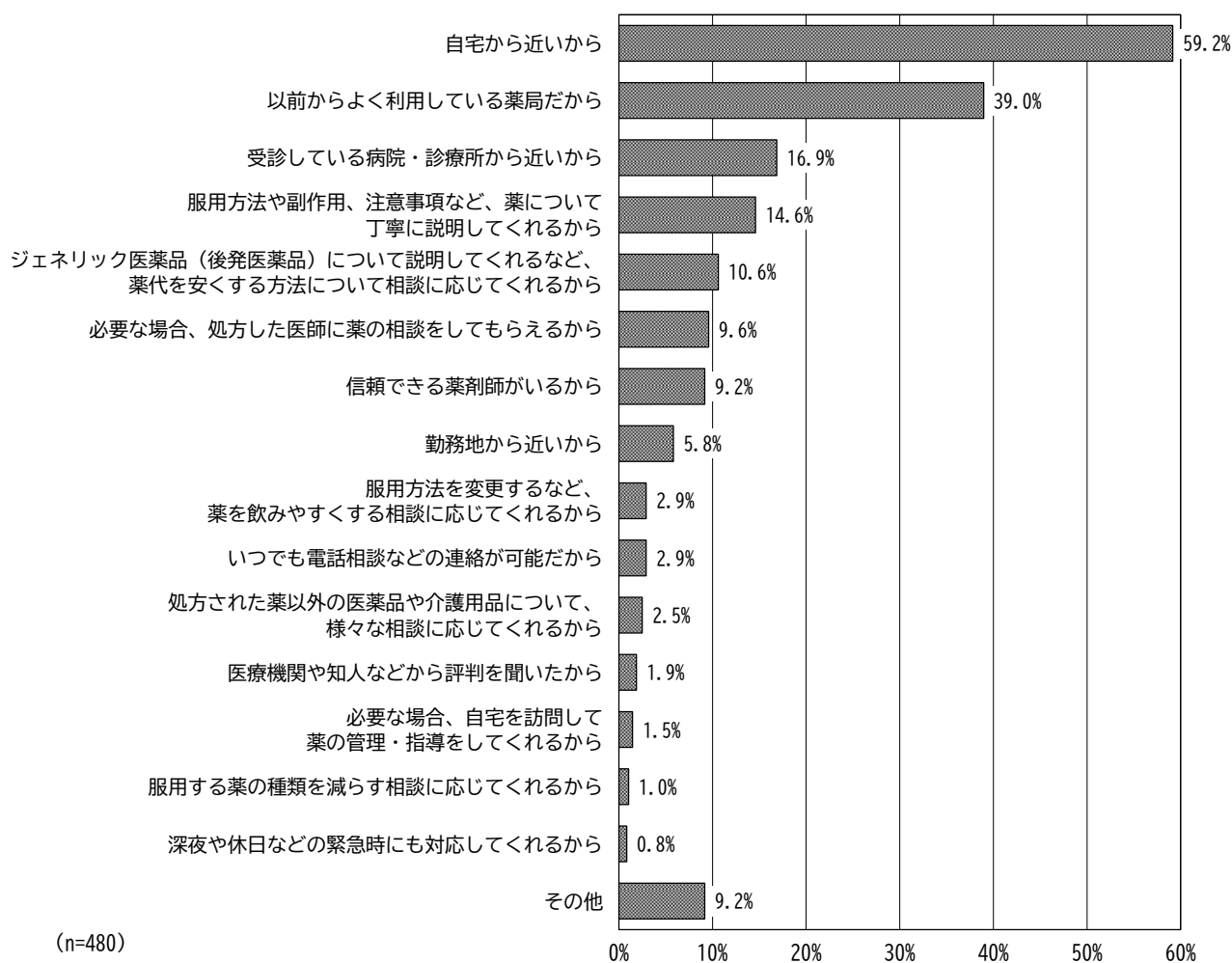
一方で、「かかりつけ薬剤師」について、「知っており、利用したことがある」との回答割合は7.8%にとどまり、平成29年度調査(7.8%)と比べても横ばいである(図表51)。

図表 51 かかりつけ薬剤師に関する認識状況【単数回答】



「いつも決まった薬局」(≡かかりつけ薬局)を利用している主な理由としては、「自宅から近いから」(59.2%)、「以前からよく利用している薬局だから」(39.0%)、「受診している病院・診療所から近いから」(16.9%)といった、場所の利便性や利用継続性を挙げる回答が多い(図表 52)。

図表 52 決まった薬局をいつも利用している主な理由【複数回答】

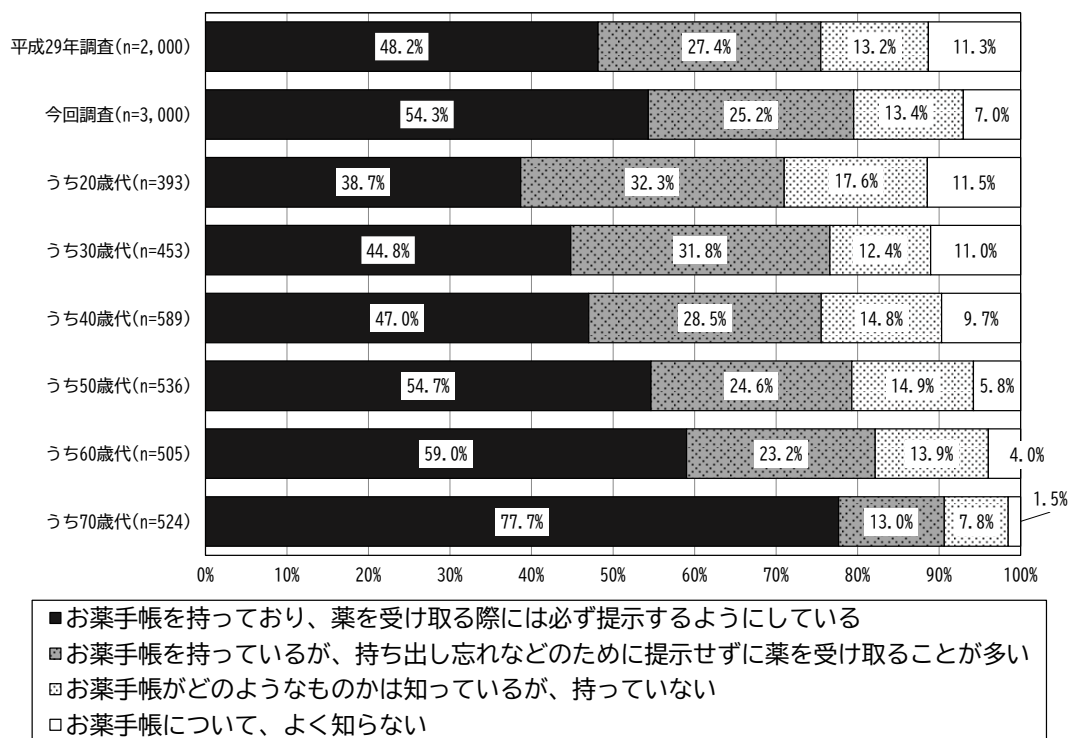


### 3. お薬手帳の利用状況

お薬手帳の利用状況について、「お薬手帳を持っており、薬を受け取る際には必ず提示するようにしている」との回答割合が、前回平成29年調査(48.2%)を超え、半数以上にのぼる(54.3%)。

お薬手帳の認知度や利用率は、高齢になるほど高く、70歳代では、77.7%の回答者が「お薬手帳を持っており、薬を受け取る際には必ず提示するようにしている」と回答している(図表53)。

図表 53 お薬手帳の利用状況【単数回答】

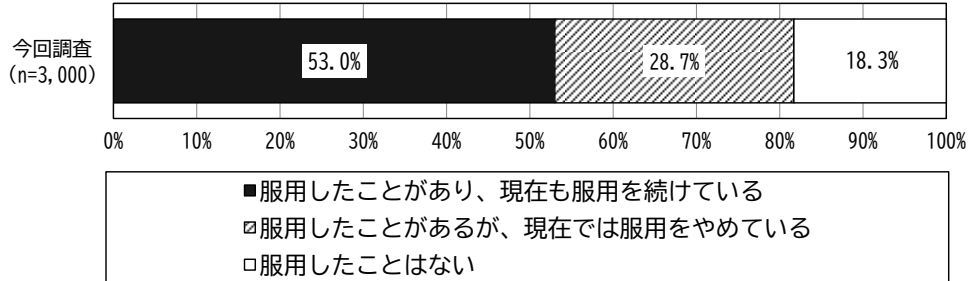




#### 4. ジェネリック医薬品の服用状況

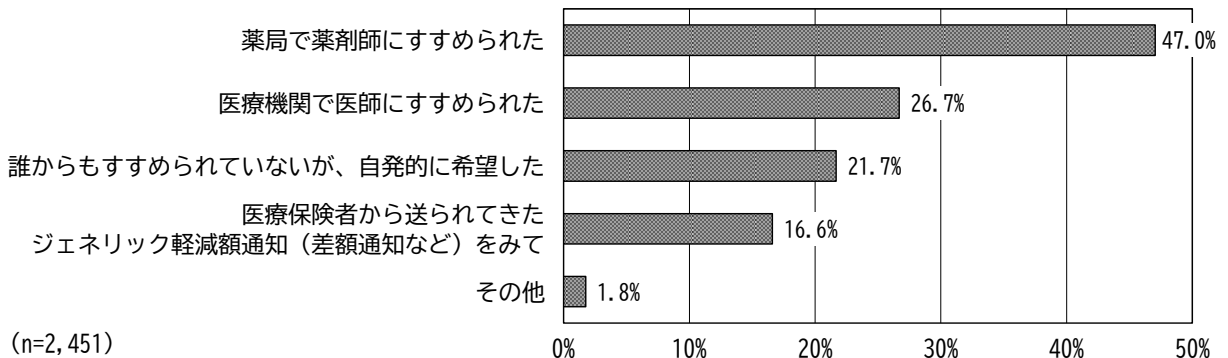
ジェネリック医薬品について、回答者の53.0%が「現在も服用を続けている」、28.7%が「現在では服用をやめている」、18.3%が「服用したことはない」と回答している(図表 54)。

図表 54 ジェネリック医薬品の服用経験の有無【単数回答】



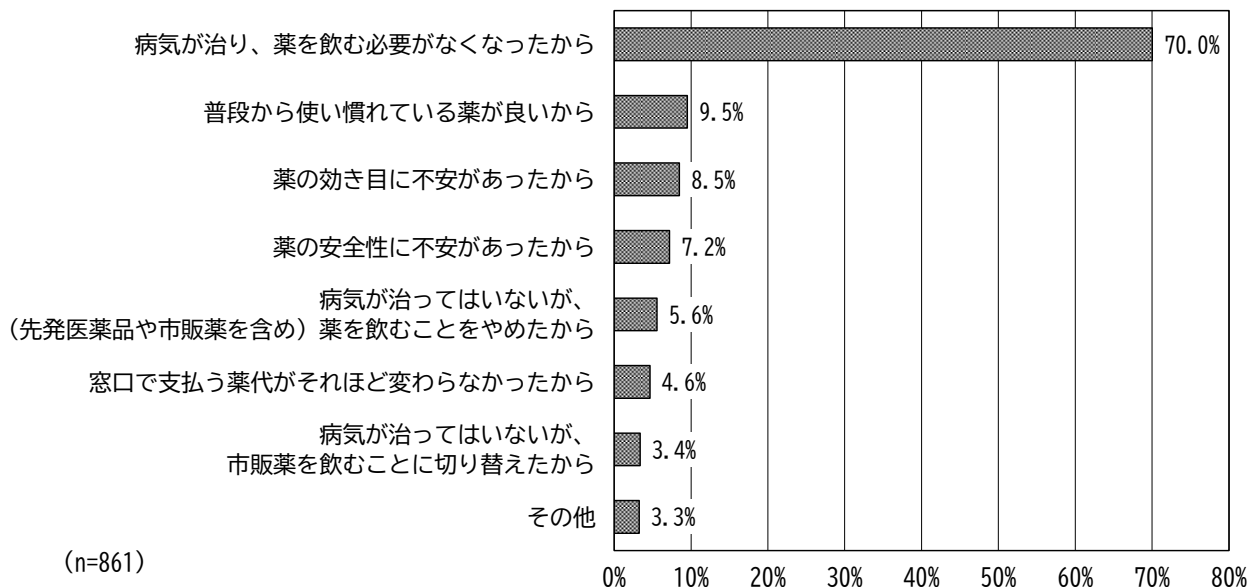
ジェネリック医薬品の服用経験がある回答者が服用した契機について、「薬局で薬剤師にすすめられた」(47.0%)との回答が最も多く、次いで「医療機関で医師にすすめられた」(同 26.7%)、「誰からもすすめられていないが、自発的に希望した」(同 21.7%)との回答が多い(図表 55)。

図表 55 ジェネリック医薬品の服用のきっかけ【複数回答】



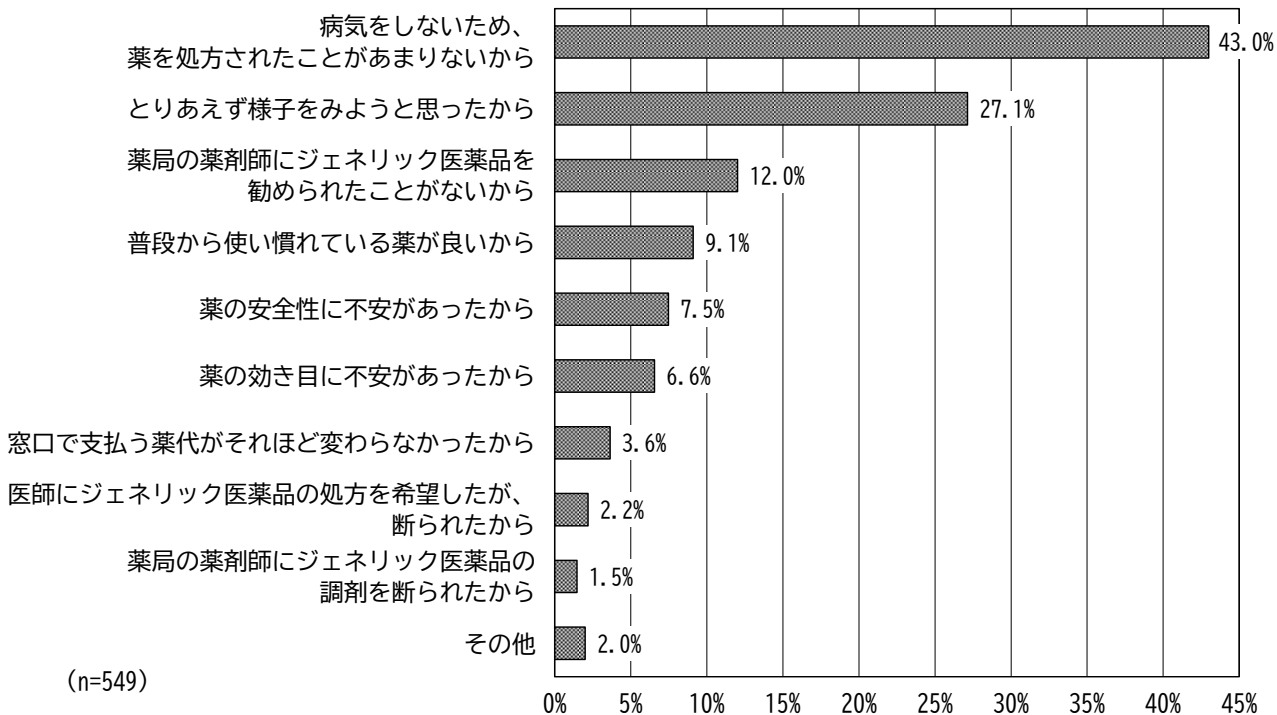
ジェネリック医薬品の服用をやめた回答者が服用をやめた背景について、「病気が治り、薬を飲む必要がなくなったから」(70.0%)以外の回答としては、「普段から使い慣れている薬が良いから」(9.5%)、「薬の効き目に不安があったから」(8.5%)、「薬の安全性に不安があったから」(7.2%)との回答が多い(図表 56)。

図表 56 ジェネリック医薬品の服用をやめた理由【複数回答】



ジェネリック医薬品を服用したことがない回答者が服用しない理由について、「病気をしないため、薬を処方されたことがあまりないから」(43.0%)以外の回答としては、「とりあえず様子を見ようと思ったから」(27.1%)、「薬局の薬剤師にジェネリック医薬品を勧められたことがないから」(12.0%)との回答が多い(図表57)。

図表 57 ジェネリック医薬品を服用したことがない理由【複数回答】

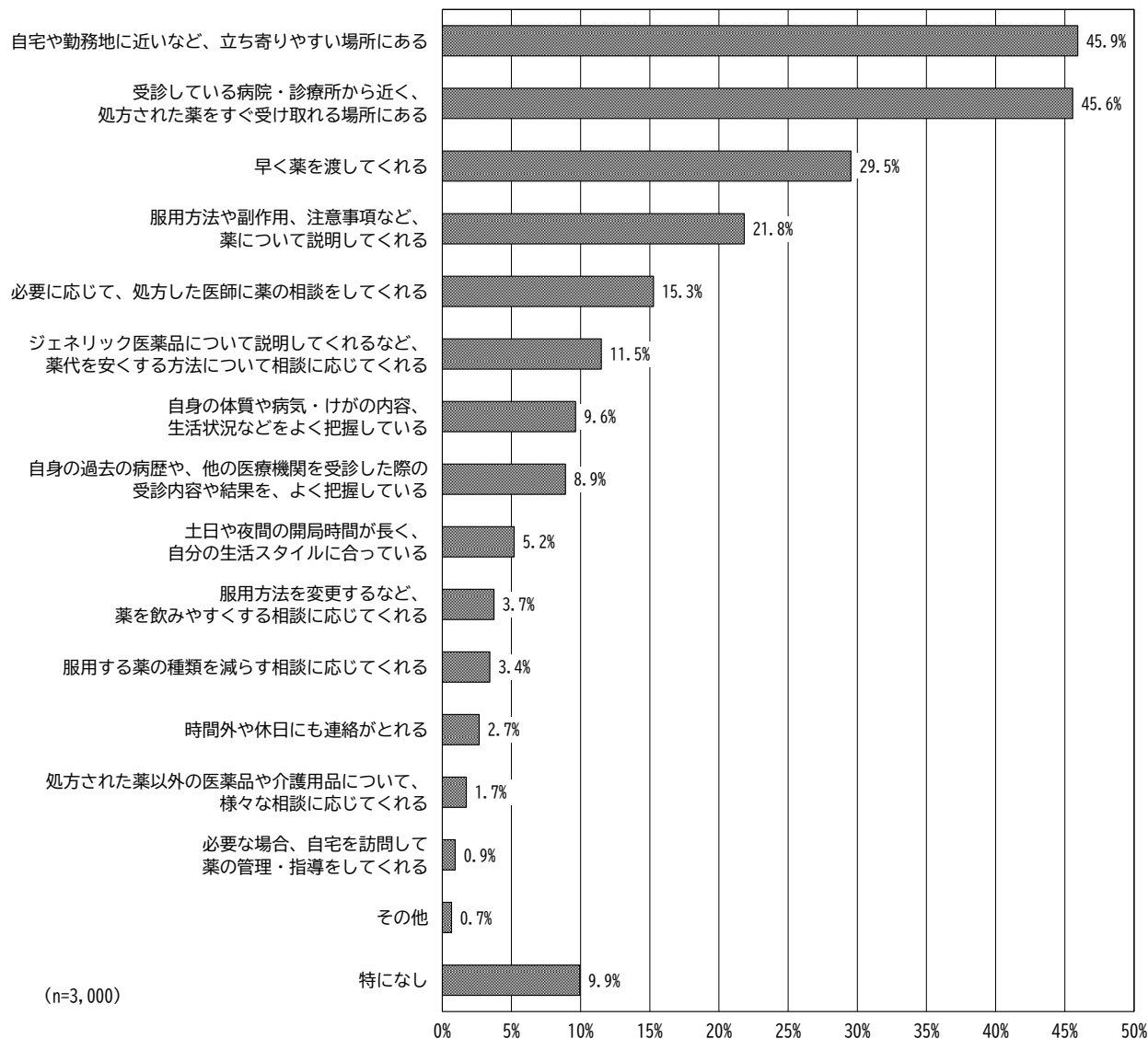


## 5. 薬局・薬剤師への期待とサービス

薬局・薬剤師への期待としては、「自宅や勤務地に近いなど、立ち寄りやすい場所にある」(45.9%)、「受診している病院・診療所から近く、処方された薬をすぐ受け取れる場所にある」(45.6%)、「早く薬を渡してくれる」(29.5%)など、利便性に係る項目が上位を占める。

次いで、「服用方法や副作用、注意事項など、薬について説明してくれる」(21.8%)、「必要に応じて、処方した医師に薬の相談をしてくれる」(15.3%)など、薬剤師の機能に関する回答が多い(図表 58)。

図表 58 薬局・薬剤師に期待すること(属性別)【複数回答】



これを年齢階級別にみると、「受診している病院・診療所から近く、処方された薬をすぐ受け取れる場所にある」及び「服用方法や副作用、注意事項など、薬について説明してくれる」について、年齢階級が高くなるほど、回答割合が高い傾向がみられる。

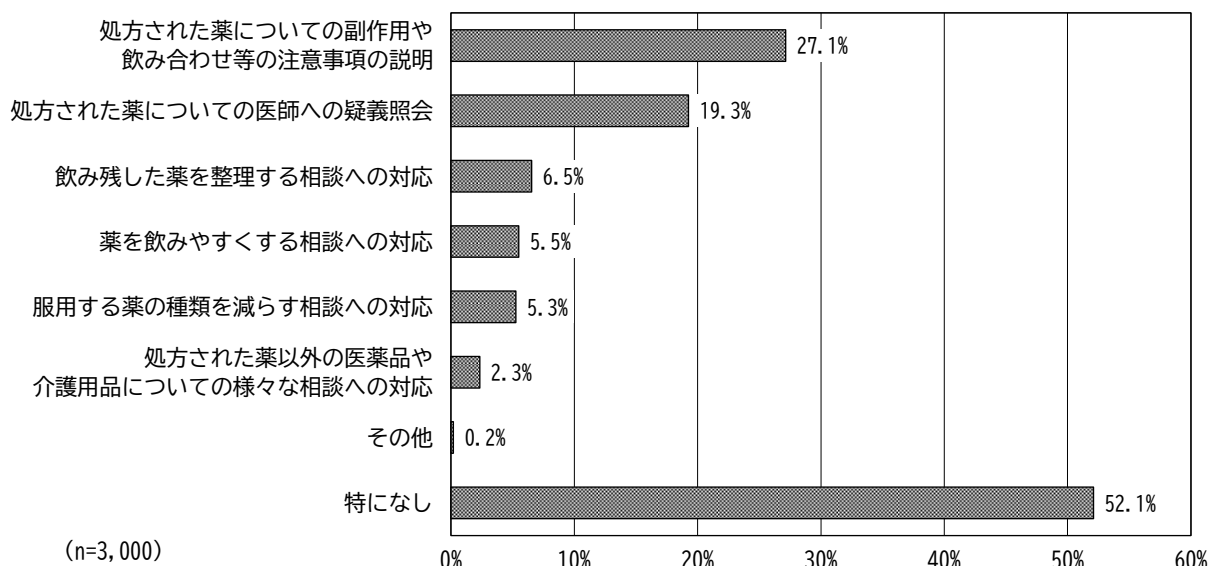
また、処方薬の受取り場所別にみると、「いつも決まった薬局に処方箋を持ち込む」回答者では、全体平均に比べ、「自宅や勤務地に近いなど、立ち寄りやすい場所にある」との回答割合が高く、56.0%にのぼる(図表 59)。

図表 59 薬局・薬剤師に期待すること(上位6項目、属性別)【複数回答】

		自宅や勤務地に近いなど、立ち寄りやすい場所にある	受診している病院・診療所から近く、処方された薬をすぐ受け取れる場所にある	早く薬を渡してくれる	服用方法や副作用、注意事項など、薬について説明してくれる	必要に応じて、処方した医師に薬の相談をしてくれる	ジェネリック医薬品について説明してくれるなど、薬代を安くする方法について相談に応じてくれる
全体(n=3,000)		45.9%	45.6%	29.5%	21.8%	15.3%	11.5%
年齢	20歳代(n=393)	47.1%	35.9%	30.3%	16.0%	14.8%	10.4%
	30歳代(n=453)	48.1%	40.8%	32.0%	21.0%	15.0%	8.4%
	40歳代(n=589)	46.9%	42.6%	33.6%	15.8%	11.9%	9.5%
	50歳代(n=536)	46.1%	47.2%	28.7%	20.1%	15.3%	13.2%
	60歳代(n=505)	45.3%	50.1%	28.3%	26.9%	18.2%	11.7%
	70歳代(n=524)	42.6%	54.2%	24.2%	30.5%	16.8%	15.3%
処方薬の受取り場所	受診した医療機関で薬を受け取っている(院内調剤を利用)(n=409)	52.8%	45.7%	25.7%	17.6%	11.7%	11.7%
	受診した医療機関の近くの薬局に処方箋を持ち込んで、薬を受け取っている(n=1,796)	43.8%	56.8%	32.9%	25.3%	16.4%	12.4%
	受診した医療機関がどこであっても、いつも決まった薬局に処方箋を持ち込んで、薬を受け取っている(n=480)	56.0%	22.9%	29.4%	22.9%	18.8%	12.5%
	薬を処方されることがほとんどない(n=315)	33.7%	15.6%	15.9%	6.0%	7.9%	4.4%

処方薬を受け取る薬局で実際に受けたことがあるサービスについて、半数以上の回答者(52.1%)が「特になし」と回答している。この他の回答としては、「処方された薬についての副作用や飲み合わせ等の注意事項の説明」(27.1%)、「処方された薬についての医師への疑義照会」(19.3%)との回答が多い(図表 60)。

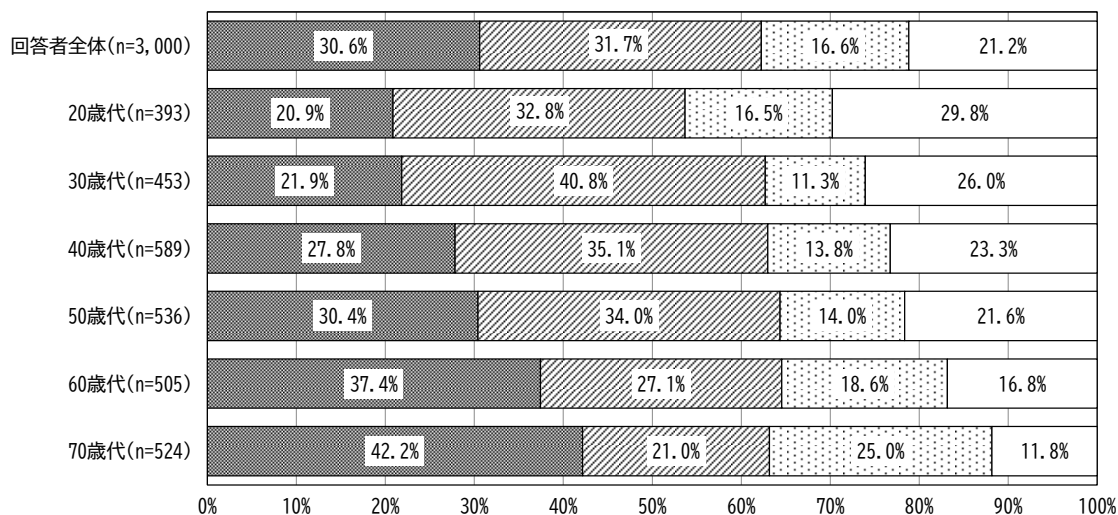
図表 60 処方薬を受け取る薬局で実際に受けたことがあるサービス【複数回答】



## 6. リフィル処方箋に関する意見

リフィル処方箋について、「リフィル処方箋を受けて通院の頻度を減らしたいと思う」との回答割合は(定期的に通院している傷病の有無合計で)62.3%、「リフィル処方箋は希望しない」との回答割合は(定期的に通院している傷病の有無合計で)37.7%である(図表 61)。

図表 61 リフィル処方箋に関する意見【単数回答】



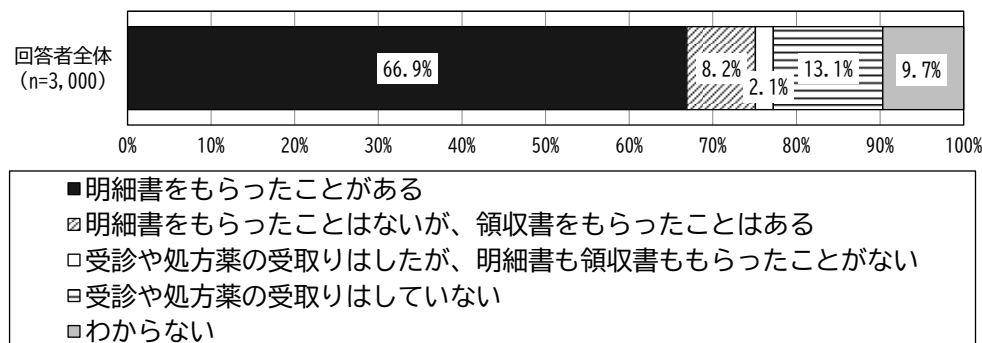
- 定期的に通院している病气やけががあるが、リフィル処方箋を受けて通院の頻度を減らしたいと思う
- ▣ 現時点で定期的に通院するような病气やけがはないが、そのような病气やけがになった場合、リフィル処方箋を受けて通院の頻度を減らしたいと思う
- 定期的に通院している病气やけががあるが、これまで通り医師の診断を受ける方が安心であり、リフィル処方箋は希望しない
- 現時点で定期的に通院するような病气やけがはないが、そのような病气やけがになった場合、定期的に医師の診断を受ける方が安心であり、リフィル処方箋は希望しない

# 第 11 章 医療機関等を受診した際の明細書

## 1. 医療機関や薬局における明細書・領収書の受取り状況

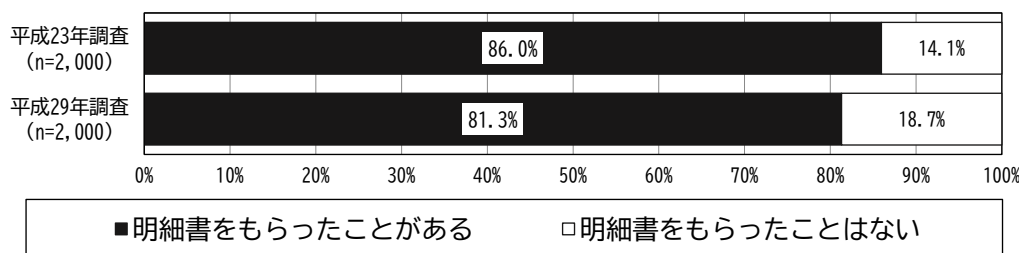
過去 1 年間の医療機関や薬局における明細書・領収書の受取り経験の有無について、66.9%の回答者が「明細書ももらったことがある」と回答している。これに対し、「この 1 年間で受診や処方薬の受取りはしたが、明細書も領収書ももらったことがない」との回答割合は 2.1%である(図表 62)。

図表 62 医療機関や薬局における明細書・領収書の受取り経験(過去 1 年間)【単数回答】



なお、「明細書ももらったことがある」回答者の割合は、平成 23 年・29 年調査(86.0%・81.3%、図表 63)よりも下降しているが、調査方法の変更に伴う影響が想定されるため、単純な比較には適さないことに留意を要する。たとえば、今回調査では、①調査画面にイメージ画像を掲載して明細書と領収書の違いを分かりやすくしたことに伴い、領収書のみを受け取った回答者が正しく回答した、②「わからない」の選択肢を設けたことで、受取りの記憶が不確かな回答者が「わからない」を選択した、③受取り期間を過去 1 年間に限定したこと等に伴い、1 年以上前の受取り経験者が「もらったことがない」を選択した、等の可能性がある。

図表 63 【参考】平成 23 年・29 年調査における医療機関や薬局における明細書の受取り経験【単数回答】

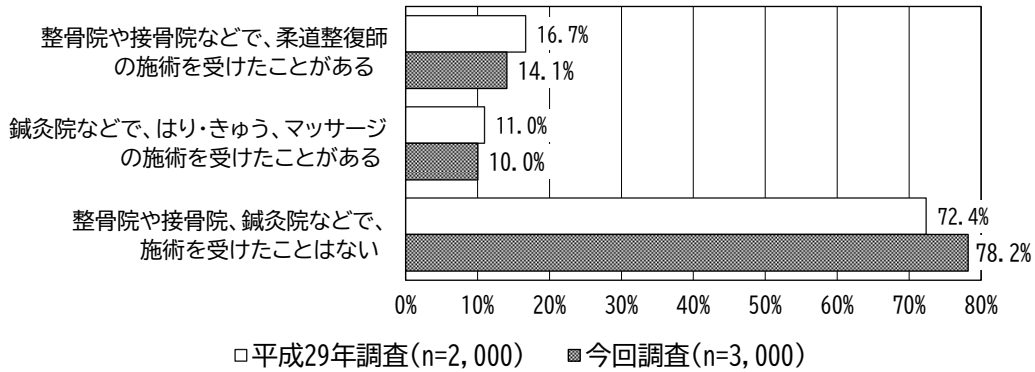


注:平成 23 年・29 年調査では、①明細書のイメージ画像を調査画面に掲載していない(領収書との違いを設問文に記載)、②領収書の受取り経験に関する選択肢と「わからない」の選択肢を設けていない、③受取りの期間を過去 1 年間に限定していない、の 3 点について、今回調査と異なる。

## 2. 整骨院・接骨院・鍼灸院等における明細書・領収書の受取り状況など

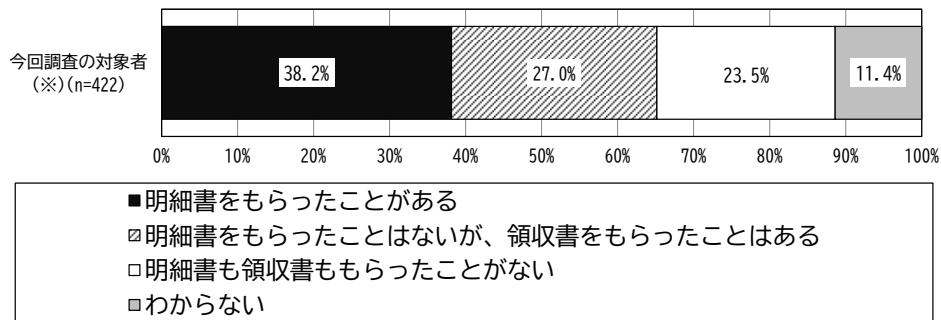
過去 1 年間に整骨院・接骨院・鍼灸院等において施術を受けた経験の有無について、14.1%の回答者が「整骨院や接骨院などで、柔道整復師の施術を受けたことがある」、10.0%の回答者が「鍼灸院などで、はり・きゅう、マッサージの施術を受けたことがある」と回答している(図表 64)。

図表 64 整骨院・接骨院・鍼灸院等において施術を受けた経験(過去 1 年間)【複数回答】

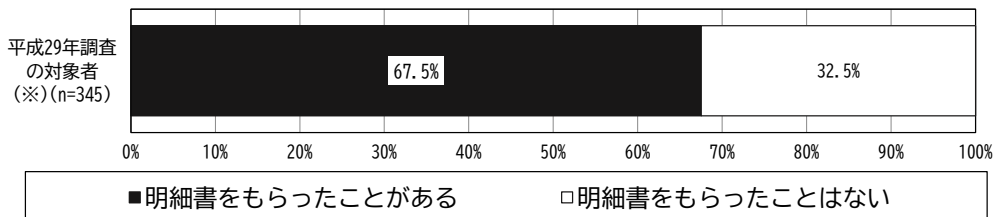


また、「整骨院や接骨院などで、柔道整復師の施術を受けたことがある」との回答者のうち、38.2%の回答者が「明細書もらったことがある」と回答している一方、23.5%の回答者が「明細書も領収書ももらったことがない」と回答している(図表 65)。

図表 65 整骨院・接骨院・鍼灸院等における明細書・領収書の受取り経験(過去 1 年間)【単数回答】



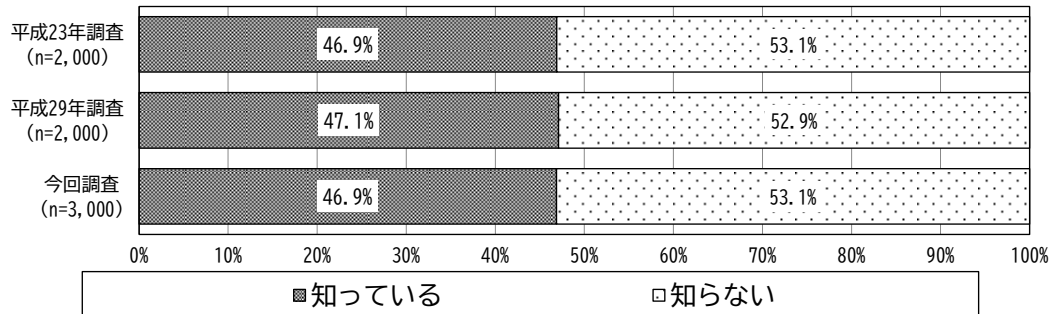
図表 66 【参考】平成 29 年調査における整骨院・接骨院・鍼灸院等における明細書・領収書の受取り経験(過去 1 年間)【単数回答】





また、整骨院や接骨院、鍼灸院等における柔道整復師やはり・きゅう、マッサージの施術にあたり健康保険の適用範囲が限定されていることについて、53.1%が「知らない」と回答している(図表 67)。

図表 67 整骨院や接骨院、鍼灸院等で、柔道整復師やはり・きゅう、マッサージの施術を受けた場合、健康保険の対象となる範囲が限定されていることの認知状況【単数回答】



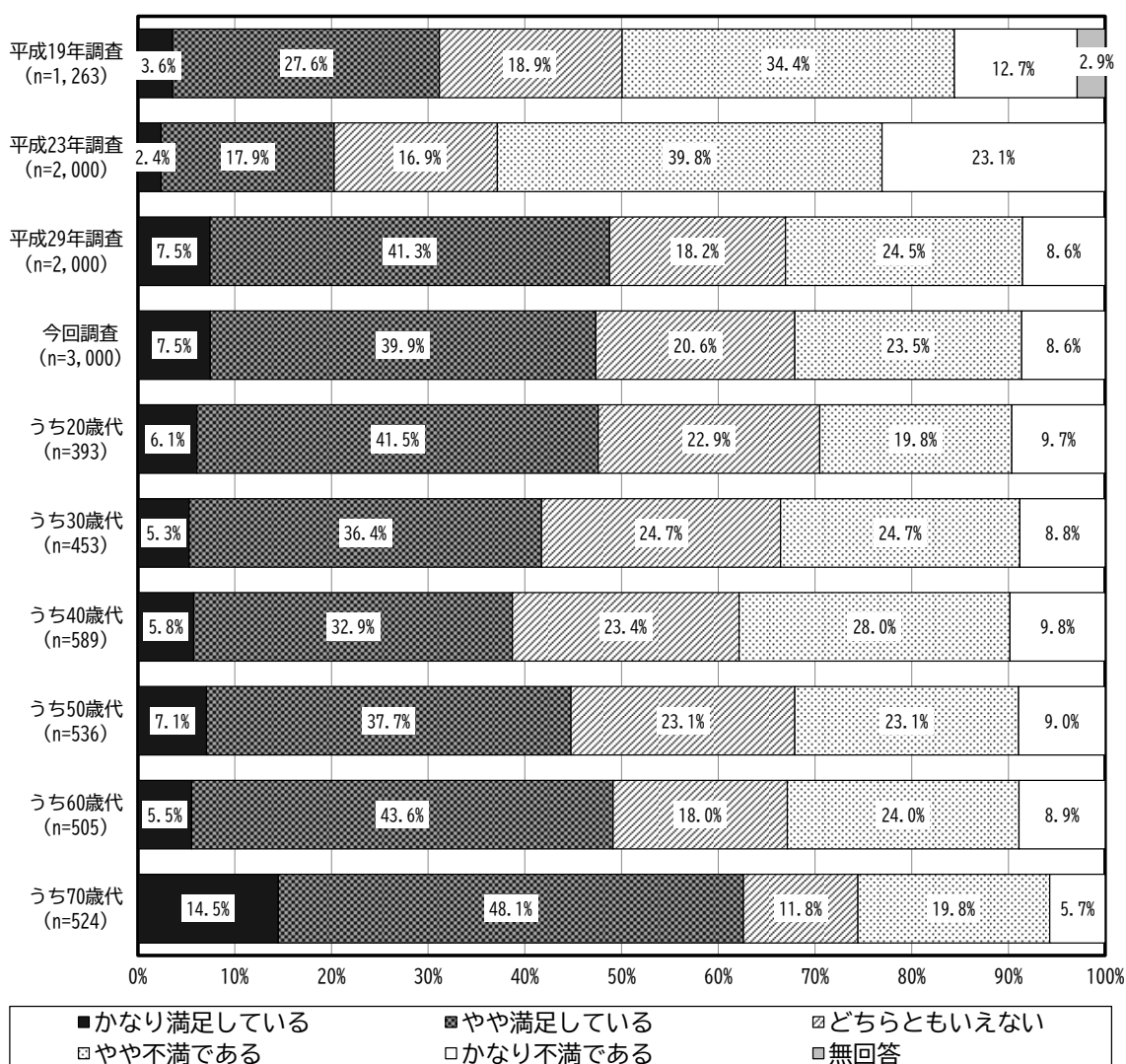
## 第12章 医療機関や受診のあり方

### 1. 日本の医療の状況に対する満足度

日本の医療の状況に対する満足度について、「かなり満足している」「やや満足している」との回答割合は計47.4%、「やや不満である」「かなり不満である」との回答割合は計32.1%である。平成23年調査から29年調査にかけて、満足の回答割合が上昇し、不満の回答割合が下降している一方、平成29年調査から今回調査にかけては回答の構成の変化は小さい。

年齢階級別に比較すると、40歳代以下では年齢階級が上がるほど不満寄りの回答割合が高く、40歳代以上では年齢階級が上がるほど満足寄りの回答割合が高い傾向がみられる(図表68)。

図表68 日本の医療の状況に対する満足度【単数回答】

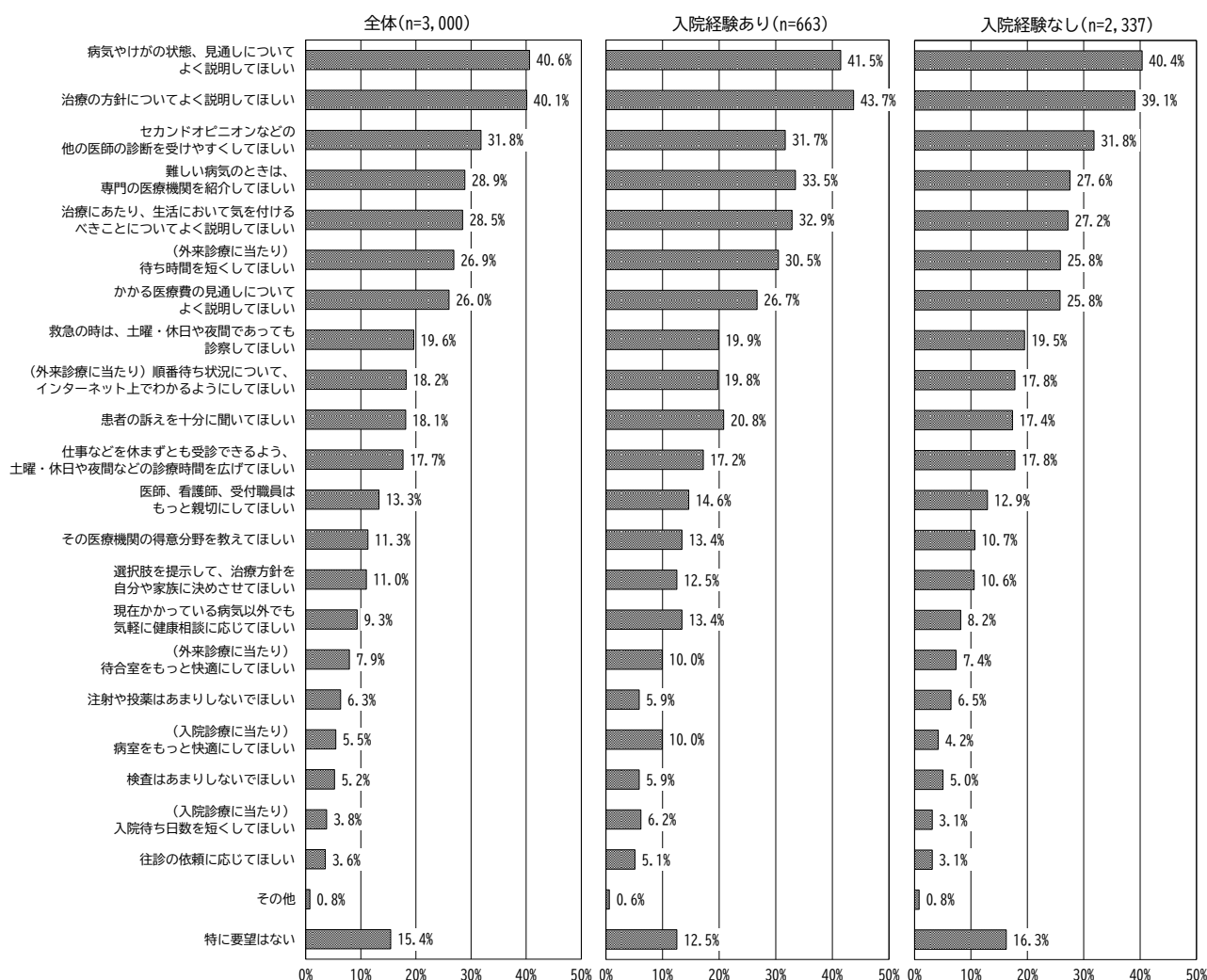


## 2. 医療機関に対する要望

医療機関に対する要望として、回答者全体では、「病気やけがの状態、見通しについてよく説明してほしい」(40.6%)、「治療の方針についてよく説明してほしい」(40.1%)、「セカンドオピニオンなどの他の医師の診断を受けやすくしてほしい」(31.8%)、「難しい病気の場合は、専門の医療機関を紹介してほしい」(28.9%)、「治療にあたり、生活において気を付けるべきことについてよく説明してほしい」(28.5%)の順に多い。

これを過去5年間に入院経験がある者となし者とで比較すると、大半の項目で「入院経験あり」の回答者の回答割合が、「入院経験なし」の回答者の回答割合を上回っており、特に「難しい病気の場合は、専門の医療機関を紹介してほしい」「治療にあたり、生活において気を付けるべきことについてよく説明してほしい」「現在かかっている病気以外でも気軽に健康相談に応じてほしい」などの項目で、その傾向が顕著である。しかし、「セカンドオピニオンなどの他の医師の診断を受けやすくしてほしい」「仕事などを休まずとも受診できるよう、土曜・休日や夜間などの診療時間を広げてほしい」「注射や投薬はあまりしないでほしい」の3項目については、「入院経験なし」の回答者の回答割合の方が高い(図表69)。

図表 69 医療機関に対する要望【複数回答】



### 3. 受診時や医療保険の手続きの電子化・オンライン化等の認知状況・利用経験・要望

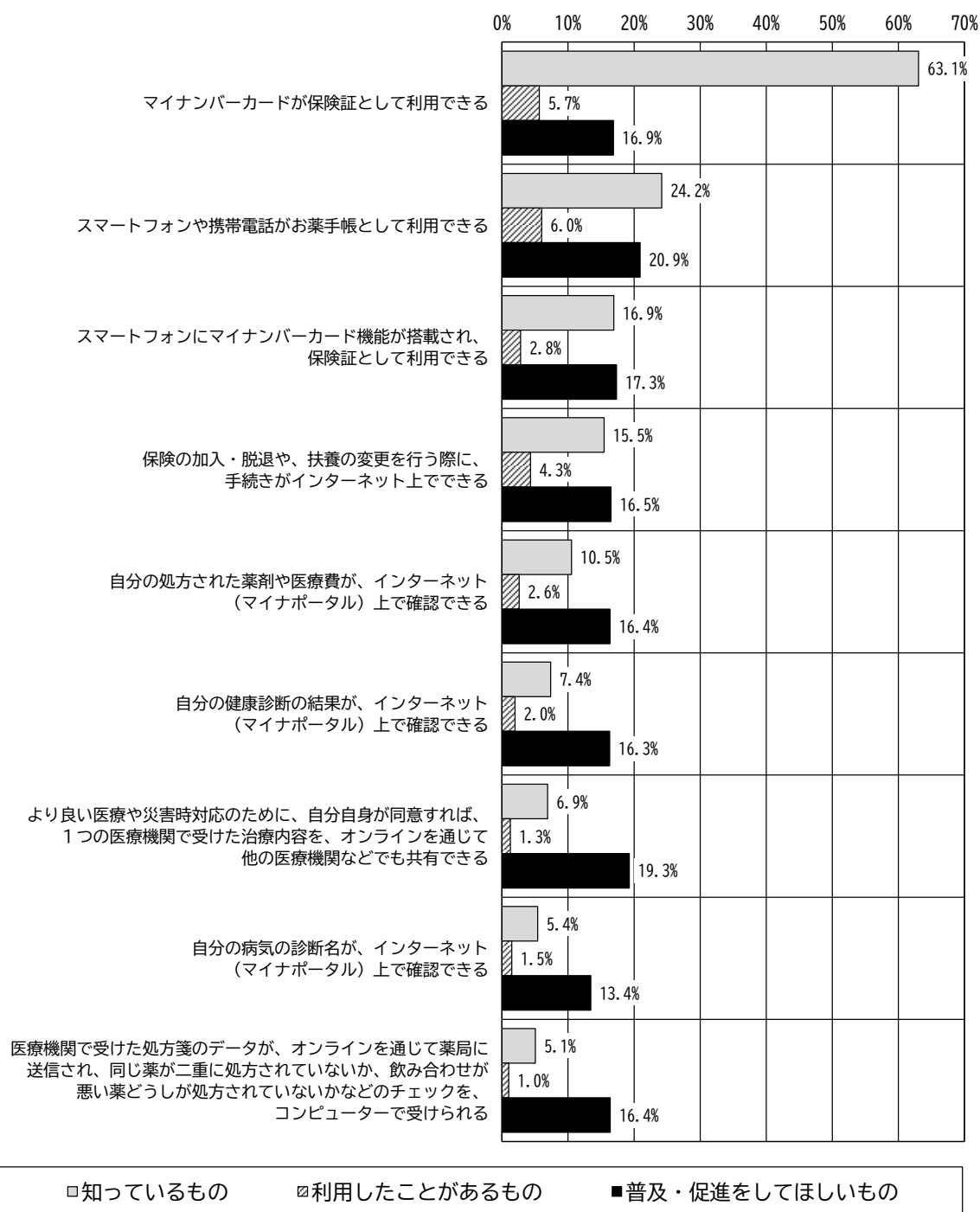
医療機関の受診時や、医療保険に係る手続きの電子化・オンライン化などに関する様々なサービスについて、それぞれの認知状況(知っているもの)・利用経験(利用したことがあるもの)・要望(普及・促進をしてほしいもの)を問うと、認知状況としては、「マイナンバーカードが保険証として利用できること」を知っている回答者の割合が 63.1%で最も高く、次いで「スマートフォンや携帯電話がお薬手帳として利用できること」(24.2%)との回答割合が高い。

利用経験としては、いずれのサービスについても、それを利用したことがある回答者の割合は 10%に満たないが、その中で最も回答割合が高いのは、「スマートフォンや携帯電話がお薬手帳として利用できる」(6.0%)である。

要望としては、選択肢に挙げた 9 つのサービス間で回答割合に大きな差はみられず、最も回答割合が高い「スマートフォンや携帯電話がお薬手帳として利用できること」が 20.9%、最も回答割合が低い「自分の病気の診断名が、インターネット(マイナポータル)上で確認できる」が 13.4%である。

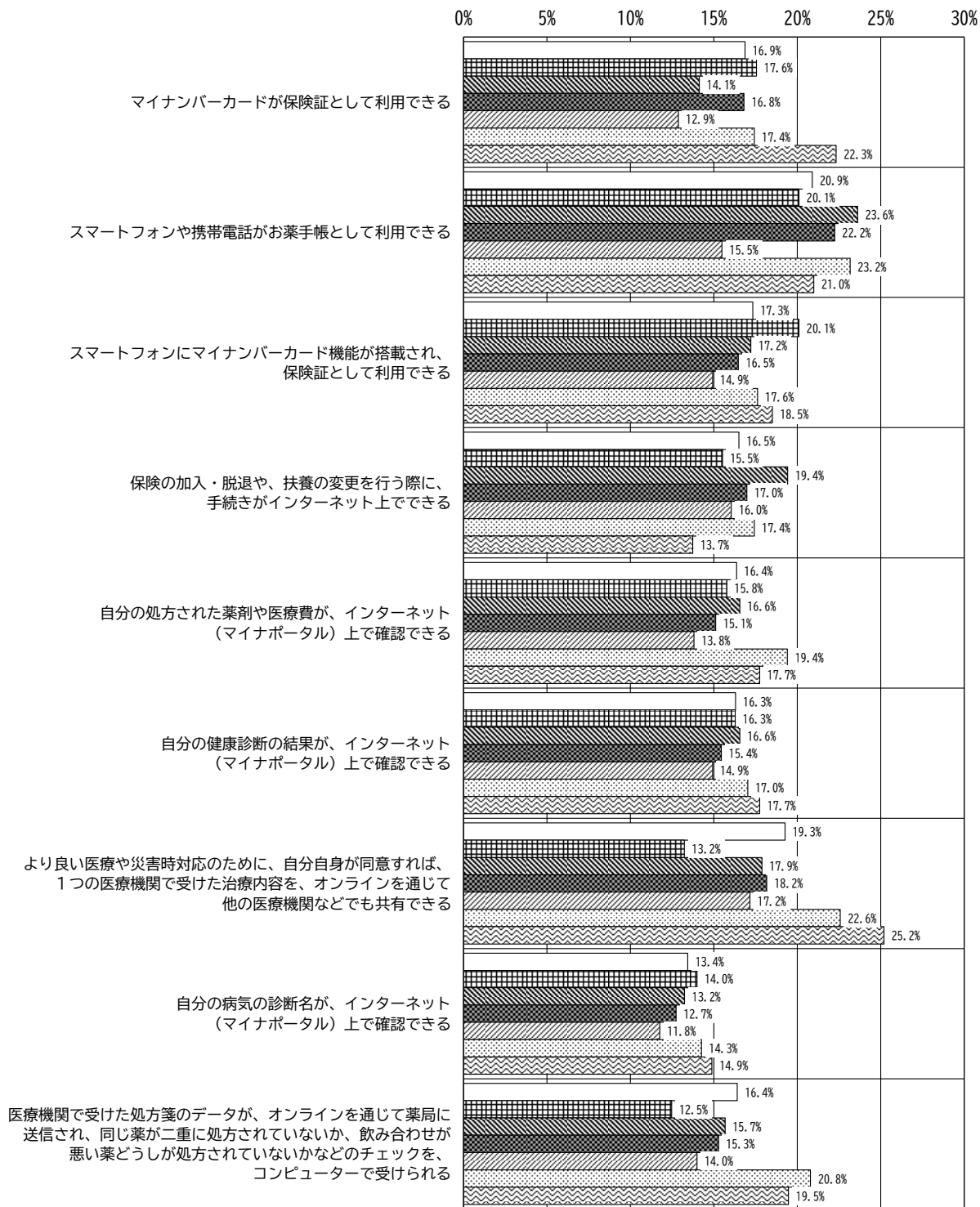
いずれのサービスについても、「利用したことがある」との回答割合が「普及・促進をしてほしい」との回答割合を下回っており、「普及・促進をしてほしい」と考えているにも関わらず、利用したことがない回答者がいる状況にあることが読み取れる(図表 70)。

図表 70 医療機関の受診時や、医療保険に係る手続きの電子化・オンライン化などに関する様々なサービスの認知状況・利用経験・要望【複数回答】



また、要望を年齢階級別にみると、自身の医療情報をマイナポータル上で確認できることや多機関間での共有、コンピューターによる処方方のチェックについて、60歳代・70歳代に相対的に強い要望がみられる(図表71)。

図表 71 年齢階級別 医療機関の受診時や、医療保険に係る手続きの電子化・オンライン化などに関する要望【複数回答】



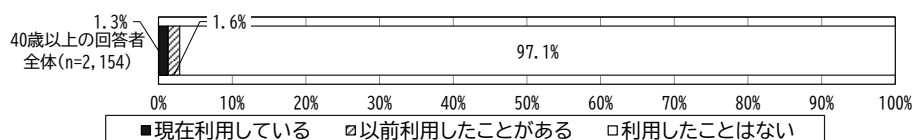
□回答者全体(n=3,000)    ■20歳代 (n=393)    ■30歳代 (n=453)    ■40歳代 (n=589)    ■50歳代 (n=536)    ■60歳代 (n=505)    ■70歳代 (n=524)

## 第13章 介護サービスの利用状況や要望

### 1. 回答者自身(40歳代以上)および家族の介護の状況

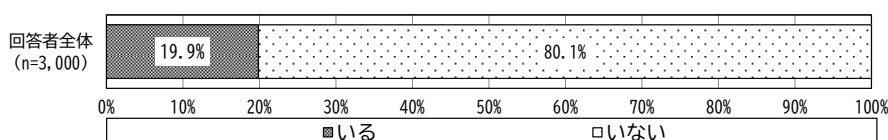
40歳以上の回答者のうち、自身の介護保険サービスの利用について、現在利用している回答者は1.3%、以前に利用していた回答者は1.6%である(図表72)。

図表72 40歳以上の回答者自身における介護保険サービス利用の有無【単数回答】



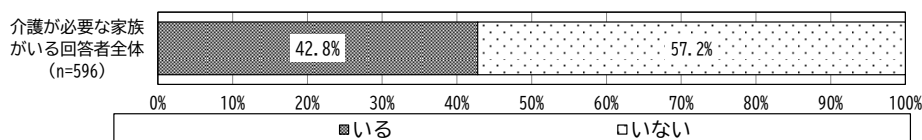
また、全回答者のうち、過去または現在において、寝たきりなどになり介護が必要になった家族がいる回答者は、19.9%である(図表73)。

図表73 介護の必要な家族の有無(過去を含む)【単数回答】



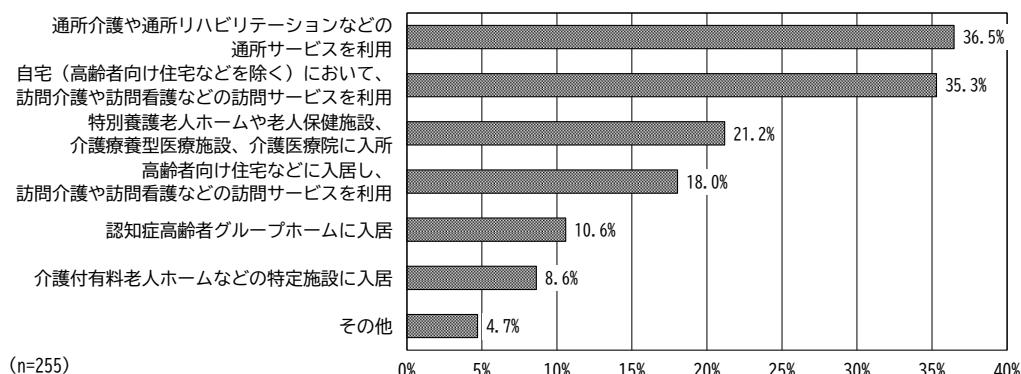
このうち、当該家族に現在介護保険サービスの利用がしている回答者は42.8%である(図表74)。

図表74 介護保険サービスを利用している家族の有無(現在のみ)【単数回答】



当該家族が利用している介護保険サービスとしては、通所サービスが36.5%、(高齢者向け住宅などを除く)自宅における訪問サービスが35.3%、介護保険施設への入所が21.2%、高齢者向け住宅などにおける訪問サービスが18.0%である(図表75)。

図表75 家族が利用している介護保険サービス【複数回答】

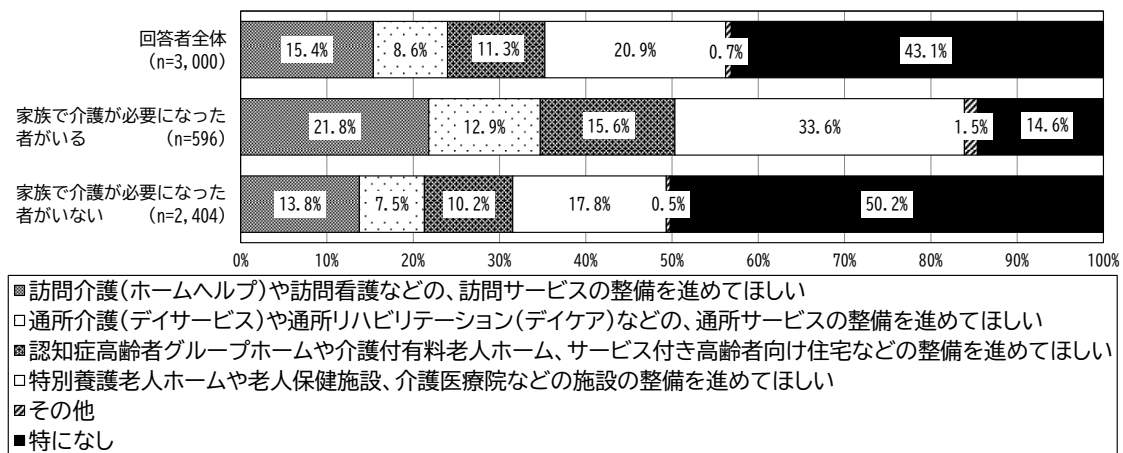


## 2. 介護保険サービスの拡大・充実に関する要望

拡大・充実を要望する介護保険サービスの種類について、単数で回答を求めたところ、43.1%の回答者が「特になし」と回答した他は、「特別養護老人ホームや老人保健施設、介護医療院などの施設(以下、「介護保険施設」)」(20.9%)、「訪問介護や訪問看護などの訪問サービス」(15.4%)、「認知症高齢者グループホームや介護付有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅(以下、「居住系サービス」)」(11.3%)、「通所介護や通所リハビリテーションなどの通所サービス」(8.6%)の順に回答が多かった。

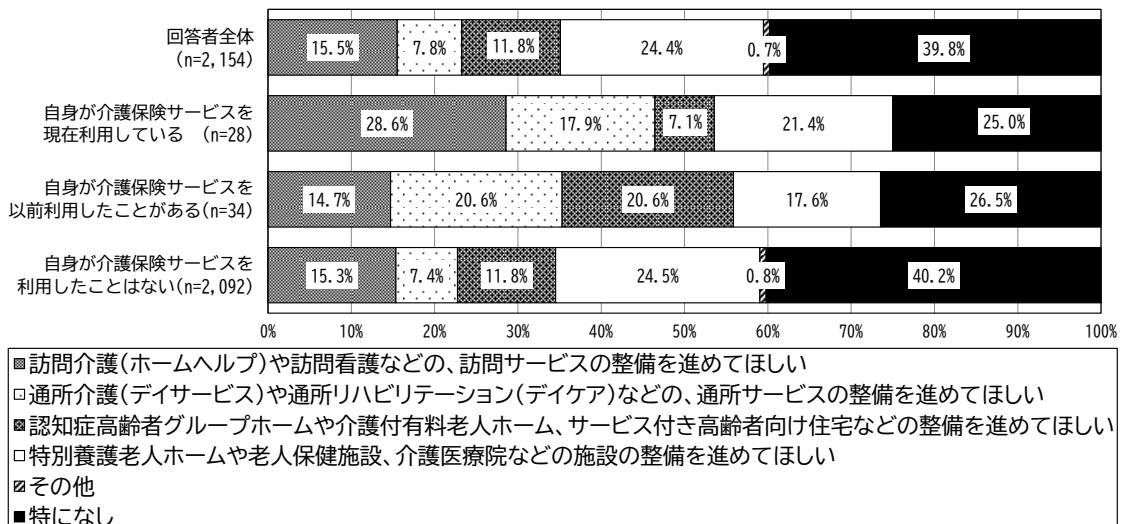
これを、家族に介護が必要となった者の有無で比較すると、介護が必要となった家族がいる回答者は、いない回答者と比べて「特になし」の回答割合が低く、各サービスの回答割合が高い。また、各サービスのうち、特に介護保険施設の拡大・充実を求める回答の多さが顕著である(図表 76)。

図表 76 拡大・充実を要望する介護保険サービス(介護が必要な家族の有無別)【単数回答】



また、40歳以上の回答者について、自身の介護保険サービスの利用状況ごとに比較すると、介護保険サービスを利用している/していた回答者は、利用したことがない回答者と比べて通所サービスの回答割合が高く、介護保険施設の回答割合が低い(図表 77)。

図表 77 拡大・充実を要望する介護保険サービス(40歳以上、自身の介護サービスの利用の有無別)【単数回答】



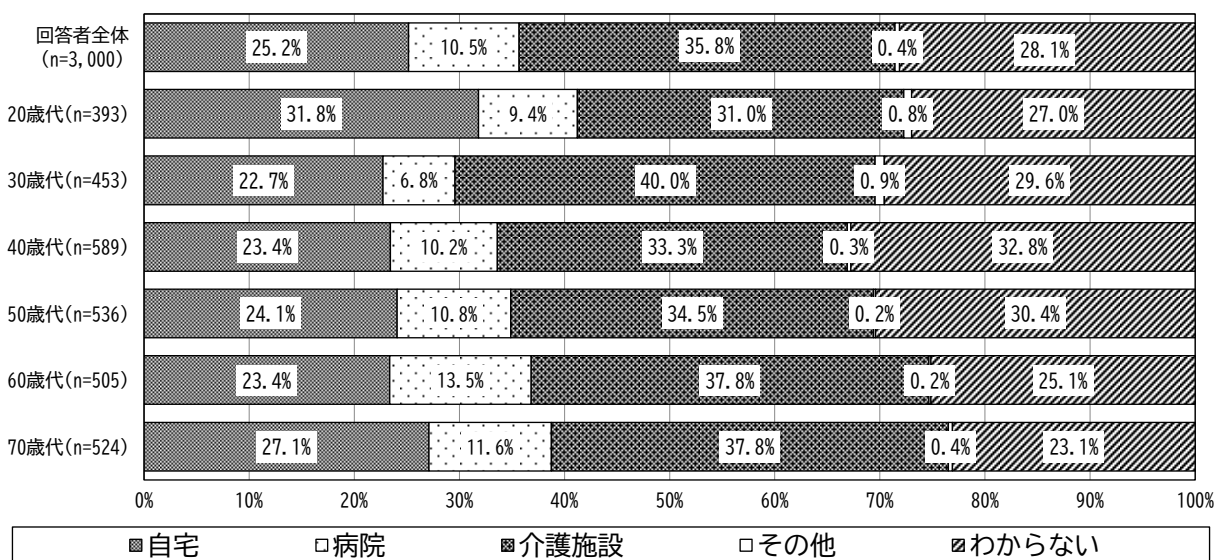


## 第14章 高齢期の生活・療養場所・終末期医療などに対する考え

### 1. 高齢期に寝たきりになり、介護が必要となった場合に介護を受けたい場所

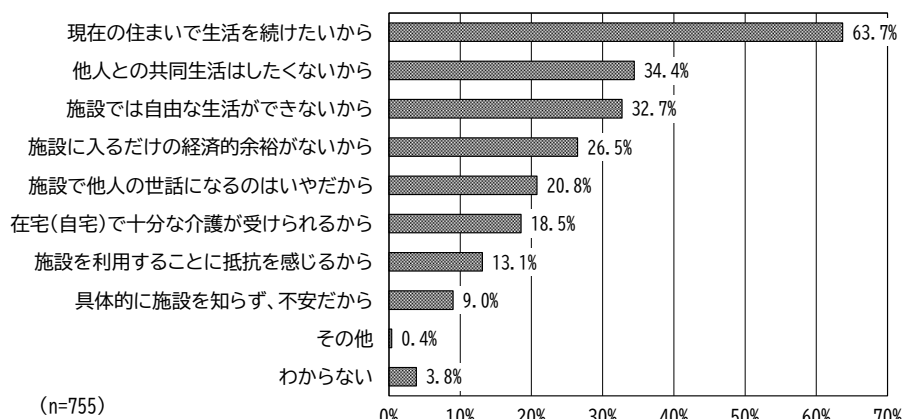
高齢期に寝たきりになり、介護が必要となった場合に介護を受けたい場所について、「介護施設」との回答が35.8%で最も多く、次いで「自宅」(25.2%)、「病院」(10.5%)の順に多い。一方、28.1%の回答者が、「わからない」と回答している(図表78)。

図表78 高齢期に寝たきりになり、介護が必要となった場合に介護を受けたい場所【単数回答】



自宅での生活を希望する理由としては、「現在の住まいで生活を続けたいから」(63.7%)、「他人との共同生活はしたくないから」(34.4%)、「施設では自由な生活ができないから」(32.7%)の順に多い(図表79)。

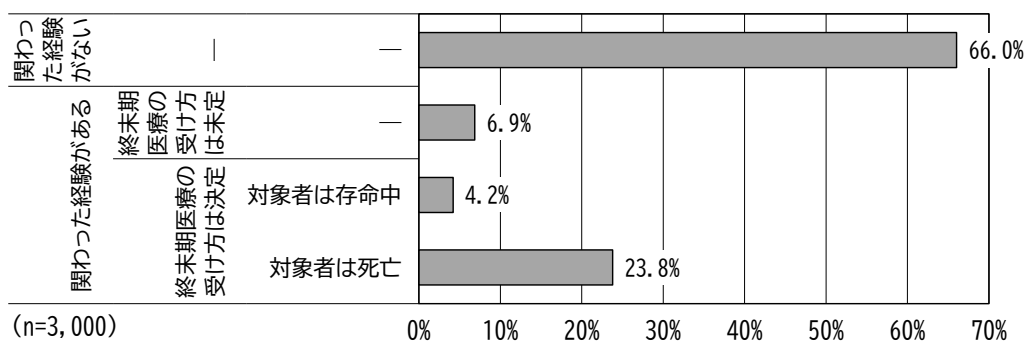
図表79 自宅で介護を受けたい理由【複数回答】



## 2. 家族・親族などが終末期にどのような医療を受けるかについて決める過程

家族・親族などが終末期にどのような医療を受けるかについて決める過程に関わった経験の有無について、66.0%の回答者が、「関わった経験はない」と回答している。また、「関わった経験がある」との回答の中で、最も回答割合が高い選択肢は、「終末期に受ける医療が決まっていて、対象者は既に死亡している」(23.8%)である(図表 80)。

図表 80 家族や親族などが終末期にどのような医療を受けるかについて決める過程に関わった経験の有無【複数回答】



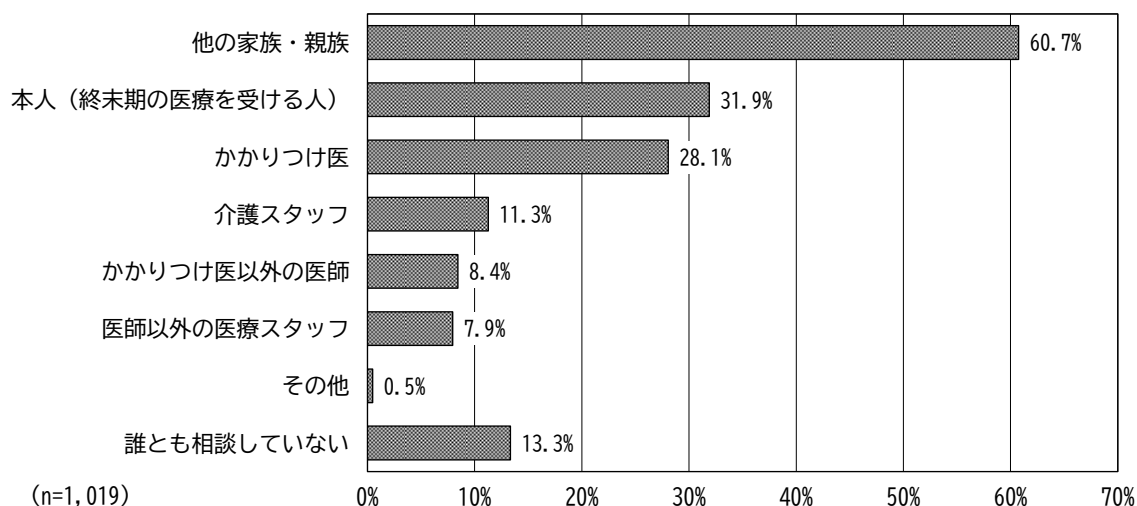
これを回答者の年齢階級別にみると、「関わった経験はない」との回答割合は、20歳代～40歳代が70%台であるのに対して、50歳代では66.5%、60歳代・70歳代では50%台と低い。反対に、「終末期に受ける医療が決まっていて、対象者は既に死亡している」との回答割合は、20歳代～40歳代が10%台であるのに対して、50歳代では22.9%、60歳代・70歳代では30%台と高い(図表 81)。

図表 81 年齢階級別 家族や親族などが終末期にどのような医療を受けるかについて決める過程に関わった経験の有無【複数回答】

終末期医療の決定過程への関与経験		経験なし		経験あり	
終末期医療の受け方		—		未定	
対象の家族・親族の状態		—		—	
		—		決定済み	
		—		存命中	
		—		既に死亡	
年齢階級	回答者全体 (n=3,000)	66.0%	6.9%	4.2%	23.8%
	20歳代 (n=393)	73.4%	9.0%	4.7%	12.9%
	30歳代 (n=453)	75.4%	7.8%	3.3%	13.5%
	40歳代 (n=589)	73.4%	6.4%	4.9%	15.3%
	50歳代 (n=536)	66.5%	5.9%	4.6%	22.9%
	60歳代 (n=505)	50.4%	6.5%	4.7%	38.4%
	70歳代 (n=524)	55.0%	5.9%	2.7%	36.4%

また、「関わった経験がある」回答者が、「家族・親族などが終末期にどのような医療を受けるかについて決める際に相談した相手」としては、「他の家族・親族」を挙げた回答者が、60.7%で最も多い。その一方、「本人（終末期の医療を受ける人）」を挙げた回答者はこれより少なく(31.9%)、「誰とも相談していない」との回答も 13.3%にのぼる。なお、医療・介護スタッフの中では、相談相手として回答割合が最も高いのは「かかりつけ医」(28.1%)であり、「介護スタッフ」(11.3%)がこれに次ぐ(図表 82)。

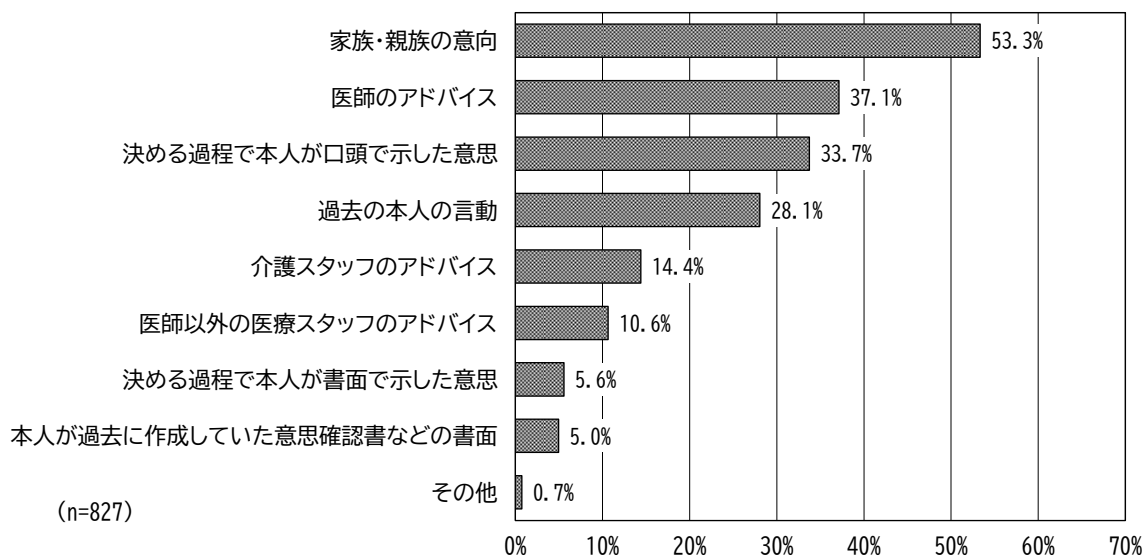
図表 82 家族や親族などが終末期にどのような医療を受けるかについて決める際に相談した相手  
【複数回答】



「当該家族・親族が終末期にどのような医療を受けるか決まっている/いた」との回答者の、「家族・親族などの終末期の医療のあり方に関する判断材料」としては、「家族・親族の意向」が 53.3%で最も多い。次に回答割合が高いのは「医師のアドバイス」(37.1%)であり、「決める過程で本人が口頭で示した意思」(33.7%)や「過去の本人の言動」(28.1%)の回答割合は、これよりも低い(図表 83)。

終末期の医療のあり方が、家族・親族の意向と医師によるアドバイスによって決められ、本人の意思の介在は限定的であることがうかがえる。

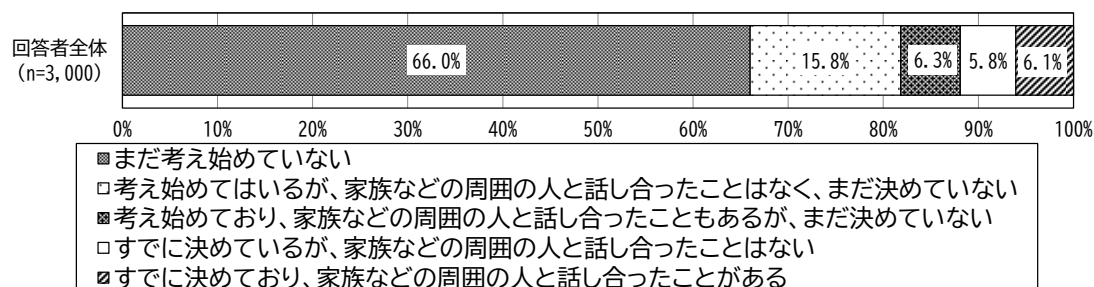
図表 83 家族や親族などが終末期にどのような医療を受けるかを決めるにあたっての判断材料【複数回答】



### 3. 自身の終末期の医療に対する考え

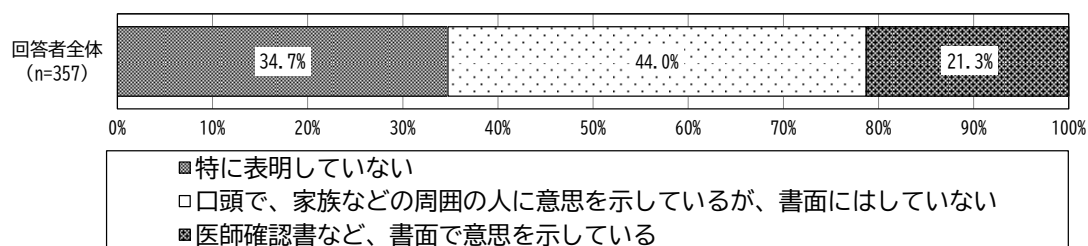
自身の終末期の医療のあり方について、66.0%の回答者が「まだ考え始めていない」、22.1%の回答者が「考え始めている」、11.9%の回答者が「すでに決めている」と回答している(図表 84)。

図表 84 自身の終末期に受ける医療について考え始めているか【単数回答】



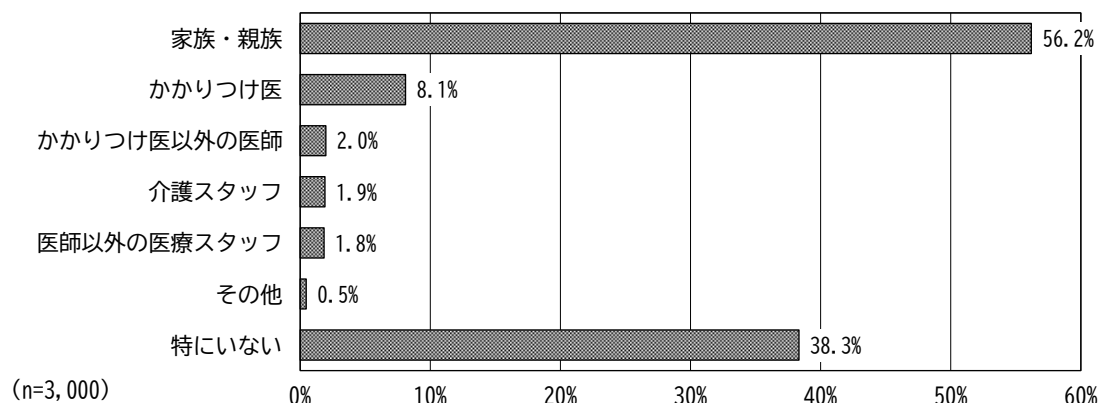
「すでに決めている」との回答者(11.9%)のうち、口頭または書面でその意思を表明しているのは 65.3%であり、残る 34.7%は、「特に表明していない」と回答している(図表 85)。

図表 85 自身の終末期に受ける医療についてどのような意思表示をしているか【単数回答】



自身の終末期の医療のあり方について、相談相手となりそうな人としては、「家族・親族」の回答割合が 56.2%で最も高いが、一方で、「特にいない」との回答割合も 4 割近くにのぼる(38.3%)。医療・介護スタッフは、いずれの選択肢も 10%を下回る(図表 86)。

図表 86 自身が終末期に受ける医療について相談相手となりそうな人【複数回答】



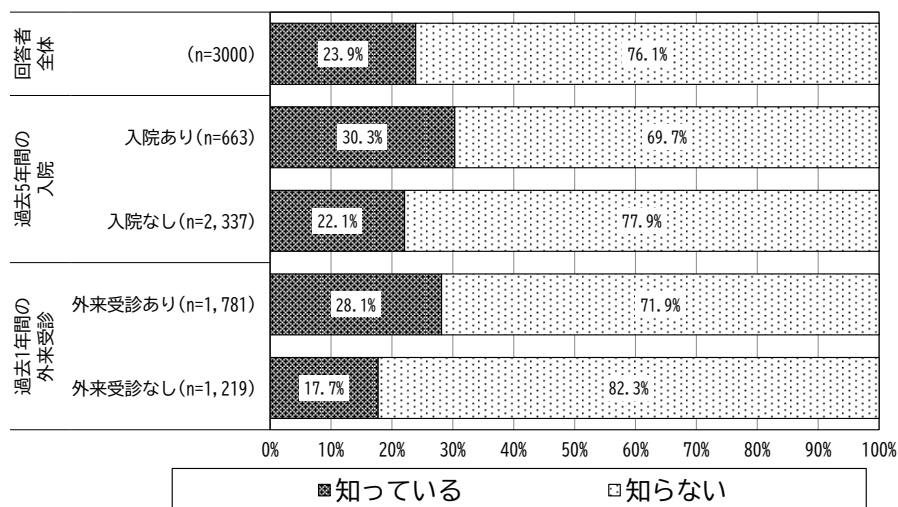
## 第 15 章 地域医療のあり方に関する考え

### 1. 日本の病床数の多さに関する認識

日本の人口当たり病床数が、他の先進国と比べて多いことについて、「知っている」との回答割合は 23.9% である。

「知っている」の回答割合は、「過去 5 年間における入院」「過去 1 年間における外来受診」のどちらについても、経験のある回答者が、ない回答者を上回る(図表 87)。

図表 87 人口当たりの病院・診療所の病床数が他の先進国と比べて多いことの認知状況【単数回答】

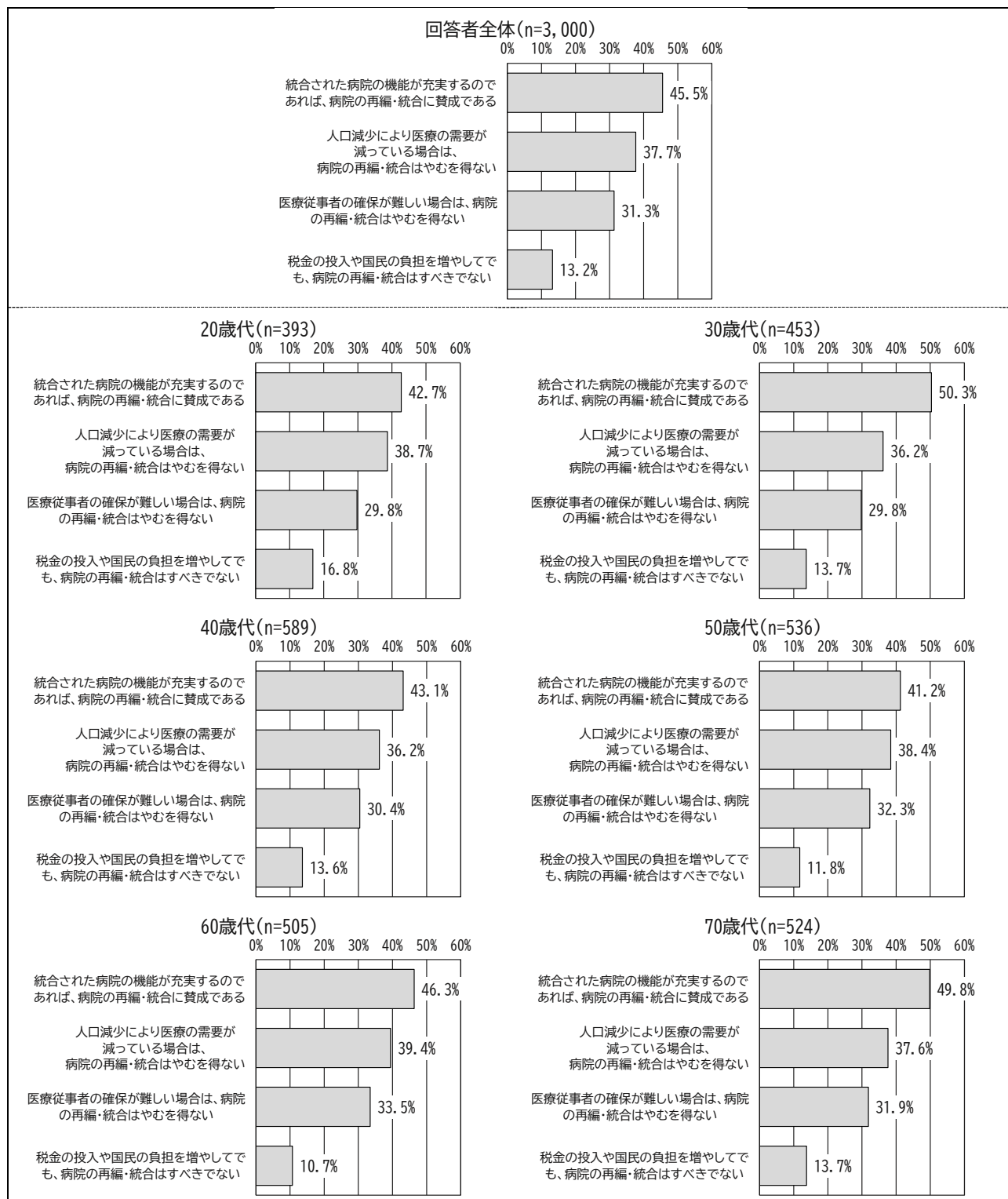


## 2. 病院の再編・統合についての考え

少子高齢化や人口減少が進む中で、地域医療の確保が難しくなりつつある地域の中に、近年、地域の医療関係者などによる協議を経て、実際に病院を再編・統合する計画を立てつつある地域もみられる。このことを提示した上で、地域における病院の再編・統合についての考えを問うと、45.5%の回答者が「統合された病院の機能が充実するのであれば、病院の再編・統合に賛成である」と回答し、37.7%の回答者が「人口減少により医療の需要が減っている場合は、病院の再編・統合はやむを得ない」と回答し、31.3%の回答者が「医療従事者の確保が難しい場合は、病院の再編・統合はやむを得ない」と回答している。

一方、「税金の投入や国民の負担を増やしてでも、病院の再編・統合はすべきでない」との回答割合は13.2%であり、病院の再編・統合に「賛成」「やむを得ない」との回答割合よりも低い(図表 88)。

図表 88 病院の再編・統合についての考え【複数回答】



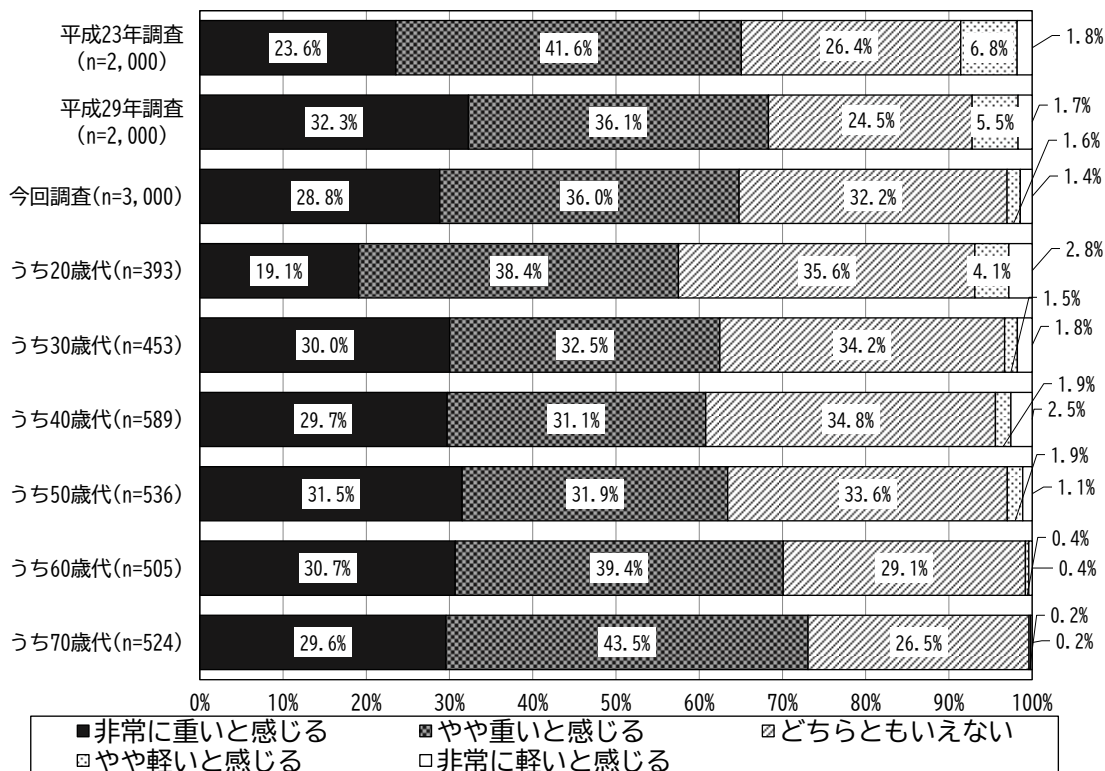


# 第16章 医療費・介護費の負担とサービスに関する考え

## 1. 医療費や健康保険料の負担感

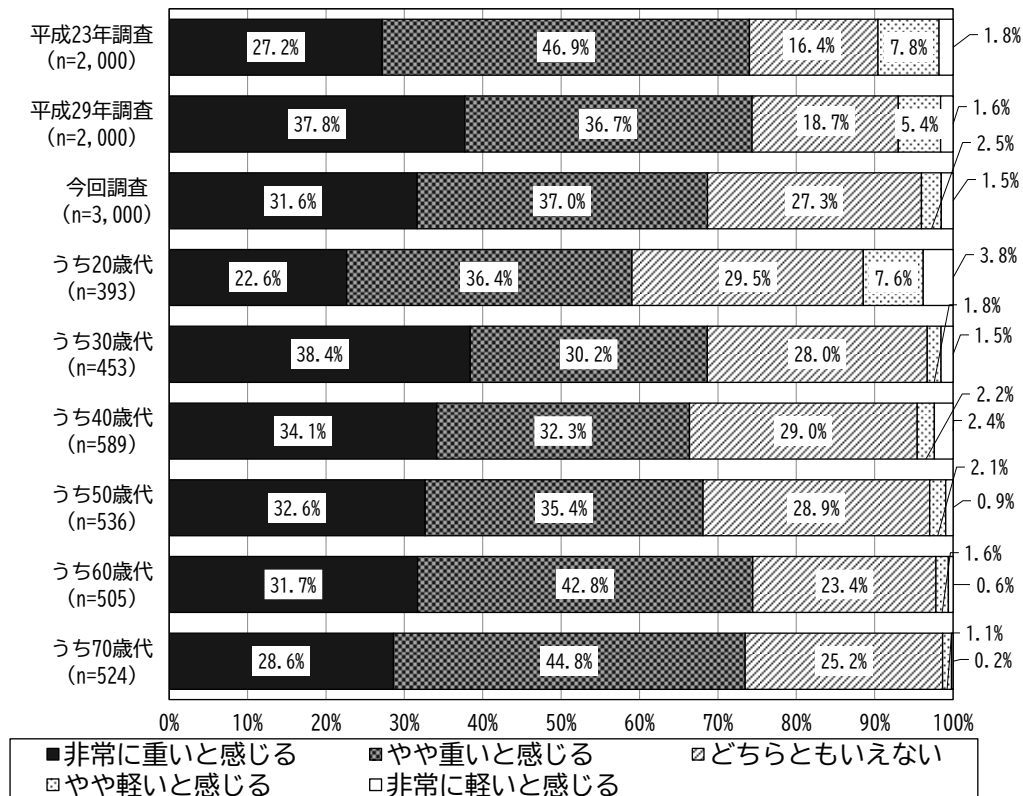
令和元年度時点で、国民1人当たり35万1,800円である日本の国民医療費の規模について、「非常に重いと感じる」「やや重いと感じる」との回答割合は計64.8%で、この回答割合は、年齢階級が高くなるほど高くなる傾向がみられる(図表89)。

図表 89 日本の国民医療費の規模に対する負担感【単数回答】



また、令和2年時点で加入者1人当たり月額1万6,300円の健康保険料の負担の重さについて、「非常に重いと感じる」「やや重いと感じる」との回答割合は計68.7%である。健康保険料の負担感については、平成23年調査・29年調査と比べ、「どちらともいえない」の回答が増えている(図表90)。

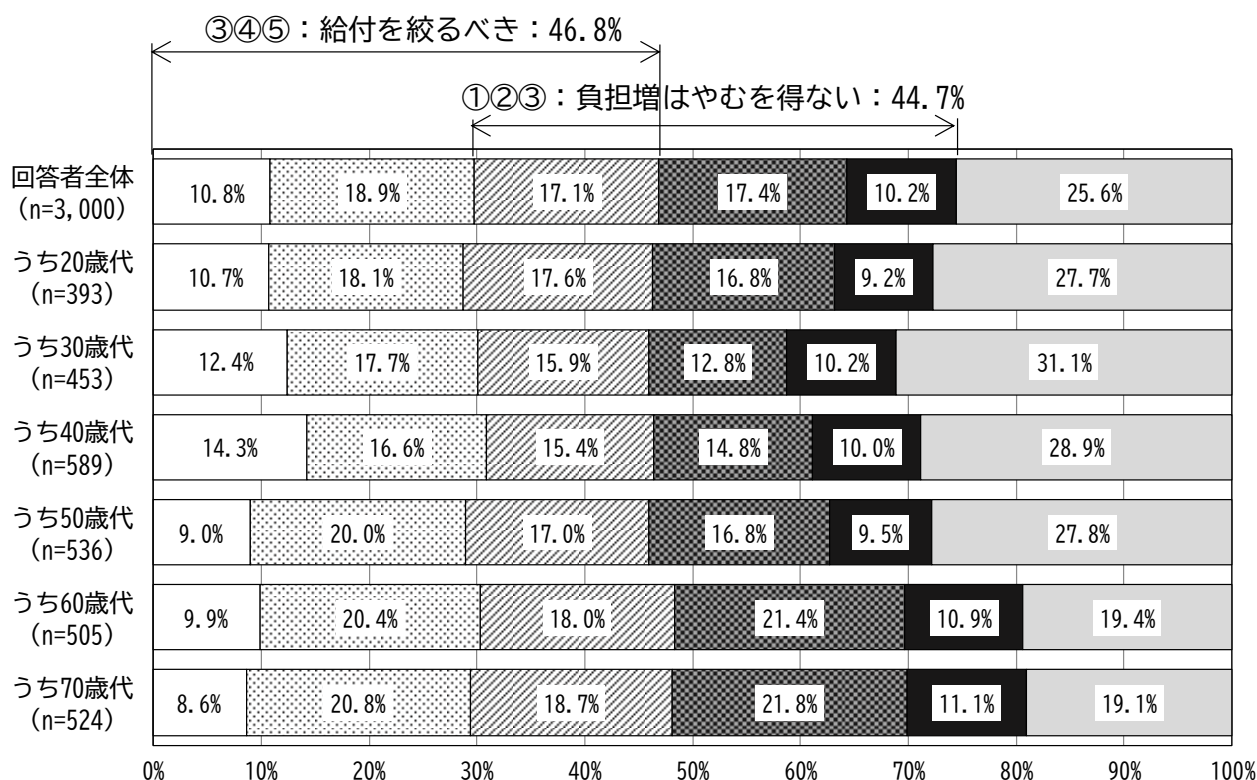
図表 90 加入者1人当たりの健康保険料に対する負担感【単数回答】



## 2. 医療保険の給付と負担とのあり方

今後の医療保険の給付と負担とのあり方の望ましいバランスについて、①「給付内容を改善すべきであり、それに伴う医療費の負担増はやむを得ない」から、⑤「給付内容を大幅に絞り込み、医療費の負担を減らすべき」までの5段階の考え方のどれが近いかを問うたところ、給付を絞るべきとの回答(③④⑤)の割合は計46.8%、医療費の負担増はやむを得ないとする回答(①②③)の割合は計44.7%となった(図表91)。

図表 91 今後の医療保険の給付と負担とのあり方についての考え【単数回答】



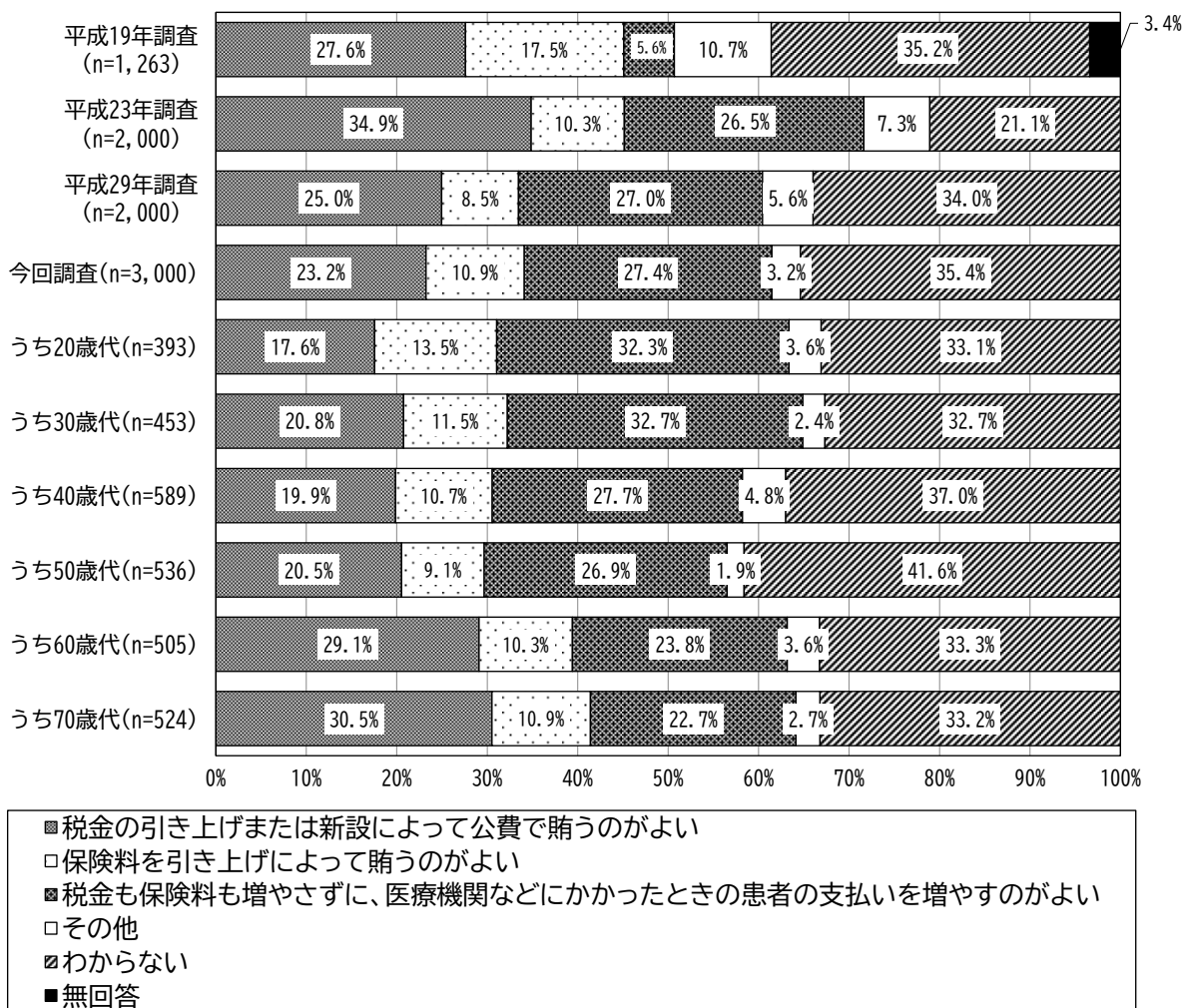
- ⑤医療保険の給付内容を大幅に絞り込み、医療費の負担を減らすべき
- ④医療保険の給付内容を絞り込み、今の水準程度の医療費の負担にとどめるべき
- ③医療保険の給付内容をある程度絞る一方で、少子高齢化による多少の医療費の負担増はやむを得ない
- ②医療保険の給付内容を今の水準程度に維持すべきであり、少子高齢化による医療費の負担増はやむを得ない
- ①医療保険の給付内容を改善すべきであり、それに伴う医療費の負担増はやむを得ない
- わからない

### 3. 増加する医療費を賄う方法

増加する医療費を賄う方法について、単一回答で問うたところ、これを患者の自己負担に求める回答割合が27.4%、税金・公費が23.2%、保険料が10.9%で、三者のうち、保険料に求める回答者が最も少ない。

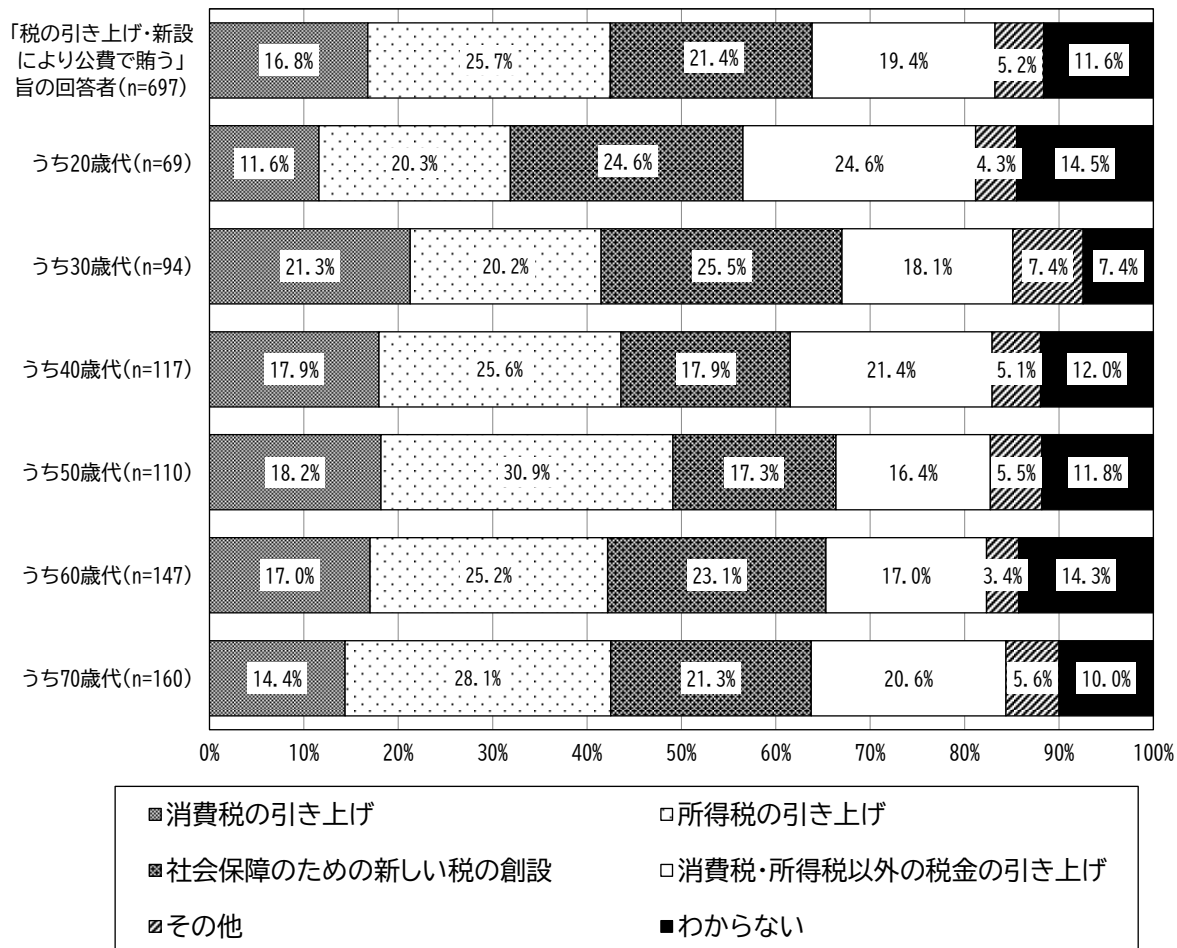
一方、「わからない」とする回答割合も35.4%にのぼる。これを年齢階級別にみると、相対的に、20歳代・30歳代は患者の自己負担に求める回答が多く、40歳代・50歳代は「わからない」の回答が多く、60歳代・70歳代は税金・公費に求める回答が多い(図表92)。

図表 92 増加する医療費を賄う方法についての考え【単数回答】



増加する医療費を賄う方法を、税金・公費に求める回答者に対し、どのような税金で賄うとよいと考えるかを問うと、「所得税の引き上げ」との回答が 25.7%、「社会保障のための新しい税の創設」が 21.4%、「消費税・所得税以外の税金の引き上げ」が 19.4%、「消費税の引き上げ」が 16.8%である(図表 93)。

図表 93 増加する医療費を賄う税金の種類についての考え【単数回答】

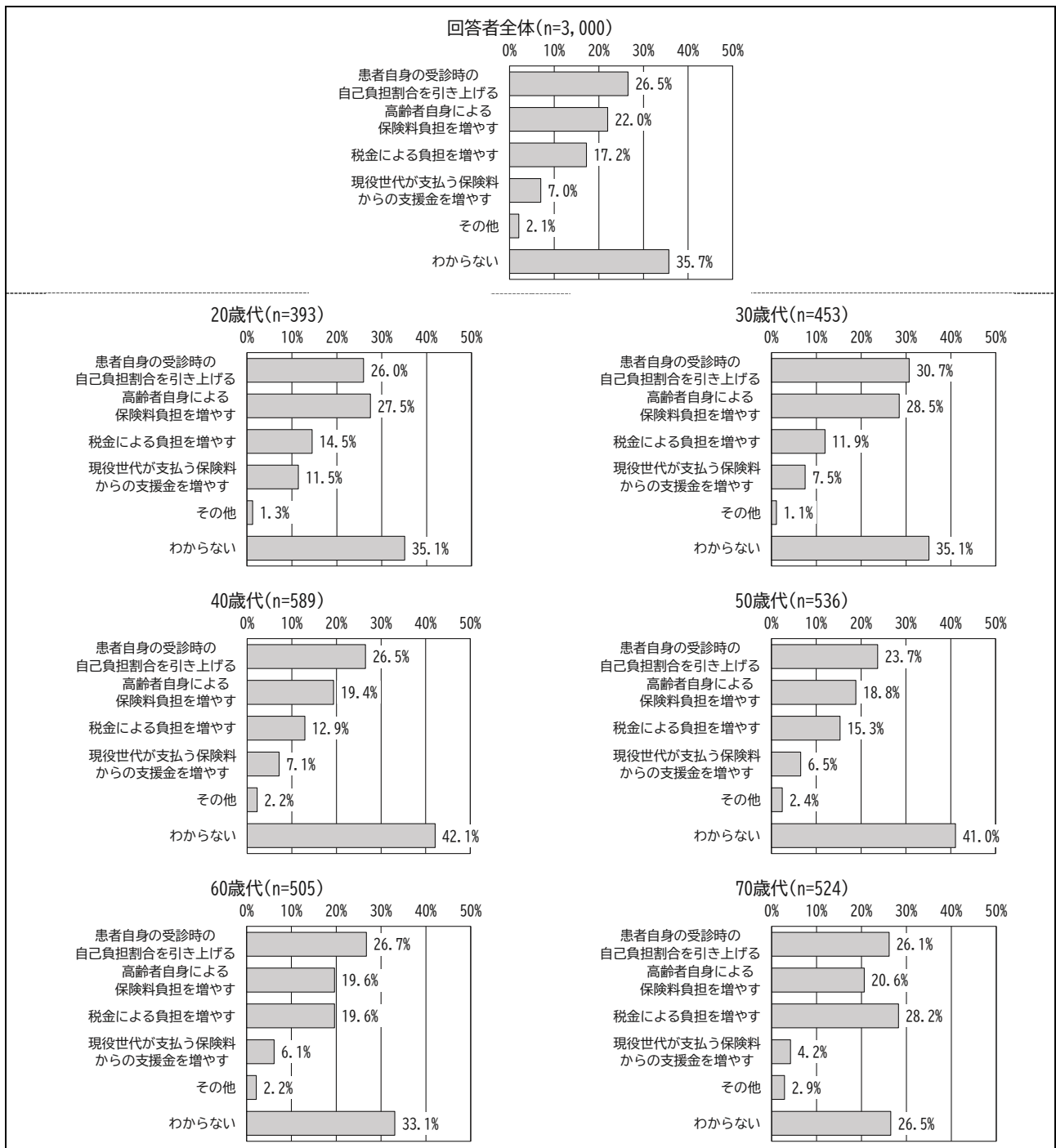


#### 4. 高齢者の医療費の負担のあり方

後期高齢者医療制度の現在の財源構成を提示した上で、今後増加する高齢者の医療費をどのように負担するかを複数回答で問うたところ、その回答割合は、「患者自身の受診時の自己負担割合を引き上げる」(26.5%)、「高齢者自身による保険料負担を増やす」(22.0%)、「税金による負担を増やす」(17.2%)の順に高く、「現役世代が支払う保険料からの支援金を増やす」の回答割合は7.0%にとどまる。

これを年齢階級別にみると、「患者自身の受診時の自己負担割合を引き上げる」との回答割合は、年齢階級間に大きな違いはなく、「高齢者自身による保険料の負担を増やす」との回答割合は、20歳代・30歳代で高く、「税金による負担を増やす」との回答割合は、60歳代・70歳代で高い(図表94)。

図表 94 今後増加する高齢者の医療費の負担方法についての考え【複数回答】

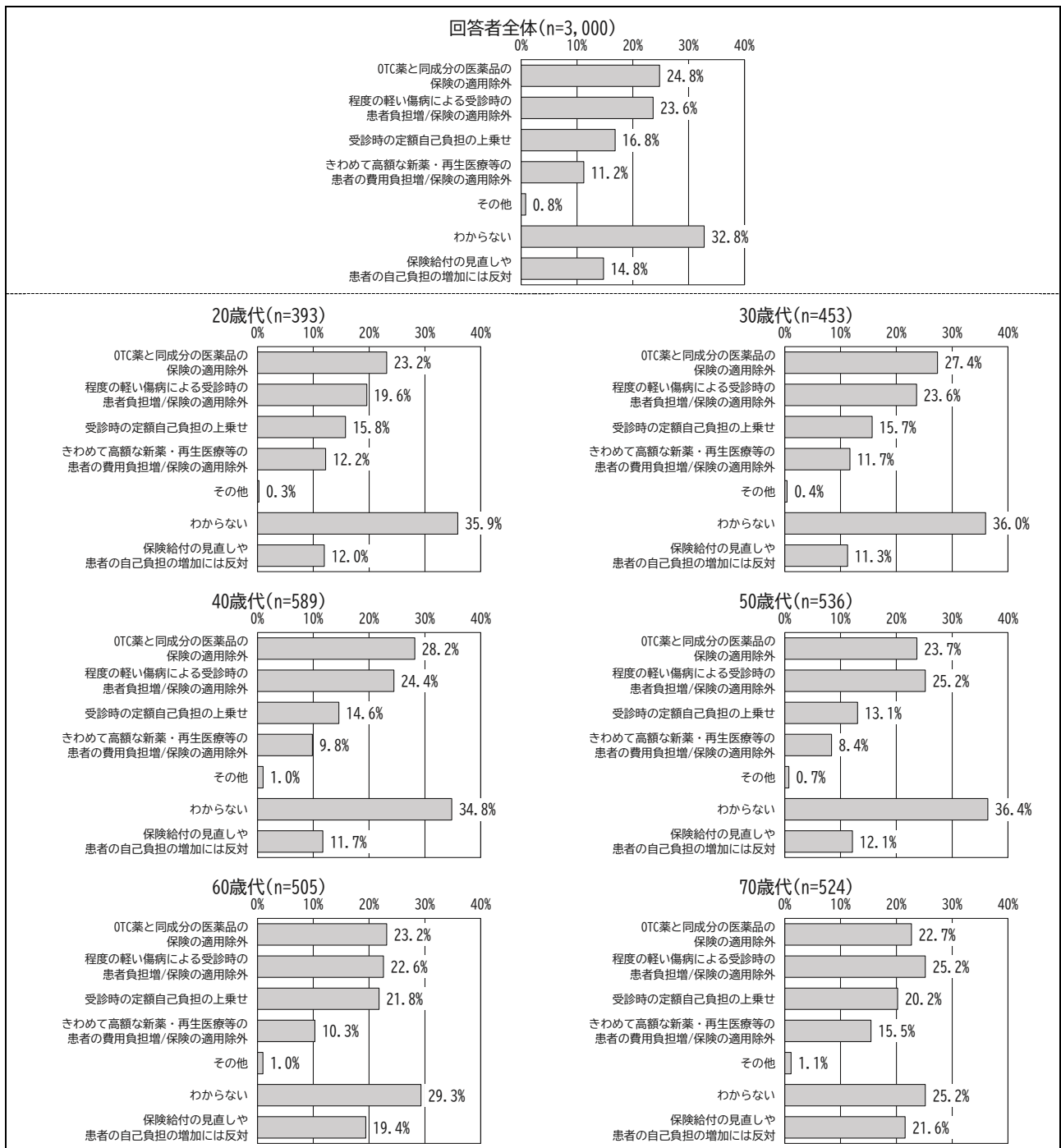


## 5. 医療保険の保険給付の見直しや患者の自己負担増がやむを得ないと感じる箇所

医療保険の保険給付の見直しや患者の自己負担増がやむを得ないと感じる箇所については、「OTC薬と同成分の医薬品の保険の適用除外」(24.8%)、「程度の軽い傷病による受診時の患者負担増/保険の適用除外」(23.6%)、「受診時の定額自己負担の上乗せ」(16.8%)、「きわめて高額な新薬・再生医療等の患者負担増/保険適用の除外」(11.2%)の順に多い。

一方、14.8%の回答者が、「保険給付の見直しや患者の自己負担の増加には反対」と回答しており、年齢階級別にみると、60歳代・70歳代の回答割合が、他の年代と比べ高い(図表 95)。

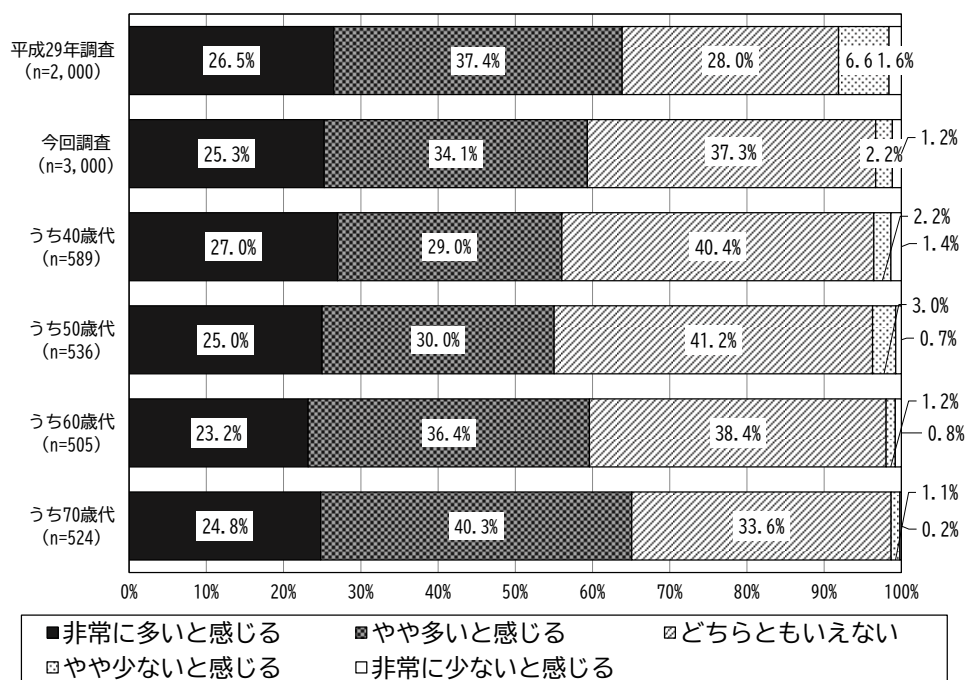
図表 95 年齢階級別 医療保険の保険給付の見直しや患者の自己負担増がやむを得ないと感じる箇所  
【複数回答】



## 6. 介護費や介護保険料負担、サービス費用の負担感

平成 26 年度時点で、国民所得に対する割合が 2.96%である日本の介護サービスの費用額の規模について、「非常に多いと感じる」「やや多いと感じる」との回答割合は計 59.3%、一方で「非常に少ないと感じる」「やや少ないと感じる」は計 3.3%である。多いと感じる回答（「非常に多いと感じる」「やや多いと感じる」）、少ないと感じる回答（「非常に少ないと感じる」「やや少ないと感じる」）ともに前回調査（平成 29 年調査）から割合が下降し、「どちらともいえない」とする回答割合が上昇している（図表 96）。

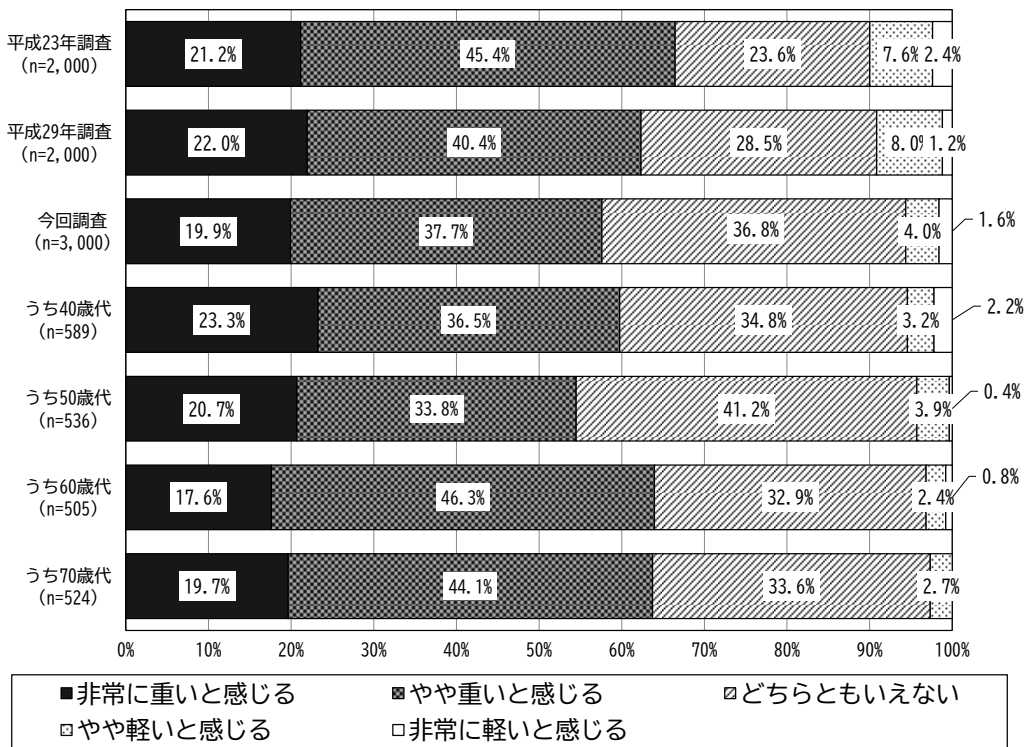
図表 96 日本の介護費総額の規模に対する負担感【単数回答】





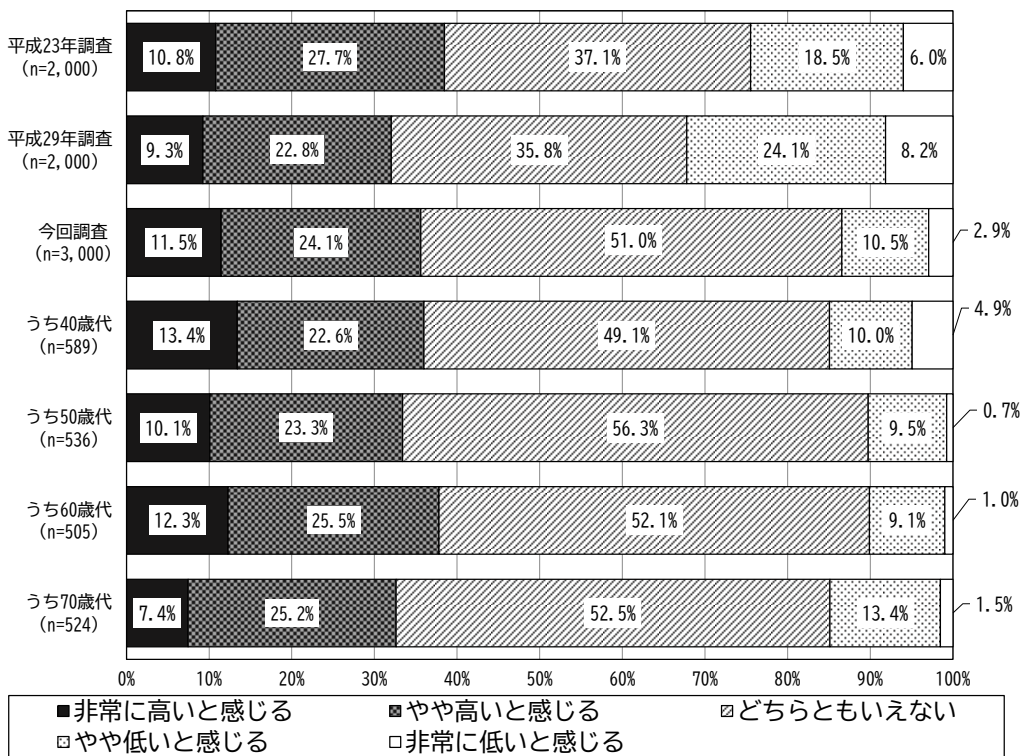
また、令和3年度時点で被保険者1人当たり月額6,000円の介護保険料の負担の重さについて、「非常に重いと感じる」「やや重いと感じる」との回答割合は計57.6%、「非常に軽いと感じる」「やや軽いと感じる」は計5.6%である。介護費総額水準と同様に、多いと感じる回答（「非常に多いと感じる」「やや多いと感じる」）、少ないと感じる回答（「非常に少ないと感じる」「やや少ないと感じる」）ともに前回（平成29年）、前々回（平成23年）調査から割合が下降し、「どちらともいえない」とする回答割合が上昇している（図表97）。

図表 97 介護保険サービスの保険料に対する負担感【単数回答】



サービス費用の原則1割(現役並み所得者は3割)である介護保険サービスの自己負担について、「非常に高いと感じる」「やや高いと感じる」との回答割合は計35.6%で、その負担感、介護保険料の負担感(同、計57.6%)に比べると小さい。しかし、一方で、「非常に低いと感じる」「やや低いと感じる」との回答割合は、前回調査(平成29年調査)の32.2%から13.4%へと、大幅に下降している。なお、今回は、設問において、現役並みの所得がある方の自己負担は3割、それ以外で一定以上の所得(単身世帯の場合、年収280~340万円など)の方の自己負担は2割である旨の注釈を新たに記載した。また、介護費総額水準、介護保険料の負担感と同様に、「どちらともいえない」の回答割合が上昇している(図表98)。

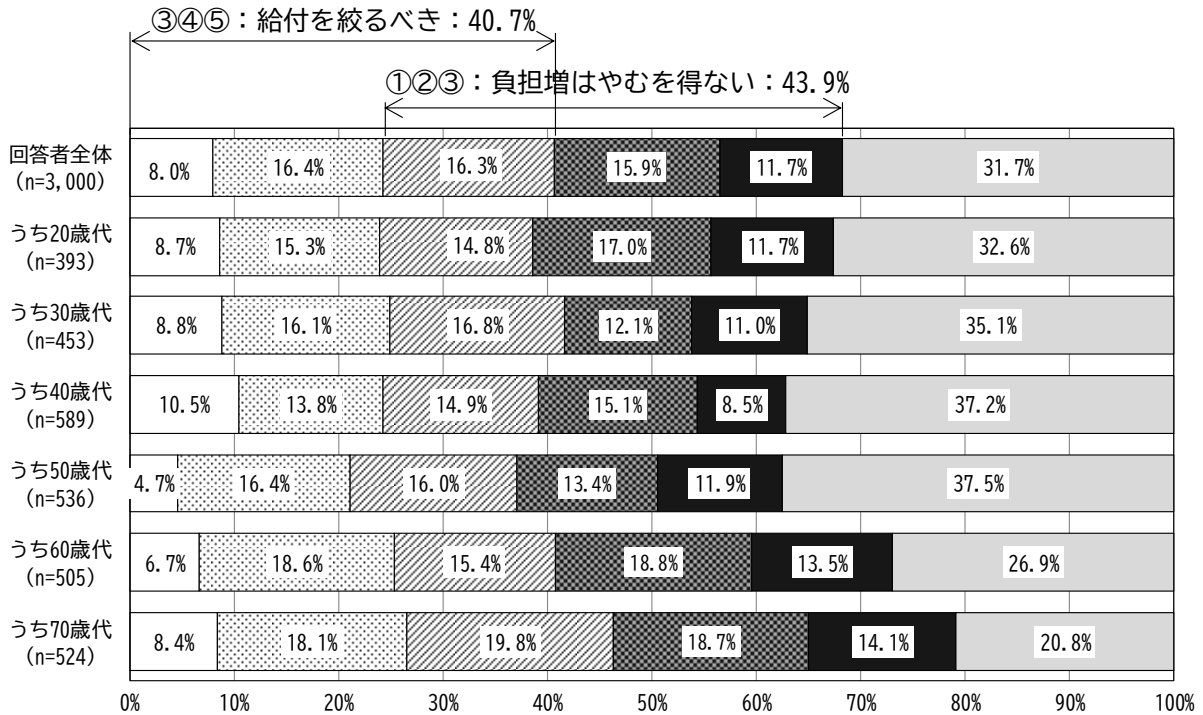
図表 98 介護保険サービスの自己負担に対する負担感【単数回答】



## 7. 介護保険の給付と負担とのあり方

今後の介護保険の給付と負担とのあり方の望ましいバランスについて、①「介護保険の給付内容を改善すべきであり、それに伴う介護費の負担増はやむを得ない」から、⑤「介護保険の給付内容を大幅に絞り込み、介護費の負担を減らすべき」までの5段階の考え方のどれが近いかを問うたところ、給付を絞るべきとの回答(③④⑤)の割合は計40.7%、介護費の負担増はやむを得ないとする回答(①②③)の割合は計43.9%となった(図表99)。

図表99 今後の介護保険の給付と負担とのあり方についての考え【単数回答】



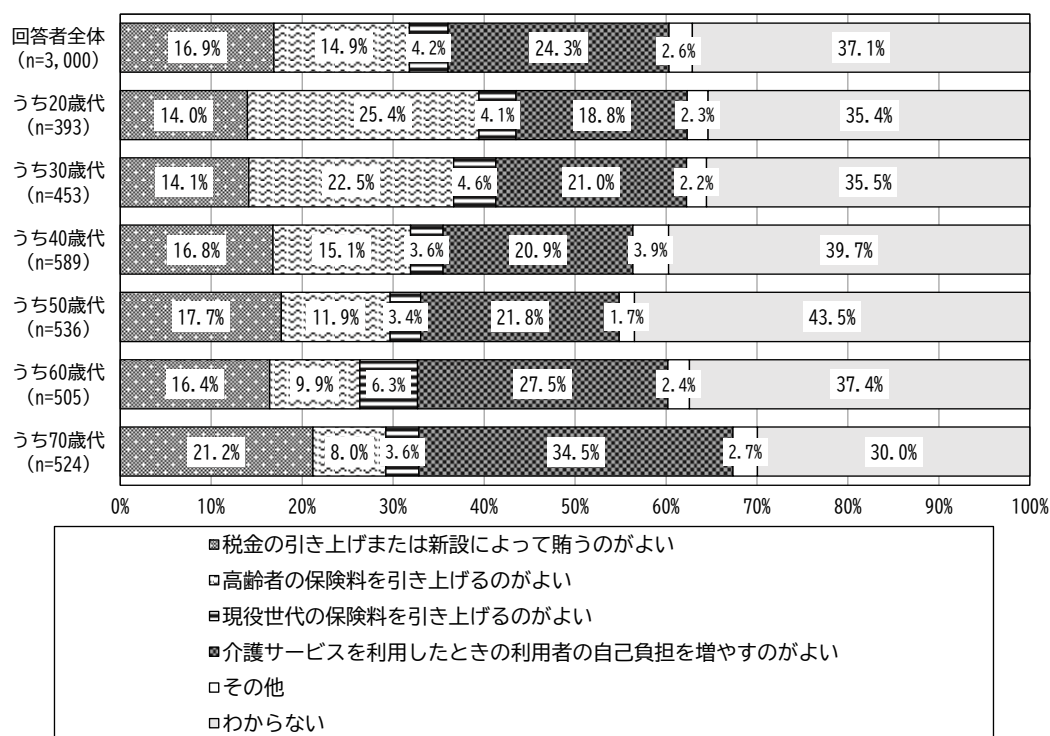
- ⑤介護保険の給付内容を大幅に絞り込み、介護費の負担を減らすべき
- ④介護保険の給付内容を絞り込み、今の水準程度の介護費の負担にとどめるべき
- ③介護保険の給付内容をある程度絞る一方で、少子高齢化による多少の介護費の負担増はやむを得ない
- ②介護保険の給付内容を今の水準程度に維持すべきであり、少子高齢化による介護費の負担増はやむを得ない
- ①介護保険の給付内容を改善すべきであり、それに伴う介護費の負担増はやむを得ない
- わからない

## 8. 増加する介護費を賄う方法

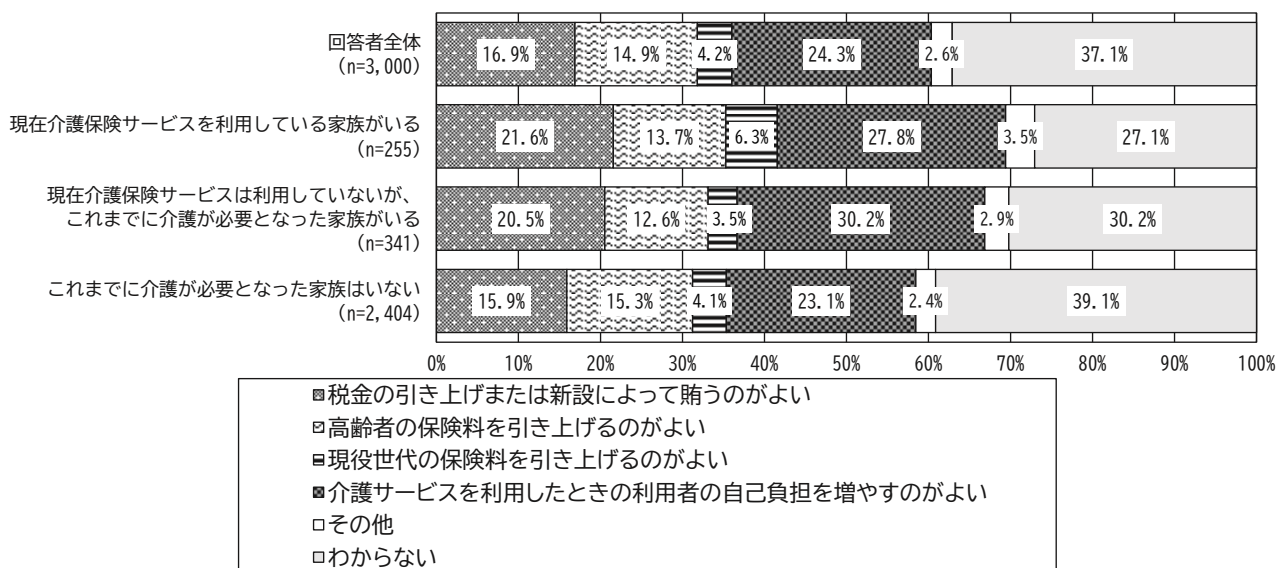
増加する介護費を賄う方法について単一回答で問うたところ、これを利用者の自己負担に求める回答割合が24.3%、税金が16.9%、保険料が19.1%である。一方、「わからない」とする回答割合も37.1%にのぼる。

これを年齢階級別にみると、相対的に、20歳代・30歳代は高齢者の保険料、40歳代・50歳代は「わからない」、60歳代・70歳代は利用者の自己負担に求める回答が多い(図表100)。

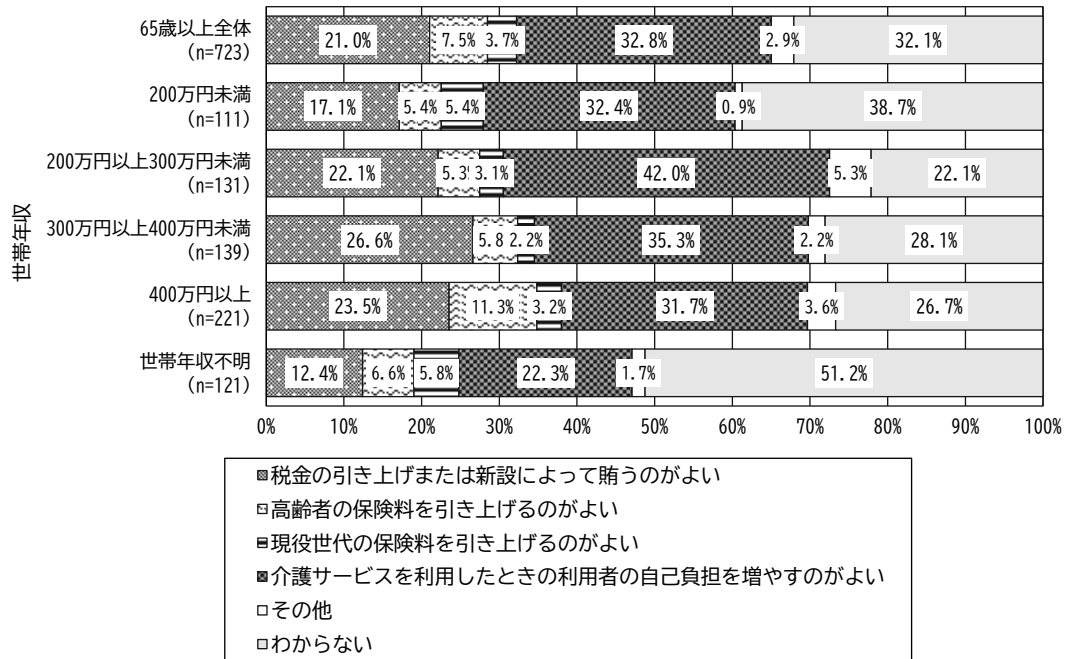
図表 100 年齢階級別 増加する介護費を賄う方法についての考え【単数回答】



図表 101 家族の介護サービス利用状況別 増加する介護費を賄う方法についての考え【単数回答】



図表 102 65歳以上、世帯年収別 増加する介護費を賄う方法についての考え【単数回答】

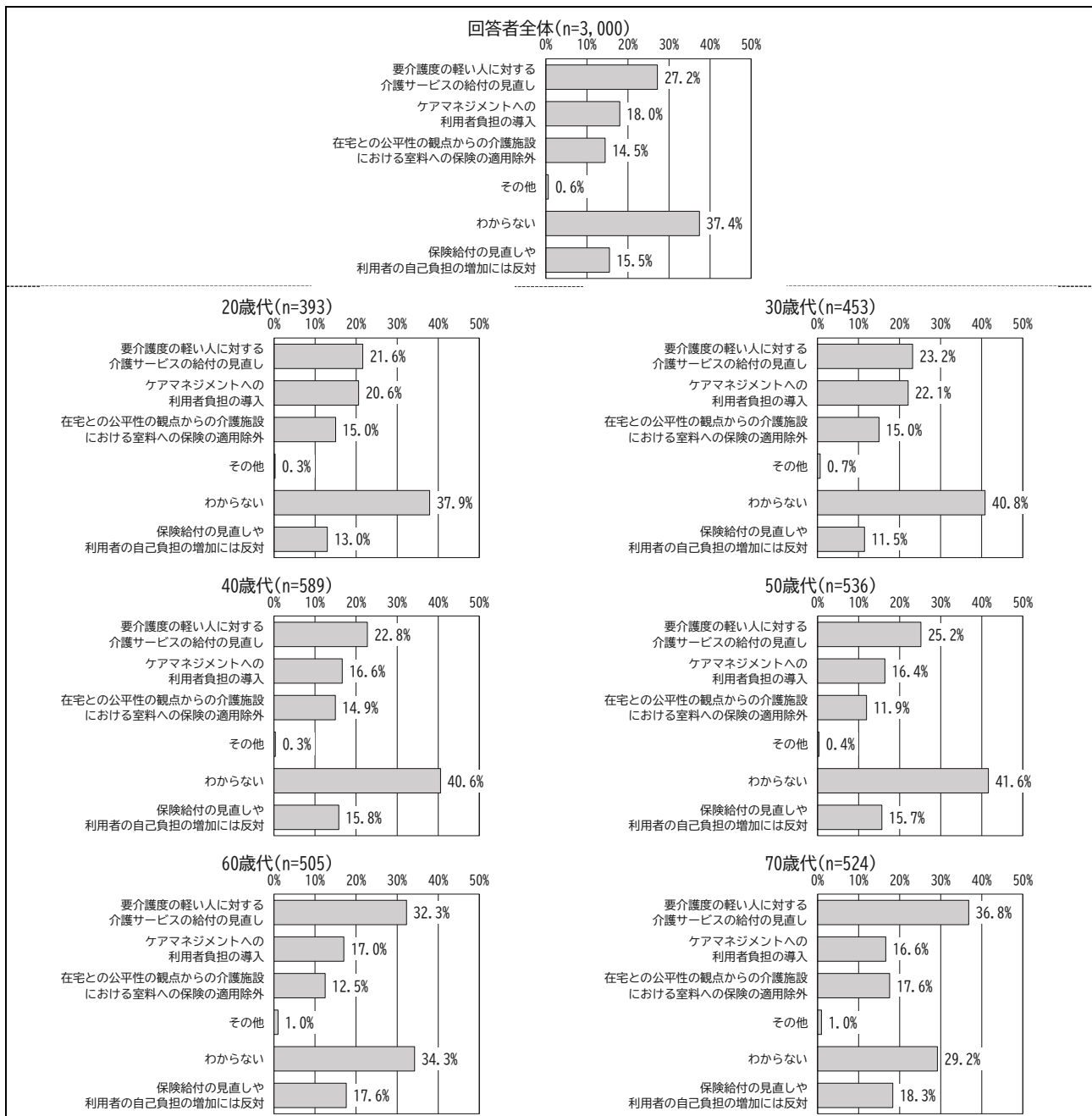


## 9. 介護保険の保険給付の見直しや利用者の自己負担増がやむを得ないと感じる箇所

介護保険の保険給付の見直しや利用者の自己負担増がやむを得ないと感じる箇所についての回答としては、「要介護度の軽い人に対する介護サービスの給付の見直し」(27.2%)、「ケアマネジメントへの利用者負担の導入」(18.0%)、「在宅との公平性の観点からの介護施設における室料への保険の適用除外」(14.5%)の順に多い。一方、15.5%の回答者が、「保険給付の見直しや利用者の自己負担の増加には反対」と回答している。

これを年齢階級別にみると、20歳代～50歳代は「わからない」との回答割合が高く、60歳代・70歳代では「要介護度の軽い人に対する介護サービスの給付の見直し」や、「保険給付の見直しや利用者の自己負担の増加には反対」との回答割合が高い(図表 103)。

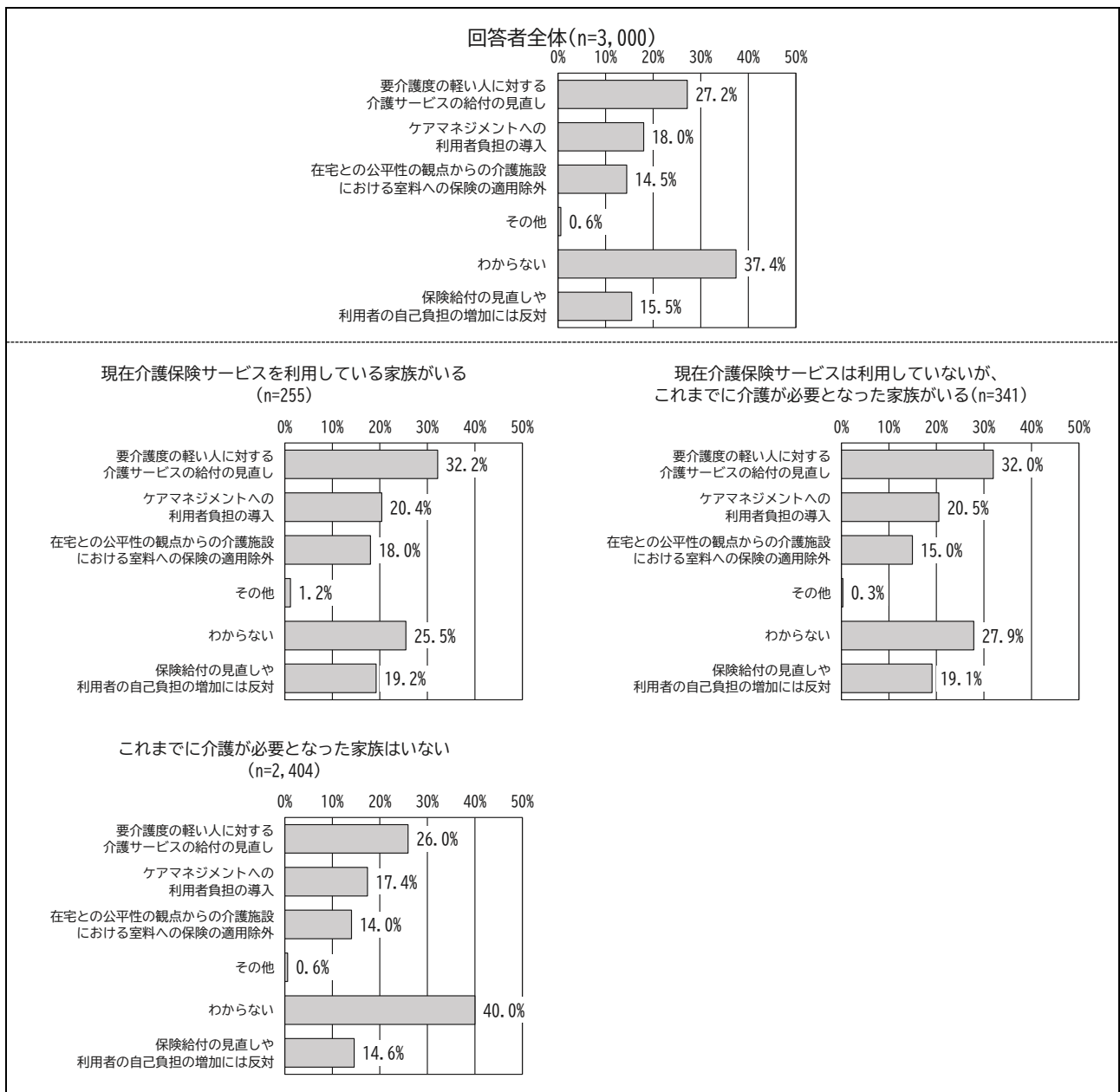
図表 103 年齢階級別 介護保険の保険給付の見直しや利用者の自己負担増がやむを得ないと感じる箇所【複数回答】



これを、家族の介護サービス利用状況別にみると、現在介護保険サービスを利用している家族がいる回答者や、これまでに介護が必要となった家族がいる回答者は、これまでに介護が必要となった家族がいない回答者より、「わからない」の割合が低い。

また「要介護度の軽い人に対する介護サービスの給付の見直し」や「ケアマネジメントへの利用者負担の導入」、「在宅との公平性の観点からの介護施設における室料への保険の適用除外」などの負担増をやむを得ないとする回答割合と、「保険給付の見直しや利用者の自己負担の増加には反対」の回答割合の両方が高い(図表 104)。

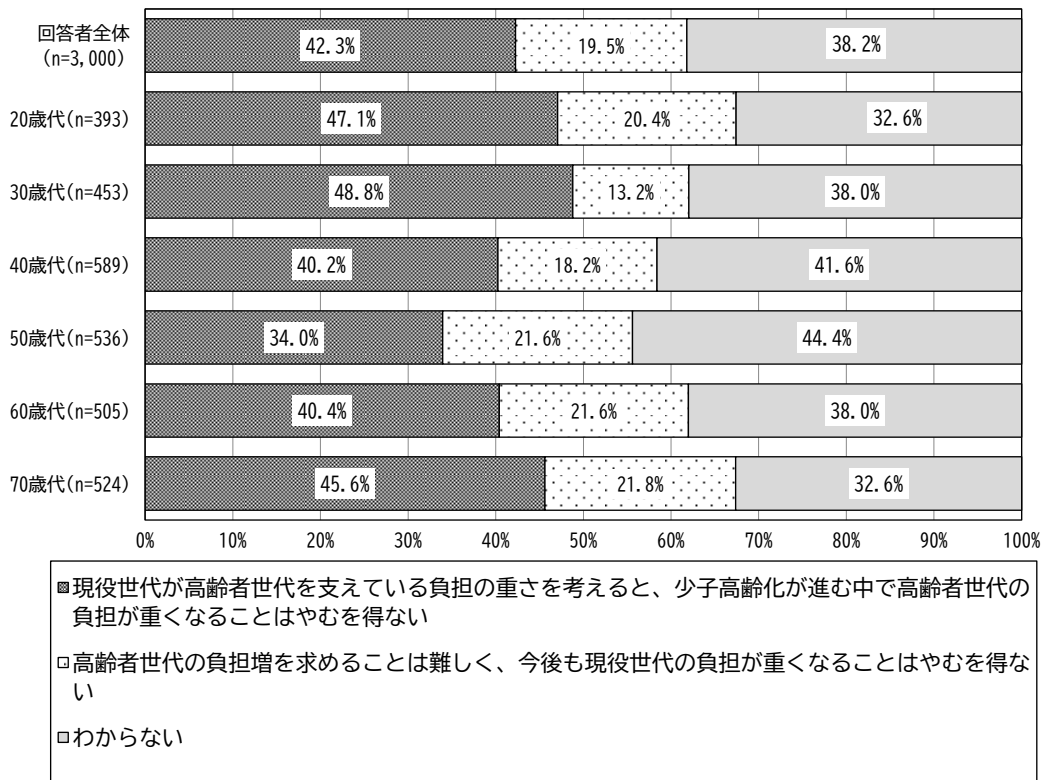
図表 104 家族の介護サービス利用状況別 介護保険の保険給付の見直しや利用者の自己負担増がやむを得ないと感じる箇所【複数回答】



## 10. 医療費や介護費の現役世代と高齢者世代との負担の今後のあり方

少子高齢化がいつそう進み、1 人の高齢者を支える現役世代の人数が今後も減り続けることが予想される中での、医療費や介護費に関する現役世代と高齢者世代との負担の今後のあり方について、「現役世代が高齢者世代を支えている負担の重さを考えると、少子高齢化が進む中で高齢者世代の負担が重くなることはやむを得ない」との回答割合が 42.3%であり、「高齢者世代の負担増を求めることは難しく、今後も現役世代の負担が重くなることはやむを得ない」の回答割合(19.5%)を大きく上回る。高齢者からの回答においてもこのような傾向が示されている(図表 105)。

図表 105 医療費や介護費の現役世代と高齢者世代との負担の今後のあり方についての考え  
【単数回答】





## 【参考資料】 アンケート調査

### 医療・介護に関する国民意識調査

《 調査票 》

## アンケート調査へのご協力をお願い

この調査は、国民の皆様が、現在の医療や医療保険制度に対してどのようなご要望やお考えをお持ちであるのかを知り、今後の医療政策の検討に資する基礎資料を整備することを目的とします。

お答えになった内容は、上記の目的にのみ使用し、統計的に処理いたしますので、皆様にご迷惑をおかけすることは一切ございません。

どうぞ、率直なご意見、お考えをお聞かせください。本調査の趣旨をご理解くださいますと、よろしくご協力をお願い申し上げます。

### 【回答者の属性データについて】

回答者の属性データのうち、下記の3項目については、配信日時点のモニター登録情報によって把握する。

- ①性別 ②年齢 ③居住都道府県

## ① はじめに、あなたご自身についてお尋ねします。

問1 同居している家族をすべてお選びください。【複数回答】 1

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 01 一人暮らし          | 02 配偶者(またはパートナー)   |
| 03 子ども            | 04 自分の父親           |
| 05 自分の母親          | 06 配偶者の父親          |
| 07 配偶者の母親         | 08 あなた、または配偶者の兄弟姉妹 |
| 09 あなた、または配偶者の祖父母 | 10 あなたの孫           |
| 11 その他( )         |                    |

問2 あなたの職業はどれですか。【単数回答】 2

- |                    |                                |
|--------------------|--------------------------------|
| 01 農 林 漁 業         | 例. 農業、牧畜、造園業、林業、漁業など           |
| 02 商工・サービス業        | 例. 卸売業、小売業、飲食店、理髪店、修理店など       |
| 03 自 由 業           | 例. 開業医、弁護士、宗教家、著述業、茶華道師匠など     |
| 04 経 営 ・ 管 理 職     | 例. 官公庁・民間会社・団体の課長級以上           |
| 05 専 門 ・ 技 術 職     | 例. 病院勤務医師、裁判官、研究所研究員など         |
| 06 事 務 職           | 例. 一般事務職員、教員、事務機械オペレーター、新聞記者など |
| 07 労 務 ・ 技 能 職     | 例. 各種技能工、運転手、電話交換手、職人、守衛など     |
| 08 販 売 ・ サ ー ビ ス 職 | 例. 販売店員、外交員、ウェイトレス、理・美容師       |
| 09 無 職 の 主 婦       |                                |
| 10 学 生             |                                |
| 11 そ の 他 無 職       |                                |

問3 あなたの加入している医療保険(健康保険証に記載されている名称)はどれですか。【単数回答】

3

- |                      |                        |
|----------------------|------------------------|
| 01 組合管掌健康保険(健康保険組合)  | 02 全国健康保険協会(協会けんぽ)     |
| 03 船員保険              | 04 国民健康保険(国民健康保険組合を含む) |
| 05 共済組合(公務員、私立学校教職員) | 06 日雇保険                |
| 07 後期高齢者医療広域連合       |                        |

問4 あなたが属する世帯の年収はどれに該当しますか。【単数回答】 4

01 200万円未満	02 200万円以上 300万円未満
03 300万円以上 400万円未満	04 400万円以上 500万円未満
05 500万円以上 600万円未満	06 600万円以上 700万円未満
07 700万円以上 800万円未満	08 800万円以上 900万円未満
09 900万円以上 1000万円未満	10 1000万円以上 1500万円未満
11 1500万円以上	12 わからない

## ② 特定健康診査(特定健診、メタボ健診)・特定保健指導についてお尋ねします。

問5 平成20(2008)年4月から40歳～74歳の被保険者・被扶養者を対象に、医療保険者※1が実施することを義務付けられた特定健康診査(特定健診、メタボ健診)・特定保健指導※2についてご存じですか。【単数回答】 5

※1 「医療保険者」とは、健康保険組合や協会けんぽ、国民健康保険など、医療保険を運営するために保険料を徴収したり、保険給付を行ったりする運営主体のことです。

※2 「特定健康診査」は、生活習慣病の予防のために、40歳～74歳の方を対象に行われる、メタボリックシンドロームに着目した健診です。この特定健康診査の結果から、生活習慣病の発症リスクが高く、生活習慣の改善による生活習慣病の予防効果が多く期待できると判断された方に対しては、「特定保健指導」として、保健師や管理栄養士などが生活習慣を見直すサポートが行われます。

01 内容などについて詳しく知っている
02 名前だけ知っている
03 知らない

問 6 【40 歳以上の方のみ】特定健康診査を受診したことがありますか。【単数回答】 6

01 ある

02 ない

03 わからない

問 6-1 【問 6 で 02 を選んだ方のみ】その理由は何ですか。【複数回答】 7

- 01 入院中または介護施設などに入所中につき、特定健康診査の対象外だったから
- 02 医療機関に通院中だったから
- 03 健康に不安があればいつでも医療機関を受診できるから
- 04 忙しかったから(家事、育児、介護、仕事など)
- 05 面倒だったから
- 06 健康に自信があったから
- 07 どこで受診できるかわからなかったから
- 08 夜間や休日などに受診できなかったから
- 09 自宅や職場のそばに受診できる医療機関などがなかったから
- 10 その他( )

問 6-2 【問 6 で 01 を選んだ方のみ】特定保健指導を受けたことがありますか。【単数回答】 8

01 ある

02 ない

03 わからない

問 6-3 【問 6-2 で 02 を選んだ方のみ】その理由は何ですか。【複数回答】 9

- 01 特定健康診査の結果、特定保健指導の対象にはならなかったから
- 02 医療保険者から受診を促す通知がなかったから
- 03 医療機関に通院中だったから
- 04 健康に不安があればいつでも医療機関を受診できるから
- 05 忙しかったから(家事、育児、介護、仕事など)
- 06 面倒だったから
- 07 健康に自信があったから
- 08 どこで受けられるかわからなかったから
- 09 夜間や休日などに受けられなかったから
- 10 自宅や職場のそばに受けられる医療機関などがなかったから
- 11 その他( )

### ③ 医療保険者が提供するサービスについてお尋ねします。

問 7 あなたは、医療保険者から健康増進などを目的としたどのようなサービスを受けていますか。また、役に立っていると思うサービスや充実を希望するサービスは何ですか。それぞれについて、該当するものを全て選び欄内に○をおつけください。10-13

	現在 受けている サービス (該当するものに○)	あなた自身にと って特に役立 っていると思う サービス (該当するものに○)	充実を 希望する サービス (該当するものに○)	医療費を抑え ることに役立 っていると思 うサービス (該当するものに○)
01 電子媒体(ホームページ・メールなど)による 情報提供				
02 広報誌(紙)の配布				
03 医療機関情報の提供				
04 家庭用医薬品などの配布				
05 保健師などによる健康相談・指導				
06 生活習慣病健診などの健診				
07 医療費の自己負担に対する補助(付加給付)				
08 がん検診、人間ドックなどの検診費用に対す る補助				
09 スポーツジム、フィットネスクラブなどの利用 に対する補助				
10 健康教室など、講演を主としたイベント				
11 ウォーキング、ハイキングなどのイベント				
12 健康ポイント <sup>※1</sup> の付与など、健康を増進する 取組を行った人への特典				
13 保養所の紹介				
14 医療費の通知 <sup>※2</sup>				
15 ジェネリック軽減額の通知(差額通知など) <sup>※3</sup>				
16 医療費の審査				
17 その他( )				
18 特になし				

※1 「健康ポイント」とは、本人の健康づくりのための運動などの取り組みや健康診断などの受診に対して、ポイントを付与し、景品などの提供を行うものです。

※2 「医療費通知」とは、本人や家族が保険証で診療を受けたときの医療費と保険給付金の明細が記載されているもので、定期的に医療保険者から送付されるものです。

※3 「ジェネリック軽減額通知(差額通知など)」とは、処方された薬をジェネリック医薬品に切り替えることにより、どのくらい薬代(薬剤料)の自己負担額が軽減されるかについて、健康保険組合や市町村国保などの保険者が具体的に試算して、例えば「ジェネリック医薬品に切り替えた場合の薬代の自己負担の軽減額に関するお知らせ」のような名前で通知してくれるサービスです。

問 8 あなたが加入している医療保険者※が提供しているサービスについてどのように感じですか。

【単数回答】 14

※ 「医療保険者」とは、健康保険組合や協会けんぽ、国民健康保険など、医療保険を運営するために保険料を徴収したり、保険給付を行ったりする運営主体のことです。

01 かなり満足している

02 やや満足している

03 やや不満である

04 かなり不満である

05 どちらともいえない

#### ④ あなたの医療機関の受診状況についてお尋ねします。

問 9 あなたご自身や家族が深夜や休日などに具合が悪くなったときに、主にどのような対応をしていますか。【複数回答】 15

- 01 病気になるといつも相談し、診察を受ける医師に連絡して、その指示に従う
- 02 市区町村の救急相談窓口相談して、その指示に従う
- 03 自分で救急医療情報を調べて、夜間・休日の急患を受け入れる医療機関(病院・診療所)へ行く
- 04 とりあえず救急対応している大きな病院へ行く
- 05 119 番に電話をして救急車を呼ぶ
- 06 市販の薬を服用するなどして様子を見る
- 07 その他( )

問 10 この5年間に病気やケガで、医療機関に入院したことがありますか。【単数回答】 16

- 01 入院したことがある
- 02 入院したことはない

問 11 この1年間に病気やケガで、医療機関の外来を受診したことがありますか。【単数回答】 17

- 01 受診したことがある
- 02 受診したことはない

問 11-1 【問 11 で 01 を選んだ方のみ】あなたは、同じ病気やケガで、同じ時期に複数の医療機関を受診したことがありますか。【単数回答】 18

- 01 複数の医療機関を受診したことがある
- 02 複数の医療機関を受診したことはない

問 11-2 【問 11-1 で 01 を選んだ方のみ】同じ病気やケガで、同じ時期に複数の医療機関を受診した理由は何ですか。【複数回答】 19

- 01 先に受診していた医療機関・医師からの紹介で、他院で専門的な検査などを受けた
- 02 先に受診していた医療機関・医師からの紹介で、他院のセカンドオピニオン※外来を受診した
- 03 先に受診していた医療機関・医師の診察内容などに不満があり、自分の判断で他院を受診した
- 04 その他( )

※ セカンドオピニオンとは、患者が納得のいく治療法を選択することができるように、治療の進行状況、次の段階の治療選択などについて、現在診療を受けている担当医とは別に、違う医療機関の医師に「第 2 の意見」を求めることを指します。



## ⑤「かかりつけ医」について、あなたの受診状況やお考えをお尋ねします。

問 12 あなたは、日頃から健康の相談をしたり病気になったりしたときに、決まって診察を受ける医師（かかりつけ医）・医療機関（かかりつけ医療機関）がありますか。【単数回答】 20

- 01 何か体調に不具合があった時に、いつも相談する医師がいる
- 02 この病気（診療科）ならこの先生という意味でなら、決まった医師がいる
- 03 いつもかかる医療機関ならあるが、診察を受ける医師は決まっていない
- 04 そのような医師・医療機関はない

問 12-1 【問 12 で 01 を選んだ方のみ】「かかりつけ医」を、その医師に決めた理由は何ですか。【複数回答】 21

- 01 自宅から近く通院が便利であること
- 02 勤務地から近く通院が便利であること
- 03 評判がよい医師・医療機関であること
- 04 必要なときにいつでも連絡がとれ、適切な指示をしてくれること
- 05 医師の診察技術が信頼できること
- 06 病気や治療についてよく説明してくれること
- 07 健康や疾病予防、医療・介護の相談に気軽に応じてくれること
- 08 どんな病気でもまずは診てくれること
- 09 深夜や休日などの緊急時にも診てくれること
- 10 往診を頼めること
- 11 あなたの病歴や健康状態などをよく知っていること
- 12 あなたの家族の病歴や健康状態などもよく知っていること
- 13 必要なときに、適切な専門の医師・医療機関・訪問看護ステーションなどを紹介してくれること
- 14 待ち時間が少ないこと
- 15 その他( )

問 12-2 【問 12 で 01 を選んだ方のみ】「かかりつけ医」のいる医療機関はどれですか。【単数回答】 22

- 01 一般診療所（医院・クリニック）や中小病院
- 02 大病院（大学病院や国立病院など）
- 03 その他の病院

→問 12-3 【問 12 で 04 を選んだ方のみ】あなたが、かかりつけ医・かかりつけ医療機関を持たない理由は何ですか。【複数回答】 23

- 02 その都度、適当な医療機関を選ぶ方がよいと思うから
- 03 適当な医療機関を選ぶための情報が不足しているから
- 04 適当な医療機関をどう探してよいのか分からないから
- 05 その他( )
- 06 特に理由はない

→問 12-4 【問 12 で 04 を選んだ方のみ】あなたは、新型コロナウイルス感染症拡大下において、かかりつけ医・かかりつけ医療機関を持たないことで、不安や困難を感じましたか。【単数回答】 24

- 01 全く不安や困難を感じなかった
- 02 それほど不安や困難を感じなかった
- 03 どちらともいえない
- 04 やや不安や困難を感じた
- 05 非常に不安や困難を感じた

→問 12-5 【問 12-4 で 04・05 を選んだ方のみ】新型コロナウイルス感染症について、かかりつけ医・かかりつけ医療機関を持たないことで、あなたが感じた不安や困難の内容は何ですか。【複数回答】 25

- 01 自分や家族に、感染を疑うような症状が出たとしても、相談できる医師・医療機関がなかった
- 02 実際に、自分や家族に感染を疑うような症状が出たが、医療機関を受診できなかった
- 03 実際に、自分や家族に感染を疑うような症状が出た際に、自分の体質や病歴を知らない医師・医療機関を受診せざるを得なかった
- 04 新型コロナワクチンの予防接種の予約がとりづらかった/とれなかった
- 05 新型コロナワクチンの予防接にあたり、自分の体質や病歴を知っている医師・医療機関に相談ができなかった
- 06 その他( )

問 13 あなたは、令和 2(2020)年はじめの新型コロナウイルス感染症の拡大「第 1 波」以降、体の具合が悪い時に、診療を拒否されたことがありますか。【単数回答】 26

- 01 拒否されたことがある
- 02 拒否されたことはないが、受診にあたり、予約を取ることを求められたことがある
- 03 拒否されたことはなく、受診にあたり予約を取ることを求められることもなかった
- 04 「第 1 波」以降、受診を検討するような体調不良を経験していない
- 05 その他

問 13-1 【問 13 で 01 を選んだ方のみ】あなたが診療を拒否されたのは、どのような医療機関ですか。【複数回答】 27

- 01 かかりつけ医療機関
- 02 かかりつけ医療機関ではないが、過去に受診したことがある医療機関
- 03 初めて受診する医療機関

現在、「日頃から健康に関することを何でも相談できる」「必要な時な専門の医師・医療機関を紹介してくれる」など、「かかりつけ医」が果たすべき役割について、議論が行われています。

問 14 あなたが、「かかりつけ医」に期待することをお選びください。【複数回答、3つまで】 28

- 01 幅広い症状や病気に対応してくれること
- 02 必要に応じて、専門の医師・医療機関を紹介してくれること
- 03 あなたの体質や生活状況をよく把握していること
- 04 あなたの過去の病歴や、他の医療機関を受診した際の受診内容や結果を、よく把握していること
- 05 家族の病歴や健康状態を、よく把握していること
- 06 時間外や休日にも連絡がとれること
- 07 オンライン診療が利用できること
- 08 ワクチン接種に対応してくれること
- 09 往診に対応してくれること
- 10 健康・介護に関する相談に乗ってくれること
- 11 その他( )
- 12 特になし

## ⑥ 大規模な病院について、あなたの受診状況やお考えをお尋ねします。

問 15 大病院では、地域の中小病院・診療所との機能分化・役割分担を進める観点から、国の規定に基づき、紹介状を持たずに受診する患者などに対し、特別の料金を初診料や再診料に上乗せして徴収することとなっています。あなたは、このような受診時の特別の上乗せ料金を支払って、紹介状を持たずに大病院を受診したことがありますか。【単数回答】 29

- 01 今も特別の料金を支払って、大病院を受診している
- 02 過去に特別の料金を支払って大病院を受診したことがある
- 03 特別の料金を支払って大病院を受診したことはない
- 04 わからない

問 15-1 【問 15 で 01 を選んだ方のみ】特別の料金を支払って、大病院を受診している主な理由は何ですか。【複数回答】 30

- 01 中小病院や診療所よりも大病院が自宅や職場に近く、通院が便利であるから
- 02 自宅や職場近くに、受診している大病院以外には、信頼できる中小病院・診療所がないから
- 03 大病院の方が、新しい医療・検査機器がそろっていると思うから
- 04 大病院の方が、診断や治療がよりの確だと思うから
- 05 受診している大病院が、家族・知人の評判が良いから
- 06 大病院であれば診療科が多く、どの診療科に行けばよいかわからない場合でも対応してくれると思うから
- 07 特別な料金の支払額が気にならないから
- 08 受診する医療機関を変えたくないから
- 09 その他( )
- 10 特に理由はない

問 15-2 【問 15 で 02 を選んだ方のみ】特別の料金を支払って大病院を受診するということがなくなった主な理由は何ですか。【複数回答】 31

- 01 通院が便利な場所に、他に中小病院や診療所があるから
- 02 中小病院や診療所の方が、待ち時間が短いから
- 03 病状やけがの状態が改善し、大病院を受診する必要がなくなったから
- 04 特別な料金を支払ってまで大病院を受診する必要がないと思ったから
- 05 特別な料金の支払額が高いと感じたから
- 06 その他( )
- 07 特に理由はない

## ⑦ オンライン診療について、あなたの受診状況やお考えをお尋ねします。

問 16 あなたはこれまでに、インターネットやテレビ電話を利用して、オンラインで医師の診療(オンライン診療)を受けたことがありますか。【単数回答】 32

- 01 初診・再診ともにオンラインで受けたことがある
- 02 初診はオンラインで受けたことはあるが、再診をオンラインで受けたことはない
- 03 再診はオンラインで受けたことはあるが、初診をオンラインで受けたことはない
- 04 初診・再診ともにオンラインで受けたことはない

問 16-1 【問 16 で 04 を選んだ方のみ】あなたが、オンライン診療を受けたことがない理由として、当てはまる番号を選択してください。【複数回答】 33

- 01 直接の対面でないため、十分な診察が受けられるのかが不安だから
- 02 通信機器の状況によっては、音声や画像が鮮明に伝わらないのではないかとと思うから
- 03 どこの医療機関がオンライン診療に対応しているかわからないから
- 04 適切な通信機器を持っていないから
- 05 通信機器の設定や操作に手間取ると思うから
- 06 費用負担が大きいから
- 07 特段の理由はない
- 08 最近、医療機関を受診するような体調となっていないから
- 09 その他( )

問 17 オンライン診療について、あなたの考えにあてはまるものを選択してください。【複数回答】 34

- 01 自宅で受診できるため、便利であると思う
- 02 自宅で受診できるため、気軽に受診ができるようになると思う
- 03 自宅で受診できるため、通院のための体力的な負担が減ると思う
- 04 医療機関での待ち時間がなくなり、便利だと感じると思う
- 05 医療機関に行く回数が減り、感染症にかかる心配が小さくなると思う
- 06 薬の受け取りに薬局に行く必要があるのならば、通常の通院と利便性はさほど変わらないと思う
- 07 普段の生活状況を医師に見せることができ、病状や生活状況の説明がしやすくなると思う
- 08 直接の対面でないため、十分な診察が受けられるのかが不安に思う
- 09 通信機器の状況によっては、音声や画像が鮮明に伝わらないのではないかとと思う
- 10 通信機器の設定や操作が難しそうだと思う
- 11 必要な通信機器を持っていない患者が多いと思う
- 12 費用負担が大きい(大きそうだ)と思う
- 13 特段の考えはない
- 14 その他( )

## ⑧ 受診する医療機関の選び方等について、あなたの状況やお考えをお尋ねします。

問 18 医療機関を選ぶにあたり、何を参考にしていますか。【複数回答】 35

- 01 病気になるといつも相談し、診察を受ける医師に相談する
- 02 家族、友人、知人からの意見を聞く
- 03 新聞、雑誌、本などの情報を調べる
- 04 インターネットの情報を調べる
- 05 電話帳を調べる
- 06 その他( )
- 07 特になし

問 18-1 【問 18 で 04 を選んだ方のみ】医療機関を選ぶにあたり、どのようなインターネットのサイトで調べますか。【複数回答】 36

- 01 都道府県・市区町村のホームページ
- 02 医療機関のホームページ
- 03 医療機関に関する検索サイト
- 04 google、yahoo!などの医療機関専門ではない検索サイト
- 05 その他( )

問 19 医療機関の情報として特に欲しいと思う情報の内容はどれですか。【複数回答】 37

- |                     |                             |
|---------------------|-----------------------------|
| 01 診療科目             | 02 急性期・回復期・慢性期など、対応している医療機能 |
| 03 専門医・認定医・指導医の勤務状況 | 04 医師の専門分野                  |
| 05 医師の経歴、年齢、性別      | 06 夜間・休日診療の実施の有無            |
| 07 往診・訪問診療の実施の有無    | 08 手術の実施件数・成功率              |
| 09 入院患者の受入基準        | 10 必要な費用の概ねの金額              |
| 11 連携している医療機関・介護施設  | 12 第三者機関による医療機関の評価          |
| 13 オンライン診療への対応の有無   | 14 その他( )                   |
| 15 特になし             |                             |

問 20 医療機関の受診のあり方について、次のAとBの2つのうち、あなたはどちらを希望しますか。

【単数回答】 38

A. 病気の症状の程度や医療機関の規模とは関係なしに、その都度自分の選んだ医療機関を受診する

B. 最初に決まった医師を受診し、その医師の判断で、必要に応じて病院などの専門医療機関を受診する

- 01 Aを希望する
- 02 どちらかといえばAを希望する
- 03 どちらともいえない
- 04 どちらかといえばBを希望する
- 05 Bを希望する

問 20-1 【問 20 で 01 または 02 を選んだ方のみ】「病気の症状の程度や医療機関の規模とは関係なしに、その都度自分の選んだ医療機関を受診する」ことを希望する理由は何ですか。  
【複数回答】 39

- 01 小さな診療所では不安で、高度な医療機能をもつ大病院の方が安心だから
- 02 その都度、そのときの症状に応じた専門医に診察をしてほしいから
- 03 その他( )
- 04 わからない

問 20-2 【問 20 で 04 または 05 を選んだ方のみ】「最初に決まった医師を受診し、その医師の判断で、必要に応じて病院などの専門医療機関を受診する」ことを希望する理由は何ですか。  
【複数回答】 40

- 01 まずは、自分のことをよく知っている医師を受診した方が安心だから
- 02 自分だけで、そのときの症状に応じて適切な医療機関を選ぶことが難しいから
- 03 紹介状なしで直接に大病院を受診すると、費用がかかるから
- 04 その他( )
- 05 わからない

問 21 例えば、診療所の医師を事前に選んで登録し、その医師の判断で専門医療機関を受診することを原則とするとしたら、どう感じますか。【単数回答】 41

- 01 全く不安を感じない
- 02 それほど不安を感じない
- 03 どちらともいえない
- 04 やや不安を感じる
- 05 非常に不安を感じる

問 22 地域の病院のあり方について、次のAとBの2つの状況のうち、あなたはどちらを希望しますか。

【単数回答】 42

A. 自宅から多少遠くとも、スタッフや設備などの体制が充実した病院に入院ができる。

B. スタッフや設備などの体制に多少の制約はあるが、自宅から近い病院に入院ができる。

01 A の状況を希望する

02 どちらかといえば A の状況を希望する

03 どちらともいえない

04 どちらかといえば B の状況を希望する

05 B の状況を希望する

問 23 医療機関への入院のあり方について、次のAとBの2つのうち、あなたはどちらを希望しますか。

【単数回答】 43

A. 病気の各ステージ(発症直後の急性期(重症期)→リハビリテーションを行う回復期→その後の慢性期→退院して地域へ など)に応じて、それぞれの医療機能に特化した地域内の複数の医療機関に入院する。

B. 病気のステージにかかわらず、1つの医療機関に継続して入院する。

01 A を希望する

02 どちらかといえば A を希望する

03 どちらともいえない

04 どちらかといえば B を希望する

05 B を希望する



**⑨ 薬局の利用や服薬の状況等について、あなたの状況やお考えをお尋ねします。**

問 24 あなたはこれまでに、医師から処方された薬(処方薬)について、これまでに困った経験がありますか。【単数回答】 44

01 ある

02 ない

問 24-1 【問 24 で 01 を選んだ方のみ】これまでに、医師から処方された薬(処方薬)について困った経験があるものとして、当てはまる番号を選択してください。【複数回答】 45

- 01 複数の医療機関から薬を処方された際に、飲み合わせに不安を感じた
- 02 処方された薬がどのような薬であるのかがよくわからなかった
- 03 処方された薬が多すぎた
- 04 処方された薬が飲み込みにくかった
- 05 飲み忘れが多く、多数の余りが生じた
- 06 飲んだり塗ったりした後に、副作用ではないかと思うような症状が生じた
- 07 その他( )

問 25 あなたは、病院や診療所を受診した際の薬の受け取りを、主にどこで行っていますか。もっとも頻度が高いものを選択してください【単数回答】 46

- 01 受診した医療機関で薬を受け取っている(院内調剤を利用)
- 02 受診した医療機関の近くの薬局に処方箋を持ち込んで、薬を受け取っている
- 03 受診した医療機関がどこであっても、いつも決まった薬局に処方箋を持ち込んで、薬を受け取っている
- 04 薬を処方されることがほとんどない

問 25-1 【問 25 で 03 を選んだ方のみ】その薬局をいつも利用している主な理由は何ですか。【複数回答】 47

- 01 以前からよく利用している薬局だから
- 02 自宅から近いから
- 03 勤務地から近いから
- 04 受診している病院・診療所から近いから
- 05 医療機関や知人などから評判を聞いたから
- 06 信頼できる薬剤師がいるから
- 07 必要な場合、処方した医師に薬の相談をしてもらえるから
- 08 服用方法や副作用、注意事項など、薬について丁寧に説明してくれるから
- 09 服用方法を変更するなど、薬を飲みやすくする相談に応じてくれるから
- 10 服用する薬の種類を減らす相談に応じてくれるから
- 11 ジェネリック医薬品(後発医薬品)について説明してくれるなど、あなたの薬代を安くする方法について相談に応じてくれるから
- 12 処方された薬以外の医薬品や介護用品について、様々な相談に応じてくれるから
- 13 いつでも電話相談などの連絡が可能だから
- 14 深夜や休日などの緊急時にも対応してくれるから
- 15 必要な場合、自宅を訪問して薬の管理・指導をしてくれるから
- 16 その他( )

問 26 あなたは、2016(平成 28)年度から、患者が 1 人の決まった薬剤師を「かかりつけ薬剤師」として選択することで、自分が受診している医療機関や飲んでいる薬を全て把握してもらった上で、薬に関する適切な指導を受けたり、相談にいつでも対応してもらえたりする仕組みができたことをご存じですか。また、このような「かかりつけ薬剤師」を利用したことがありますか。【単数回答】 48

- 01 知っており、利用したことがある
- 02 知っているが、利用したことはない
- 03 知らない

問 27 あなたのお薬手帳(いつ、どこで、どんな薬を処方されたかを記録しておく手帳)の利用状況として最も近いものをお選びください。【単数回答】 49

- 01 お薬手帳を持っており、薬を受け取る際には必ず提示するようにしている
- 02 お薬手帳を持っているが、持ち出し忘れなどのために提示せずに薬を受け取ることが多い
- 03 お薬手帳がどのようなものかは知っているが、持っていない
- 04 お薬手帳について、よく知らない

問 28 ジェネリック医薬品を服用したことがありますか。【単数回答】 50

- 01 服用したことがあり、現在も服用を続けている
- 02 服用したことがあるが、現在では服用をやめている
- 03 服用したことはない

問 28-1【問 28 で 01、02 を選んだ方のみ】ジェネリック医薬品を服用することになったきっかけは何ですか。【複数回答】 51

- 01 医療保険者から送られてきたジェネリック軽減額通知(差額通知など)\*をみて
- 02 医療機関で医師にすすめられた
- 03 薬局で薬剤師にすすめられた
- 04 誰からもすすめられていないが、自発的に希望した
- 05 その他( )

※ ジェネリック軽減額通知(差額通知など):処方された薬をジェネリック医薬品に切り替えることにより、どのくらい薬代(薬剤料)の自己負担額が軽減されるかを健康保険組合や市町村国保などの保険者が具体的に試算して、例えば「ジェネリック医薬品に切り替えた場合の薬代の自己負担の軽減額に関するお知らせ」のような名前で通知してくれるサービスです。

問 28-2【問 28 で 02 を選んだ方のみ】ジェネリック医薬品の服用をやめた理由は何ですか。(○をいくつでも) 52

- 01 病気が治り、薬を飲む必要がなくなったから
- 02 病気が治ってはいないが、(先発医薬品や市販薬を含め)薬を飲むことをやめたから
- 03 病気が治ってはいないが、市販薬を飲むことに切り替えたから
- 04 普段から使い慣れている薬が良いから
- 05 薬の効き目に不安があったから
- 06 薬の安全性に不安があったから
- 07 窓口で支払う薬代がそれほど変わらなかったから
- 08 その他( )

↳問 28-3 【問 28 で 03 を選んだ方のみ】ジェネリック医薬品を服用したことがない理由は何ですか。  
(○をいくつでも) 53

- 01 病気をしないため、薬を処方されることがあまりないから
- 02 医師にジェネリック医薬品の処方を希望したが、断られたから
- 03 薬局の薬剤師にジェネリック医薬品を勧められたことがないから
- 04 薬局の薬剤師にジェネリック医薬品の調剤を断られたから
- 05 普段から使い慣れている薬が良いから
- 06 薬の効き目に不安があったから
- 07 薬の安全性に不安があったから
- 08 窓口で支払う薬代がそれほど変わらなかったから
- 09 とりあえず様子を見ようと思ったから
- 10 その他( )

問 29 あなたが、薬局・薬剤師に期待することをお選びください。【複数回答、3つまで】 54

- 01 自宅や勤務地に近いなど、立ち寄りやすい場所にあること
- 02 受診している病院・診療所から近く、処方された薬をすぐ受け取れる場所にあること
- 03 早く薬を渡してくれること
- 04 あなたの体質や病気・けがの内容、生活状況などをよく把握していること
- 05 あなたの過去の病歴や、他の医療機関を受診した際の受診内容や結果を、よく把握していること
- 06 必要に応じて、処方した医師に薬の相談をしてもらえること
- 07 服用方法や副作用、注意事項など、薬について説明してくれること
- 08 服用方法を変更するなど、薬を飲みやすくする相談に応じてくれること
- 09 服用する薬の種類を減らす相談に応じてくれること
- 10 ジェネリック医薬品(後発医薬品)について説明してくれるなど、あなたの薬代を安くする方法について相談に応じてくれること
- 11 処方された薬以外の医薬品や介護用品について、様々な相談に応じてくれること
- 12 時間外や休日にも連絡がとれること
- 13 土日や夜間の開局時間が長く、自分の生活スタイルに合っていること
- 14 必要な場合、自宅を訪問して薬の管理・指導をしてもらえること
- 15 その他( )
- 16 特になし

問 30 処方薬を受け取る薬局(複数ある場合は、最も頻繁に受け取る薬局)で実際に受けたことがあるサービスをお選びください。【複数回答】 55

- |   |
|---|
| 01 処方された薬について、医師に疑義照会(処方箋をチェックし、副作用やアレルギー、飲み合わせなどを踏まえて疑問がある場合に、医師に問い合わせることをしてくれた) |
| 02 服用する薬の種類を減らす相談に応じてくれた  |
| 03 飲み残した薬を整理する相談に応じてくれた   |
| 04 処方された薬について、副作用や飲み合わせなどの注意事項などを説明してくれた  |
| 05 薬を飲みやすくする相談に応じてくれた   |
| 06 処方された薬以外の医薬品や介護用品について、様々な相談に応じてくれた   |
| 07 その他( )   |
| 08 特になし   |

問 31 令和 4(2022)年 4 月に行われる診療報酬の改定により、症状が安定している患者について、リフィル処方箋<sup>※</sup>の仕組みが新設されることになりました。これについて、あなたの考えと合致する選択肢をお選びください。【単数回答】 56

※ リフィル処方箋とは、症状が安定している患者について、一定の期間内であれば、繰り返し使用できる処方箋を指します。薬が必要なときに、薬局でリフィル処方箋を提出すれば、医師の診察を受けなくても薬をもらうことができます。  
令和 4(2022)年 4 月の診療報酬の改定では、リフィル処方箋の総使用回数は、最大で 3 回までとし、また、有効とする期間については、患者の病状などを踏まえて医師が判断することとなる予定です。

- |   |
|---|
| 01 定期的に通院している病気やけががあるが、リフィル処方箋を受けて通院の頻度を減らしたいと思う                                |
| 02 定期的に通院している病気やけががあるが、これまで通り医師の診断を受ける方が安心であり、リフィル処方箋は希望しない                     |
| 03 現時点で定期的に通院するような病気やけがはないが、そのような病気やけがになった場合、リフィル処方箋を受けて通院の頻度を減らしたいと思う          |
| 04 現時点で定期的に通院するような病気やけがはないが、そのような病気やけがになった場合、定期的に医師の診断を受ける方が安心であり、リフィル処方箋は希望しない |

**⑩ 医療機関等を受診した際の明細書について、あなたの状況やお考えをお尋ねします。**

問 32 あなたは、この1年間に、医療機関を受診したり、薬局で処方薬を受け取ったりした際に、会計時に明細書や領収書※をもらいましたか。【単数回答】 57

※ 医療機関や薬局で受け取る「明細書」と「領収書」は以下のような違いがあります。明細書には、「再診料 80 点」、「特定疾患療養管理料 52 点」、「処方箋料(その他) 68 点」というように、「部」や「区分」の中の詳細な項目の内容と、値段の内訳が書かれています(1点 = 10 円)。これに対し、領収書は、「初・再診料 ○○点」、「検査 ○○点」など、「部」や「区分」ごとの合計の診療報酬点数しか書かれていません。

明細書の例					領収書の例					
<b>診療明細書</b>					<b>領 収 証</b>					
入院外		保険			患者番号		氏 名		請求期間 (入院の場合)	
受診科		様			受診科		氏 名		年 月 日 ~ 年 月 日	
受診日					受診科 入・外		領収書No.		発行日	
					年月日		費用区分		負担割合	
									本・家	
									区分	
部	項目名				点数	回数				
初・再診	* 再診料				80	1				
	再診 明細書発行体制等加算 外来感染対策向上加算 (再診)									
医学管理等	* 特定疾患療養管理料				225	1				
検 査	* 頸部超音波検査 (断層撮影法) (心臓超音波検査を除く) (訪問診療時以外の場合) (その他)				500	1				
	超音波検査 パルスドプラ法加算 (血流同定測定のため)									
投 薬	* 処方箋料 (その他)				68	1				
	* 特定疾患処方管理加算 2 (処方箋料)				66	1				
	* 一般名処方加算 2 (処方箋料)				5	1				
※厚生労働省が定める診療報酬や薬価等には、医療機関等が仕入れ時に負担する消費税が反映されています。										

- 01 明細書をもらったことがある
- 02 明細書をもらったことはないが、領収書をもらったことはある
- 03 この1年間で受診や処方薬の受け取りはしたが、明細書も領収書ももらったことがない
- 04 この1年間で受診や処方薬の受け取りはしていない
- 05 わからない

問 33 あなたは整骨院や接骨院、鍼灸院などで、この1年間に施術を受けたことがありますか。【複数回答】 58

- 01 整骨院や接骨院などで、柔道整復師<sup>※</sup>の施術を受けたことがある
- 02 鍼灸院などで、はり・きゅう、マッサージの施術を受けたことがある
- 03 整骨院や接骨院、鍼灸院などで、施術を受けたことはない

※ 柔道整復師とは、ほねつぎ・接骨師・整骨師として広く知られ、厚生労働大臣免許の下で打撲、捻挫、挫傷(筋、腱の損傷)、骨折、脱臼などの施術をする職業の正式名称です。

問 33-1 【問 33 で 01 を選んだ方のみ】柔道整復の施術を行う整骨院や接骨院で施術を受けた際に、会計時に領収書や領収書をもらいましたか。【単数回答】 59

明細書の例	領収書の例																																																											
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>明 細 書</b></p> <p style="text-align: center;">様</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">保</td> <td style="width: 75%;">〈初検料・再検料等〉</td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>初 検 料</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>初検時相談支援料</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>再 検 料</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>〈施術情報提供料〉</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">険</td> <td>〈往療料〉</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>〈施術料等〉</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>整復・固定・治療料</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>後 療 料</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">分</td> <td>温 電 法 料</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>冷 電 法 料</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>電 療 料</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>〈その他〉</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>① 一 部 負 担 金</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>② 保 険 外</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計金額 (①+②)</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> </table> <p style="text-align: right; margin-right: 10px;">(負傷カ所) カ所</p> <p>平成 年 月 日</p> <p>上記合計金額を領収いたしました。</p> <p>住 所</p> <p>氏 名</p> <p style="text-align: right;">印</p> </div>	保	〈初検料・再検料等〉			初 検 料	円		初検時相談支援料	円		再 検 料	円		〈施術情報提供料〉	円	険	〈往療料〉	円		〈施術料等〉	円		整復・固定・治療料	円		後 療 料	円	分	温 電 法 料	円		冷 電 法 料	円		電 療 料	円		〈その他〉	円		計	円		① 一 部 負 担 金	円		② 保 険 外	円		合計金額 (①+②)	円	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>領 収 証</b></p> <p style="text-align: center;">様</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">保険分合計</td> <td style="width: 30%; text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td>① 一部負担金</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td>② 保険外</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td>合計金額 (①+②)</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> </table> <p>平成 年 月 日</p> <p>上記合計金額を領収いたしました。</p> <p>住所</p> <p style="text-align: center;">施術所名</p> <p>氏名</p> <p style="text-align: right;">電話</p> <p style="text-align: right;">印</p> </div>	保険分合計	円	① 一部負担金	円	② 保険外	円	合計金額 (①+②)	円
保	〈初検料・再検料等〉																																																											
	初 検 料	円																																																										
	初検時相談支援料	円																																																										
	再 検 料	円																																																										
	〈施術情報提供料〉	円																																																										
険	〈往療料〉	円																																																										
	〈施術料等〉	円																																																										
	整復・固定・治療料	円																																																										
	後 療 料	円																																																										
分	温 電 法 料	円																																																										
	冷 電 法 料	円																																																										
	電 療 料	円																																																										
	〈その他〉	円																																																										
	計	円																																																										
	① 一 部 負 担 金	円																																																										
	② 保 険 外	円																																																										
	合計金額 (①+②)	円																																																										
保険分合計	円																																																											
① 一部負担金	円																																																											
② 保険外	円																																																											
合計金額 (①+②)	円																																																											

- 01 明細書をもらったことがある
- 02 明細書をもらったことはないが、領収書をもらったことはある
- 03 明細書も領収書ももらったことがない
- 04 わからない

問 34 整骨院や接骨院、鍼灸院などで、柔道整復師やはり・きゅう、マッサージの施術を受けた場合、健康保険の対象となる範囲が限定されていること<sup>※</sup>をご存じですか。 60

※ 整骨院や接骨院では、急性の外傷性の骨折、不全骨折、脱臼、打撲、捻挫、肉離れのとき、健康保険でかかることができます。ただし、外傷性ではなく、いつ負傷したかはっきりしない痛みの施術は、健康保険の対象外で、全額自己負担になります。また、鍼灸院でのはり・きゅう・あんま・マッサージの場合は、特殊な疾病や症状のため、医療機関で通常行う療養を行っても効果が得られず、あんま師、はり師、またはきゅう師の施術によれば相当の効果が期待できるものとして、医師がその必要性を認めた場合に限って、健康保険を使うことができます。

- 01 知っている
- 02 知らない

## ⑪ 医療機関や受診のあり方について、あなたのお考えをお尋ねします。

問 35 現在の日本の医療の状況に対してどのように感じですか。【単数回答】 61

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 01 かなり満足している | 02 やや満足している |
| 03 やや不満である   | 04 かなり不満である |
| 05 どちらともいえない |             |

問 36 これまでの経験から、あなたは医療機関に対して、特にどのような要望を持っていますか。【複数回答】 62

- |  |
|--|
| 01 病気やけがの状態、見通しについてよく説明してほしい                 |
| 02 治療の方針についてよく説明してほしい                        |
| 03 治療にあたり、生活において気を付けるべきことについてよく説明してほしい       |
| 04 かかる医療費の見通しについてよく説明してほしい                   |
| 05 その医療機関の得意分野を教えてください                       |
| 06 難しい病気のとときは、専門の医療機関を紹介してほしい                |
| 07 セカンドオピニオンなどの他の医師の診断を受けやすくしてほしい            |
| 08 医師、看護師、受付職員はもっと親切にほしい                     |
| 09 患者の訴えを十分に聞いてほしい                           |
| 10 選択肢を提示して、治療方針を自分や家族に決めさせてほしい              |
| 11 検査はあまりしないでほしい                             |
| 12 注射や投薬はあまりしないでほしい                          |
| 13 仕事などを休まずとも受診できるよう、土曜・休日や夜間などの診療時間を広げてほしい  |
| 14 救急の時は、土曜・休日や夜間であっても診察してほしい                |
| 15 往診の依頼に応じてほしい                              |
| 16 現在かかっている病気以外でも気軽に健康相談に応じてほしい              |
| 17 (外来診療に当たり)待ち時間を短くしてほしい                    |
| 18 (外来診療に当たり)順番待ち状況について、インターネット上でわかるようにしてほしい |
| 19 (外来診療に当たり)待合室をもっと快適にしてほしい                 |
| 20 (入院診療に当たり)入院待ち日数を短くしてほしい                  |
| 21 (入院診療に当たり)病室をもっと快適にしてほしい                  |
| 22 その他( )                                    |
| 23 特に要望はない                                   |



問 37 医療機関の受診時や、医療保険に係る手続きの電子化・オンライン化などに関する下記の取組について、あなたが実際に利用したことがあるものや、普及・促進を希望するものは何ですか。それぞれについて、該当するものを全て選び欄内に○をおつけください。63-65

	知っているもの (該当するものに○)	利用したこと があるもの (該当するものに○)	普及・促進をしてほ しいもの (該当するものに○)
01 保険の加入・脱退や、扶養の変更を行う際に、手続きがインターネット上でできること			
02 マイナンバーカードが保険証として利用できること			
03 スマートフォンにマイナンバーカード機能が搭載され、保険証として利用できること			
04 スマートフォンや携帯電話がお薬手帳として利用できること			
05 自分の処方された薬剤や医療費が、インターネット(マイナポータル)上で確認できること			
06 自分の健康診断の結果が、インターネット(マイナポータル)上で確認できること			
07 自分の病気の診断名が、インターネット(マイナポータル)上で確認できること			
08 より良い医療や災害時対応のために、自分自身が同意すれば、1つの医療機関で受けた治療内容を、オンラインを通じて他の医療機関などでも共有できること			
09 医療機関で受けた処方箋のデータが、オンラインを通じて薬局に送信され、同じ薬が二重に処方されていないか、飲み合わせが悪い薬どうしが処方されていないかなどのチェックを、コンピューターで受けられること			
10 その他( )			

## ⑫ 介護サービスの利用状況や要望について、お尋ねします。

問 38 【40 歳以上の方のみ】あなたは、現在も含めて今までに、ご自身が介護保険サービスを利用したことがありますか。66

- 01 現在利用している                      02 以前利用したことがある                      03 利用したことはない

問 39 あなたの家族の中に、現在も含めて今までに、寝たきりなどになって、介護が必要になった方がいらっしゃいますか。67

- 01 いる    02 いない

問 39-1 【問 39 で 01 を選んだ方のみ】介護が必要になった家族の中で、現在、介護保険サービスを利用している方はいらっしゃいますか。68

- 01 いる    02 いない

問 39-2 【問 39-1 で 01 を選んだ方のみ】利用している介護保険サービスを教えてください。【複数回答】69

- 01 自宅(高齢者向け住宅などを除く)において、訪問介護や訪問看護などの訪問サービスを利用している  
02 高齢者向け住宅などに入居し、訪問介護や訪問看護などの訪問サービスを利用している  
03 通所介護(デイサービス)や通所リハビリテーション(デイケア)などの通所サービスを利用している  
04 認知症高齢者グループホームに入居している  
05 介護付有料老人ホームなどの特定施設に入居している  
06 特別養護老人ホームや老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院に入所している  
07 その他(    )

問 40 介護保険サービスの拡大・充実に関する要望として最も近いものをお選びください。【単数回答】70

- 01 訪問介護(ホームヘルプ)や訪問看護などの、訪問サービスの整備を進めてほしい  
02 通所介護(デイサービス)や通所リハビリテーション(デイケア)などの、通所サービスの整備を進めてほしい  
03 認知症高齢者グループホームや介護付有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅などの整備を進めてほしい  
04 特別養護老人ホームや老人保健施設、介護医療院などの施設の整備を進めてほしい  
05 その他(    )  
06 特になし

### ⑬ 高齢期の生活・療養場所、終末期医療などに対する、あなたのお考えをお尋ねします。

問 41 仮に、あなたご自身が高齢期に寝たきりになり、介護が必要となった場合に、どこで介護を受けたいと考えますか。【単数回答】 71

- |           |          |         |
|-----------|----------|---------|
| 01 自宅     | 02 病院    | 03 介護施設 |
| 04 その他( ) | 05 わからない |         |

問 41-1 【問 41 で 01 を選んだ方のみ】その理由は何ですか。【複数回答】 72

- |                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| 01 在宅(自宅)で十分な介護が受けられるから | 02 現在の住まいで生活を続けたいから   |
| 03 施設で他人の世話になるのはいやだから   | 04 他人との共同生活はしたくないから   |
| 05 施設では自由な生活ができないから     | 06 施設に入るだけの経済的余裕がないから |
| 07 施設を利用することに抵抗を感じるから   | 08 具体的に施設を知らず、不安だから   |
| 09 その他( )               | 10 わからない              |

問 42 あなたは今までに、家族や親族などについて、終末期にどのような医療を受けるかを決める過程に関わったりしたことがありますか。【複数回答】 73

- |   |
|---|
| 01 関わった経験はない。   |
| 02 関わった経験はあるが、まだ終末期にどのような医療を受けるかは決まっていない。または、決まる前に、その家族・親族などが亡くなった。 |
| 03 関わった経験があり、終末期にどのような医療を受けるかも決まっている。その家族・親族などは存命中である。              |
| 04 関わった経験があり、終末期にどのような医療を受けるかも決まっていた。その家族・親族などは既に亡くなっている。           |

問 42-1 【問 42 で 02, 03, 04 を選んだ方のみ】家族や親族などについて、終末期にどのような医療を受けるかを決めるにあたり、誰と相談しましたか。【複数回答】 74

- |                    |                |
|--------------------|----------------|
| 01 本人(終末期の医療を受ける人) | 02 他の家族・親族     |
| 03 かかりつけ医          | 04 かかりつけ医以外の医師 |
| 05 医師以外の医療スタッフ     | 06 介護スタッフ      |
| 07 その他             |                |

問 42-2 【問 42 で 03, 04 を選んだ方のみ】家族や親族などについて、終末期にどのような医療を受けるかを決めるにあたり何が判断材料となりましたか。【複数回答】 75

- |                      |                            |
|----------------------|----------------------------|
| 01 決める過程で本人が口頭で示した意思 | 02 決める過程で本人が書面で示した意思       |
| 03 過去の本人の言動※         | 04 本人が過去に作成していた意思確認書などの書面※ |
| 05 家族・親族の意向          | 06 医師のアドバイス                |
| 07 医師以外の医療スタッフのアドバイス | 08 介護スタッフのアドバイス            |
| 09 その他               |                            |

※ 決める過程において、認知症などのために本人の意思の確認が難しい場合を想定しています。

問 43 あなたは今までに、ご自身について、終末期にどのような医療を受けるかを考えたり、決めたりしていますか。【複数回答】 76

- 01 まだ考え始めていない
- 02 考え始めてはいるが、家族などの周囲の人と話し合ったことはなく、まだ決めていない
- 03 考え始めており、家族などの周囲の人と話し合ったこともあるが、まだ決めていない
- 04 すでに決めているが、家族などの周囲の人と話し合ったことはない
- 05 すでに決めており、家族などの周囲の人と話し合ったことがある

問 43-2 【問 43 で 04, 05 を選んだ方のみ】ご自身について、終末期にどのような医療を受けるかについて、どのように意思表示していますか。【単数回答】 77

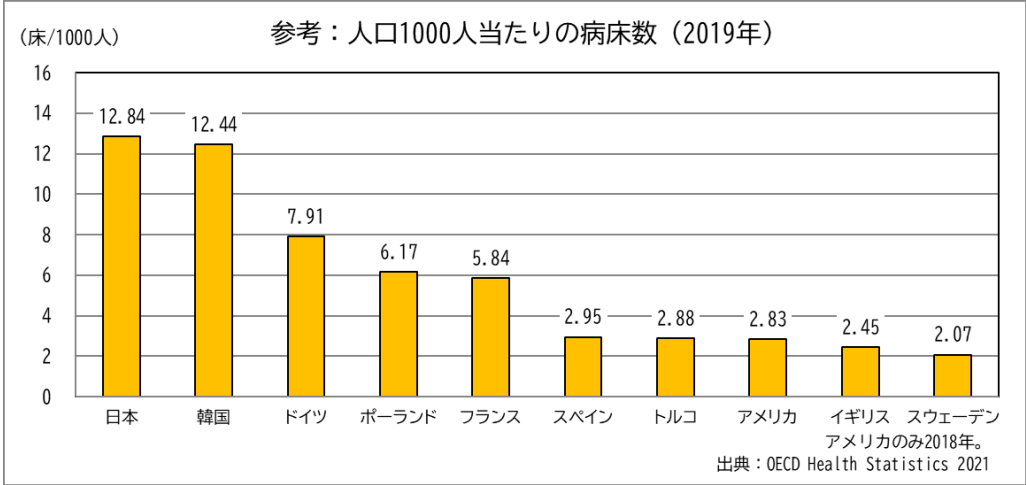
- 01 特に表明していない
- 02 口頭で、家族などの周囲の人に意思を示しているが、書面にはしていない
- 03 医師確認書など、書面で意思を示している

問 44 ご自身について、終末期にどのような医療を受けるについて、相談相手となりそうな方はいますか。【複数回答】 78

- 01 特にいない
- 02 家族・親族
- 03 かかりつけ医
- 04 かかりつけ医以外の医師
- 05 医師以外の医療スタッフ
- 06 介護スタッフ
- 07 その他

**⑭ 地域医療のあり方に関するあなたのお考えについて、お尋ねします。**

問 45 日本の医療は、人口当たりの病院・診療所の病床数が他の先進国と比べて多いことが指摘されてきました。このことについてご存じですか。 79



01 知っている 02 知らない

少子高齢化や人口減少が進む中で、地域医療の確保が難しくなりつつある地域の中には、近年、地域の医療関係者などによる協議を経て、実際に病院を再編・統合する計画を立てつつあるところも出てきています。

問 46 病院の再編・統合について、あなたのお考えに近いものを選択してください。【複数回答】 80

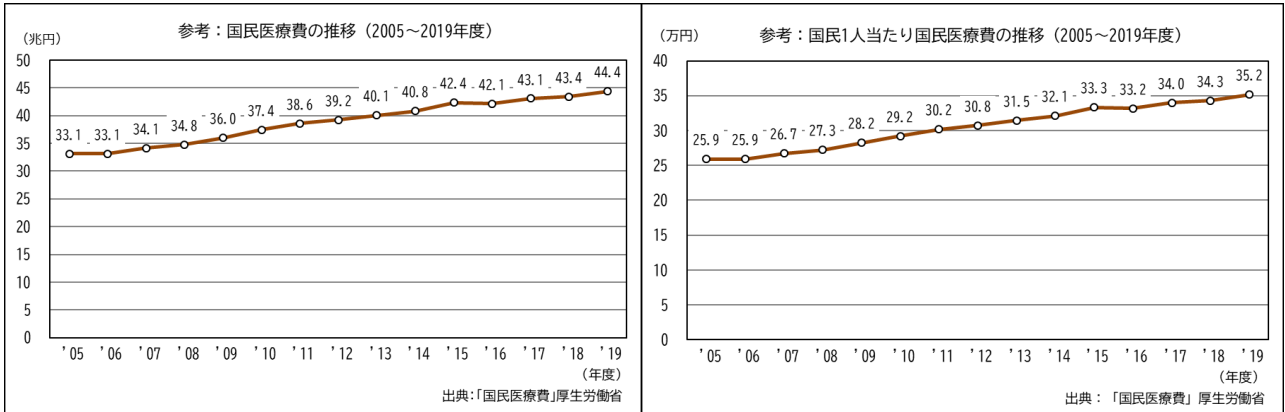
- 01 統合された病院の機能が充実するのであれば、病院の再編・統合に賛成である
- 02 人口減少により医療の需要が減っている場合は、病院の再編・統合はやむを得ない
- 03 医療従事者の確保が難しい場合は、病院の再編・統合はやむを得ない
- 04 税金の投入や国民の負担を増やしても、病院の再編・統合はすべきでない

## ⑮ 医療費・介護費の負担とサービスに関するお考えについて、お尋ねします。

問 47 令和元(2019)年度の日本の国民医療費<sup>※1</sup>は 44 兆 3,895 億円<sup>※2</sup>で、国民所得に対する割合は 11.06%です。また、国民1人当たり医療費は 35 万 1,800 円です。国民医療費、1人当たり国民医療費は、いずれも増加傾向にあります(下のグラフ)。この医療費は、保険料や税金、医療機関にかかった時の患者負担などの形で、国民が負担しています。あなたは、この負担をどのように感じますか。【単数回答】 81

※1 「国民医療費」とは、保険診療の対象となりうる傷病の治療に要した費用を指し、病院や診療所で受けた診療費や、薬局で受けた調剤の費用、医療保険による訪問看護の費用などが含まれます。保険診療の対象とならない先進医療や、特別の病室への入院、不妊治療における生殖補助医療などの費用は含みません。

※2 令和 3(2021)年度の日本の一般会計予算(歳出)は約 107 兆円です。



- 01 非常に重いと感じる
- 02 やや重いと感じる
- 03 どちらともいえない
- 04 やや軽いと感じる
- 05 非常に軽いと感じる

問 48 国民皆保険制度の下、医療については国民が保険料を負担しており、加入者 1 人当たりの保険料は、1 ヶ月当たりで約 16,300 円(令和 2(2020)年度)となっています。あなたはこの負担をどのように感じますか。【単数回答】 82

- 01 非常に重いと感じる
- 02 やや重いと感じる
- 03 どちらともいえない
- 04 やや軽いと感じる
- 05 非常に軽いと感じる

問 49 今後も、少子高齢化が進む中で、医療費が増加する一方、その支え手は減ることが見込まれます。今後の医療保険の給付と負担とのあり方について、あなたはどのように考えますか。【単数回答】 83

- 01 医療保険の給付内容を改善すべきであり、それに伴う医療費の負担増はやむを得ない
- 02 医療保険の給付内容を今の水準程度に維持すべきであり、少子高齢化による医療費の負担増はやむを得ない
- 03 医療保険の給付内容をある程度絞る一方で、少子高齢化による多少の医療費の負担増はやむを得ない
- 04 医療保険の給付内容を絞り込み、今の水準程度の医療費の負担にとどめるべき
- 05 医療保険の給付内容を大幅に絞り込み、医療費の負担を減らすべき
- 06 わからない

問 50 今後、増加する医療費を賄う方法※として、あなたはどの方法を中心とするのがよいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを選択してください。【単数回答】 84

※ 令和元(2019)年度の国民医療費の内訳は、保険料 49.4%、公費 38.3%、患者負担 12.3%です。

- 01 税金の引き上げまたは新設によって公費で賄うのがよい
- 02 保険料を引き上げによって賄うのがよい
- 03 税金も保険料も増やさずに、医療機関などにかかったときの患者の支払いを増やすのがよい
- 04 その他( )
- 05 わからない

問 50-1【問 50 で 01 を選んだ方のみ】今後、増加する医療費を賄うにあたり、次のうち、どのような税金で賄うのがよいと思いますか。【単数回答】 85

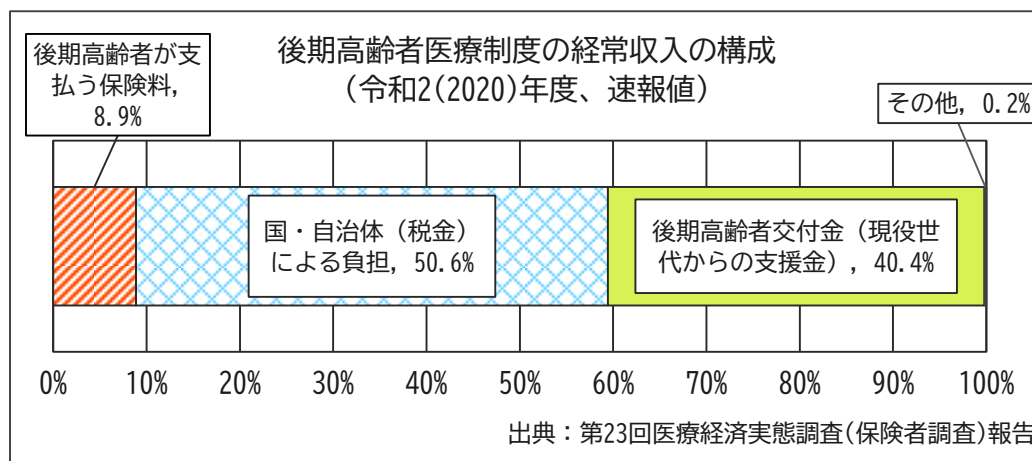
- 01 消費税の引き上げ
- 02 所得税の引き上げ
- 03 社会保障のための新しい税の創設
- 04 消費税・所得税以外の税金の引き上げ
- 05 その他( )
- 06 わからない

問 50-2【問 50-1 で 04 を選んだ方のみ】今後、増加する医療費を、消費税・所得税以外の税金の引き上げによって賄うにあたり、引き上げるべきと考える税をご記入ください。【自由回答】 86

( )

問 51 現在、75 歳以上の後期高齢者の医療費の自己負担は1割※であり、残りが保険から支払われます。また、この保険から支払われる財源は、後期高齢者が支払う保険料が約 1 割、税金による負担が約 5 割、現役世代からの支援金が約 4 割を占めています(下のグラフ)。今後、高齢者の医療費がさらに増えることが見込まれる中、高齢者の医療費をどのように負担するかについて、あなたはどの方法がよいと思いますか。【複数回答】 87

※ 75 歳以上の自己負担割合が 1 割であるのに対し、70～74 歳は 2 割、70 歳未満は 3 割です。ただし、75 歳以上であっても、現役並みの所得がある方の自己負担は 3 割です。また、令和 4(2022)年 10 月から一定の(単身世帯の場合、年収 200 万円以上)の収入がある 75 歳以上の方の自己負担が、2 割に引き上げられる予定です。



- 01 患者自身の受診時の自己負担割合を引き上げる
- 02 後期高齢者の医療保険の財源として、高齢者自身による保険料の負担を増やす
- 03 後期高齢者の医療保険の財源として、税金による負担を増やす
- 04 後期高齢者の医療保険の財源として、現役世代が支払う保険料からの支援金を増やす
- 05 その他( )
- 06 わからない

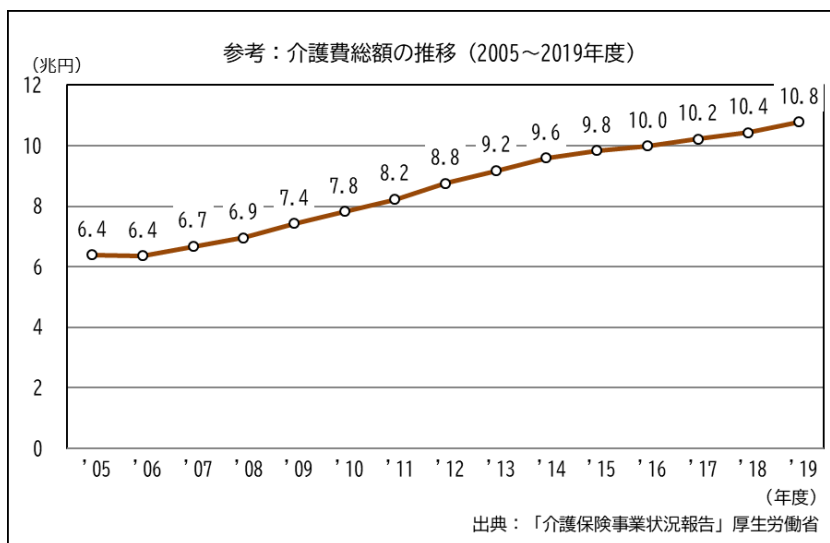


問 52 増加する医療費を抑制するため、現在、ジェネリック医薬品の普及など、医療費を適正化するための各種の施策が進められています。今後、さらに少子高齢化が進む中で、下記のような医療サービスの給付範囲を見なおしたり、自己負担を求めたりすることについて、やむを得ないと考えますか。やむを得ないと思うものをお選び下さい。【複数回答】 88

- 01 程度の軽い病気やけがで医療機関を受診した際の、患者の費用負担を増やしたり、保険の適用から外したりする
- 02 処方箋がなくてもドラッグストアなどで購入できる薬(OTC 薬)と成分が同じ医薬品を、保険の適用から外す
- 03 進歩した医療技術(新薬、再生医療など)のうちきわめて高額なものについて、患者の費用負担を増やしたり、保険の適用から外したりする
- 04 薄く広く負担を求める観点に立って、医療機関を受診した際に、現在の自己負担に上乗せする形で、一定額の自己負担を求める
- 05 01～04 のような保険給付の見直しや患者の自己負担を増やすことには反対である
- 06 わからない
- 07 その他( )

問 53 平成 26(2014)年度の日本の介護保険サービスにかかった金額は 10 兆 7862 億円※で、国民所得に対する割合は 2.96%です。この金額は、増加傾向にあります(下図)。あなたは、日本の介護費総額の水準をどのように感じますか。【単数回答】 89

※ 令和 3(2021)年度の日本の一般会計予算(歳出)は約 107 兆円です。



- 01 非常に多いと感じる
- 02 やや多いと感じる
- 03 どちらともいえない
- 04 やや少ないと感じる
- 05 非常に少ないと感じる

問 54 介護保険制度では、原則として 40 歳以上の全ての国民が保険料を負担しており、被保険者の保険料は1ヵ月当たり平均で約 6,000 円(令和 3(2021)年度)となっています。あなたは、この負担をどのように感じますか。【単数回答】 90

- 01 非常に重いと感じる
- 02 やや重いと感じる
- 03 どちらともいえない
- 04 やや軽いと感じる
- 05 非常に軽いと感じる

問 55 介護保険サービスの利用者はかかる費用の原則1割分<sup>\*</sup>を自己負担として支払いますが、あなたは、この負担をどのように感じますか。【単数回答】 91

※ ただし、現役並みの所得がある方の自己負担は3割、それ以外で一定以上の所得(単身世帯の場合、年収 280 ~340 万円など)の方の自己負担は2割です。

- 01 非常に高いと感じる
- 02 やや高いと感じる
- 03 どちらともいえない
- 04 やや低いと感じる
- 05 非常に低いと感じる

問 56 今後も、少子高齢化が進む中で、医療費と同様、介護費も増加する一方、その支え手は減ることが見込まれます。今後の介護保険の給付と負担とのあり方について、あなたはどのように考えますか。【単数回答】 92

- 01 介護保険の給付内容を改善すべきであり、それに伴う介護費の負担増はやむを得ない
- 02 介護保険の給付内容を今の水準程度に維持すべきであり、少子高齢化による介護費の負担増はやむを得ない
- 03 介護保険の給付内容をある程度絞る一方で、少子高齢化による多少の介護費の負担増はやむを得ない
- 04 介護保険の給付内容を絞り込み、今の水準程度の介護費の負担にとどめるべき
- 05 介護保険の給付内容を大幅に絞り込み、介護費の負担を減らすべき
- 06 わからない

問 57 現在、介護保険サービスの自己負担は1割<sup>※1</sup>であり、残りが保険から支払われます。また、保険から支払われる分の財源は、保険料や税金です<sup>※2</sup>。今後、介護費がさらに増えることが見込まれる中、介護費をどのように負担するかについて、あなたはどの方法を中心とするのがよいと思いますか。【単数回答】 93

※1 ただし、現役並みの所得がある方の自己負担は3割、それ以外で一定以上の所得(単身世帯の場合、年収280～340万円など)の方の自己負担は2割です。

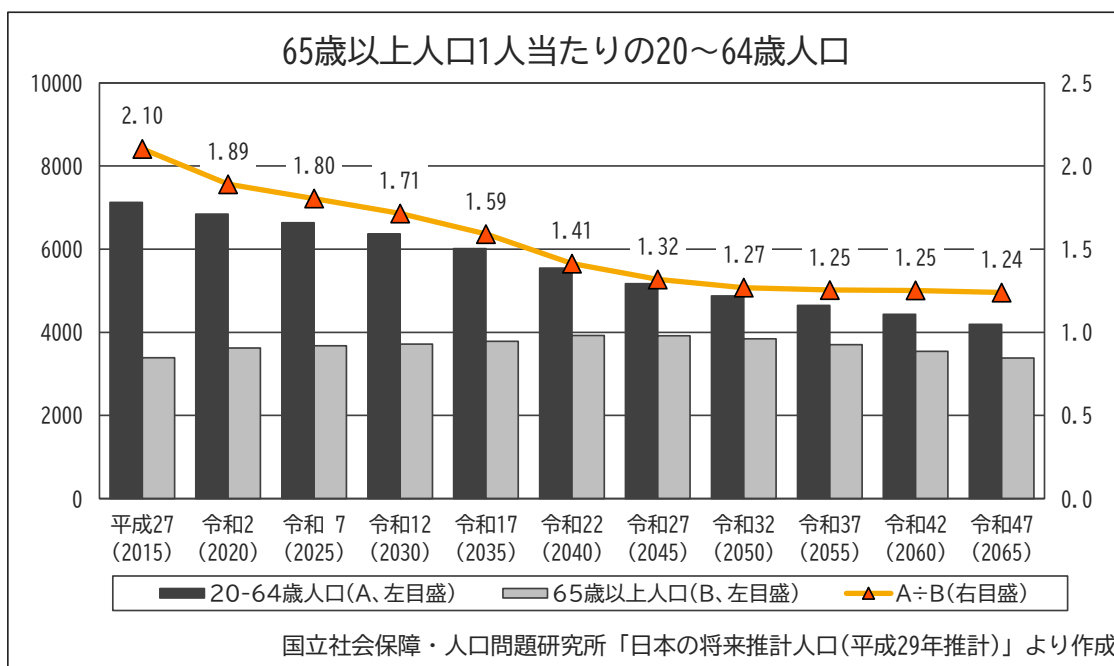
※2 介護サービスに対する保険からの支払い(給付)の財源は、公費(税金)から50%、65歳以上の方が支払う保険料から23%、40～64歳の方が支払う保険料から27%となっています。

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 01 介護サービスを利用したときの利用者の自己負担を増やすのがよい |
| 02 税金の引き上げまたは新設によって賄うのがよい         |
| 03 高齢者の保険料を引き上げるのがよい              |
| 04 現役世代の保険料を引き上げるのがよい             |
| 05 その他( )                         |
| 06 わからない                          |

問 58 今後、増加する介護費を抑制しようとした場合に、給付範囲を見なおしたり、自己負担を求めたりすることについて、やむを得ないと考えますか。やむを得ないと思うものをお選び下さい。【複数回答】 94

- |  |
|--|
| 01 給付の重点化の観点から、要介護度の軽い人に関する介護サービスの給付を見直す   |
| 02 介護施設における室料の費用を、在宅との公平性の観点から、保険の適用外とする   |
| 03 現在は利用者負担のないケアマネジメントに対して、利用者負担を導入する      |
| 04 01～03のような保険給付の見直しや利用者の自己負担を増やすことには反対である |
| 05 わからない                                   |
| 06 その他( )                                  |

問 59 少子高齢化がいつそう進むため、1人の高齢者を支える現役世代の人数は、今後も減り続けることが予想されます(下のグラフ)。医療費や介護費の現役世代と高齢者世代との負担の今後の在り方について、あなたのお考えに最も近いものを選択して下さい。【単数回答】 95



- 01 現役世代が高齢者世代を支えている負担の重さを考えると、少子高齢化が進む中で高齢者世代の負担が重くなることはやむを得ない
- 02 高齢者世代の負担増を求めることは難しく、今後も現役世代の負担が重くなることはやむを得ない
- 03 わからない



医療保障総合政策調査・研究基金事業  
医療・介護に関する国民意識調査  
報告書

令和5年3月

健康保険組合連合会  
〒107-0052 東京都港区赤坂8丁目5番26号  
住友不動産青山ビル西館内  
TEL:03-3403-0928

禁無断転載